

山形村遺跡発掘調査報告書 第12集

S A N Y A D U K A Ⅲ

三夜塚遺跡Ⅲ

・農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査報告書・

2002.3

長野県山形村教育委員会

S A N Y A D U K A Ⅲ

三夜塚遺跡Ⅲ

- 農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査報告書 -

2002.3

長野県山形村教育委員会



調査地から唐沢川扇状地を望む



SB-01 遺物出土状況



SB-12 炉址



SB-06 埋甕

発刊にあたって

山形村内には、現在40箇所余の遺跡が存在すると知られています。これらの遺跡は、米づくりを本格的に行う前の縄文遺跡がほとんどでありまして、水の確保に散々苦勞させられてきた、我が村の状況を反映しているといえましょう。緑麗しい農作物が実り、今日の豊かな農村風景になったのは、灌漑設備が整った昭和40年代以降であり、村の歴史から言えばごく最近の事だとあらためて実感する次第です。

そんな数多くの縄文遺跡が存在する本村でも、三夜塚遺跡は特に有名であります。昔から農業中に土器の破片、矢尻や石斧等の石器が数多く拾われました。この地で農業を営むものであれば誰もが知っていますし、また子供の頃に土器拾いをしたと言う方も多く、広く住民に周知された遺跡であります。

この度遺跡内の農道が舗装されることになりましたが、工事による遺跡の破壊が避けられない状況であったため、事前に詳細な発掘調査を行い記録保存することになりました。調査により、今から約4,500から4,000年前の、縄文時代の集落跡が見つかりました。家の跡である竪穴式住居、食物の煮炊きに使ったであろう土器、獣を狩るための矢尻、狩った獣を解体する石のナイフ、木を切るための石斧等々、縄文人の生活を今に伝える資料が数多く掘り出されました。

この度成果が発掘調査報告書としてまとまりました。本書を通じて山形村の古を知り、文化財への関心と理解が更に深まればと願うものであります。

調査実施にあたって、農道沿線で耕作される皆様には、作業に支障をきたす事もあったかと存じますが、ご理解とご協力を賜り終始円滑に完了することができました。35度を超える炎暑の中、現場作業に携わっていただいた皆様や、土器の洗浄・復元など、細かく慎重を要す整理作業をしていただいた皆様のご尽力により、調査を完遂することができました。最後となりましたが、ご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

平成14年 3月

山形村教育委員会

教 育 長 上 條 勝

例 言

- 1 本書は、平成13年6月29日から9月22日に実施された、長野県東筑摩郡山形村下竹田地区に存在する、三夜塚（さんやづか）遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、平成12年度から2カ年にわたって実施された、農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査である。平成13年度事業実施箇所において、埋蔵文化財の破壊が避けられない状況であったため、山形村教育委員会が平成13年度に調査及び本書の作成を行ったものである。
- 3 本調査及び遺物整理作業にあたっては、以下の方々の御協力を得た。記して感謝申し上げます。
井口くみ子 池上 英夫 池上 由子 清原 岩戸 倉科真佐子 蔵本 寛
興 春雄 笹川 尚子 寺井 愛 直井由加里 中島 将喜 林 武佐
原 和明 真関きよ子 (50音順)
- 4 航空写真撮影を株式会社スカイサーバイに委託し実施した。また石器実測図の作成を、株式会社写真測図研究所に概ね委託のうえ実施した。
- 5 発掘調査に従事いただいた作業員は一部を、(社)松本地域シルバー人材センターより派遣いただいた。
- 6 石器の材質鑑定は、森義直氏に依頼した。また氏の鑑定により軟玉等、新潟県糸魚川産に結びつく遺物に関しては、糸魚川市立フォッサマグナムミュージアムの宮島宏氏に依頼し、化学分析を行った。報文中これに関する記述を行っているが、両氏より御教授頂いた事をまとめたものであり、事実関係を含めて文責は和田にある。
- 7 現地調査から報告書作成の過程で、以下の方々より御教示・御指導を賜った。御芳名を記して厚く感謝申し上げます。(敬称略)
小林 康男 小松 学 島田 哲男 直井 雅尚 中野 拓郎 樋口 昇一
柳沢 亮 山下 泰永 綿田 弘美
- 8 本文の執筆及び編集は、和田和哉（山形村教育委員会社会教育係）が行った。
- 9 引用及び参考文献はP66に収めた。
- 10 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類（図面・写真等）は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は、山形村ふるさと伝承館（〒390 - 1301 長野県東筑摩郡山形村3866 TEL 0263 - 98 - 3938）に、調査の記録類は、山形村農業者トレーニングセンター（〒390 - 1301 長野県東筑摩郡山形村2040 - 1 TEL 0263 - 98 - 3155）に収蔵されている。

凡 例

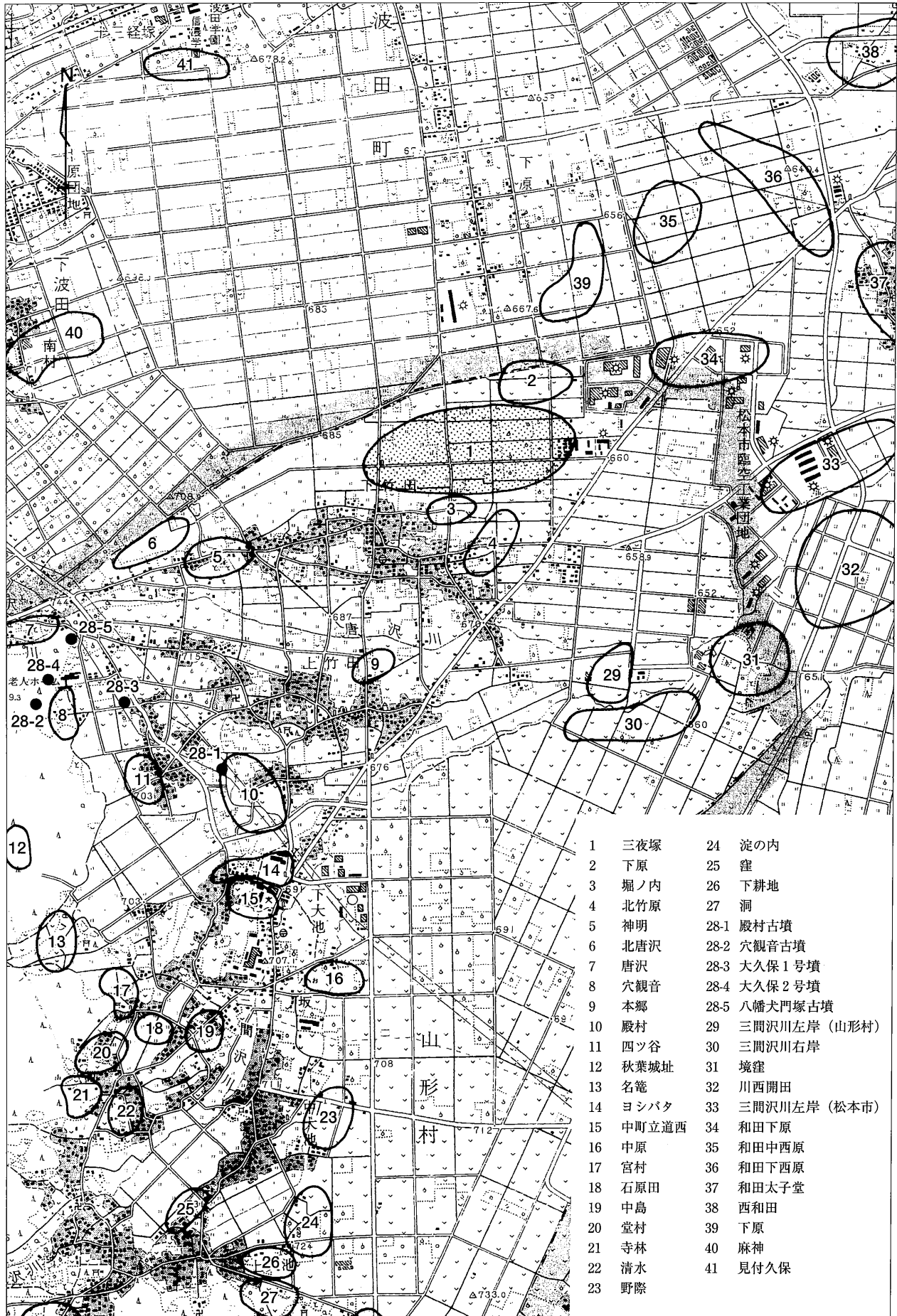
- 1 本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。
SK → 土壙 SP → ピット SB → 竪穴式住居址 SX → 不明遺構
- 2 図中のレベルは海拔高である。
- 3 図中の方位記号は、東西に横長な調査区の遺構図を作成するのに円滑に進むべく、東西方向に直線な1本の基準線を任意に設け、それをそのまま用いている。よって真北より西へ1° 14' 49" 振れている。
- 4 遺構実測図の縮尺は次のとおりである。
遺構配置図 → 1:80 各遺構平面図・断面図 → 1:60
- 5 主な遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
土器 → 1:4 土器拓影図 → 1:3 小型の石器《石鏃・石錐・石槍》 → 2:3
中型の石器《打製石斧・磨製石斧・磨石類》 → 1:4 大型の石器《石皿類》 → 1:6
- 6 本調査で用いた土色は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
- 7 遺物番号は、本文、挿図、挿表、写真図版と一致する。
- 8 挿図中におけるスクリーントーンは、遺構図使用のものは被熱化範囲を、土器実測図番号7使用のものは黒色固化物付着を、土器実測図番号69使用のものは朱の付着を意味する。

目 次

卷頭図版	序 文	例 言	目 次	挿図目次
I	序説			1
1	調査にいたる経過			1
2	調査体制と経過			1
3	作業の経過			2
II	遺跡の立地と歴史的環境			3
1	遺跡の立地と地形			3
2	過去の調査と周辺遺跡			3
III	調査の結果			5
1	調査の方法			5
2	検出遺構			5
①	竪穴式住居址			5
②	土壙・ピット			22
③	その他の遺構			25
3	出土遺物			32
①	土器			32
②	石器			66
③	土偶			66
④	石製品			66
IV	まとめにかえて			68
	写真図版			

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡	第24図	縄文土器 (6)	39
第2図	発掘調査範囲	第25図	縄文土器 (7)	40
第3図	遺構配置図 (1)	第26図	縄文土器 (8)	41
第4図	遺構配置図 (2)	第27図	縄文土器 (9)	42
第5図	遺構配置図 (3)	第28図	縄文土器 (10)	43
第6図	遺構配置図 (4)	第29図	縄文土器 (11)	44
第7図	遺構配置図 (5)	第30図	縄文土器 (12)	45
第8図	遺構配置図 (6)	第31図	縄文土器 (13)	46
第9図	遺構配置図 (7)	第32図	縄文土器 (14)	47
第10図	竪穴式住居址 (1)	第33図	縄文土器 (15)	48
第11図	竪穴式住居址 (2)	第34図	縄文土器 (16)・土偶	49
第12図	竪穴式住居址 (3)	第35図	縄文土器拓影 (1)	50
第13図	竪穴式住居址 (4)	第36図	縄文土器拓影 (2)	51
第14図	竪穴式住居址 (5)	第37図	縄文土器拓影 (3)	52
第15図	竪穴式住居址 (6)	第38図	縄文土器拓影 (4)	53
第16図	土壙 (1)	第39図	縄文土器拓影 (5)	54
第17図	土壙 (2)	第40図	石器 (1)	55
第18図	土壙 (3)	第41図	石器 (2)	56
第19図	縄文土器 (1)	第42図	石器 (3)	57
第20図	縄文土器 (2)	第43図	石器 (4)	58
第21図	縄文土器 (3)	第44図	石器 (5)	59
第22図	縄文土器 (4)	第45図	石器 (6)・石製品	60
第23図	縄文土器 (5)	第46図	EPMA分析チャート	67



- | | | | |
|----|-------|------|--------------|
| 1 | 三夜塚 | 24 | 淀の内 |
| 2 | 下原 | 25 | 窪 |
| 3 | 堀ノ内 | 26 | 下耕地 |
| 4 | 北竹原 | 27 | 洞 |
| 5 | 神明 | 28-1 | 殿村古墳 |
| 6 | 北唐沢 | 28-2 | 穴観音古墳 |
| 7 | 唐沢 | 28-3 | 大久保1号墳 |
| 8 | 穴観音 | 28-4 | 大久保2号墳 |
| 9 | 本郷 | 28-5 | 八幡犬門塚古墳 |
| 10 | 殿村 | 29 | 三間沢川左岸 (山形村) |
| 11 | 四ツ谷 | 30 | 三間沢川右岸 |
| 12 | 秋葉城址 | 31 | 境窪 |
| 13 | 名籠 | 32 | 川西開田 |
| 14 | ヨシバタ | 33 | 三間沢川左岸 (松本市) |
| 15 | 中町立道西 | 34 | 和田下原 |
| 16 | 中原 | 35 | 和田中西原 |
| 17 | 宮村 | 36 | 和田下西原 |
| 18 | 石原田 | 37 | 和田太子堂 |
| 19 | 中島 | 38 | 西和田 |
| 20 | 堂村 | 39 | 下原 |
| 21 | 寺林 | 40 | 麻神 |
| 22 | 清水 | 41 | 見付久保 |
| 23 | 野際 | | |

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡 (S=1/25,000)

Ⅰ 序 説

1 調査にいたる経過

三夜塚遺跡は、山形村下竹田地区に存在し、北に波田町、東に松本市と接する村の北東はずれに位置する。一帯では、縄文時代中期を主とした遺物が数多く採取されており、地区の住民をはじめとして、多くの者が知る遺跡として認知されてきた。しかしながら多くの者が知っていた悪い影響として、盗掘の被害を看過することはできないであろう。遺跡出土の土器は、骨董品として広く出回っていた様であり、県内をはじめ、県外所在の縄文土器が、この遺跡の盗掘品であるという噂をよく耳にする。現在ではこの様な被害は皆無だろうが、過去の過ちは素直に反省し、今後の教訓にしていかねばならない事、あえてここで記述しておきたい。

今回の農道舗装工事箇所は、その三夜塚遺跡の中でも、最も遺物が多く採取される場所にその半分ほどが該当し、遺跡の中心部と思われる位置であった。当然当初から埋蔵文化財保護策を講じる必要があると考えられた。そこで事業主体者である山形村役場経済課と、山形村教育委員会において保護協議が持たれた訳である。農道舗装工事は、遺跡の東側を北東・南西に通る県道松本新田線から西へ向かう未舗装農道920m分であり、平成12年度に県道から西へ218～428m区間が、残り区間を平成13年度に工事实施予定であった。そのうち平成12年度工事实施区間は、遺跡の東端から更に東という場所であったゆえ、遺跡の範囲にはまず該当しないと考えられた。よってこの区間では工事の際に立会う事にし、更に西側区間について、遺構・遺物がどの範囲にどの程度存在するのか試掘確認調査を実施する旨、両者において決定された。

試掘確認調査は、トレンチ10本（第2図参照）を設け平成12年11月6日～16日まで実施された。結果第10トレンチを除く各トレンチにおいて、縄文時代中期後半に該当する遺構・遺物を確認したが、特に第6～9トレンチではおびただしい量の遺物が発見された。また第1～第4トレンチは、遺跡内を東西方向にのびる旧唐沢川河道の浅い谷状地形落ち込み内に、多少かかる箇所であったため、遺構が存在する面まで深く（第3トレンチで2.1m）、遺構・遺物の存在も疎であった。こうした試掘確認調査の結果を踏まえ、再度2者による協議が持たれた。工事は路盤の高さを概ね50cm下げて舗装する内容であり、当然遺跡が破壊される状況であったゆえ、路盤を下げない工事実施を保護側として要請した。しかし農道の形状が、周辺の畑から土を寄せ高くしてあったので、農業機械が畑に出入りしにくく危険である、畑内に降る雨水が流れずに留まってしまう状態である旨説明があった。そしてこの点を改善する目的で事業実施されるため、路盤を下げるを得ないと結論に達し、遺跡が破壊される第5～第9トレンチ区間（5940番地2 820㎡）に関し、記録保存目的の発掘調査を実施することになった。なお第4トレンチ以西については、大部分が遺構の存在する面まで達しない（舗装区間の最西端では多少達する状況であった）ことに加え、遺構・遺物の存在が疎であったゆえ、発掘調査範囲から除外された。

この様な経過で発掘調査実施の運びとなったが、調査範囲が農道であるから、沿線にて農業を営む上で様々な不都合を生むことも予測された。そこで沿線耕作者の方々に御協力賜りたい旨説明会を行い、調整を図りつつ調査を進めることで了解を賜ることができた。こうして各方面調整が整い、平成13年6月29日より作業に取りかかった。

2 調査体制と経過

調査体制は以下に掲げるとおりである。調査は平成13年6月29日より始まったが、梅雨入り最中でこれから盛夏に向かう時期であった。また範囲は820㎡と、昨今の緊急発掘調査範囲に比べれば大きくない面積であったが、幅3.5m×長さ237mと狭長で作業効率が悪く、加えて多くの遺物出土が予測されたため、2ヵ月半の調査期間を想定した。

調査には作業員10数名の参加を頂いた。梅雨の影響も少なく順調なスタートを切ったが、梅雨明け後は異常な暑さで、最高気温が35℃を超える日が連続した。また台風11号と15号の影響を少なからず受けたのに加え、調査終盤の9月中旬以降に天候がぐずついたので作業休みの日が続いた。効率よい調査進行に努めたが、上記の悪条件により、9月22日までの期間となった。

単年度で調査報告書まで刊行する計画であったため、現場作業終了後即時、整理作業に取り掛からねばならなかった。作業には作業員3人が従事し、10月15日より遺物洗浄を開始、コンテナ60箱余に1ヶ月弱を要した。その後本来であれば注記をせねばならないところであったが、報告書刊行の期限が迫っていたことから止むを得ず後回しとし、接合及び復元を開始、年内に概ね終了させた。遺物実測図の作成は、作図できる者が調査担当者しかいないため、石器は株式会社写真測図研究所へ委託した。その他の遺物に関しても、そのすべてを図化するには時間がなかったため、本来であれば

図化対象とすべき遺物を省かざるを得ない状況であった。こうして諸作業を急ピッチで行い、平成14年3月報告書刊行、全作業を終了した。

調査体制 事務局

調査担当

山形村教育委員会

上條 勝 (教育長)

中村 俊春 (教育次長)

根橋 範男 (教育次長補佐兼社会教育係長)

和田 和哉 (社会教育係主任)

3 作業の経過

【 現場作業 】

6月29日(金)	曇時々晴	調査開始。東端より重機にて表土除去。遺構面まで80cm程度。	8月7日(火)	曇時々雨	雨天中止。実施可能な位だが、連日猛暑、今日は休息日。
7月2日(月)	晴時々曇	表土除去続行。遺構面直上までバックホーを使うと、少し深く削っただけで多くの遺物が犠牲になるゆえ、上面で止め人力除去とした。プレハブ、仮設トイレ搬入。	8月8日(水)	晴時々曇	SB-09より滑石製の小型垂飾出土。
7月3日(火)	晴	表土除去続行。遺物の出土多い。本日34.1℃。	8月9日(木)	曇	SB-02・06・07床面精査。
7月4日(水)	晴	表土除去続行。作業員2人投入、現場周囲のロープ張り等下準備を行う。本日35.8℃。	8月10日(金)	晴時々曇	住居址の掘り下げを主に実施。明日よりお盆休み。
7月5日(木)	晴	重機による表土除去終了。地区設定杭打ち込み。本日35.8℃。	8月20日(月)	曇時々晴	土壙・ピットの掘削を精力的に行う。
7月6日(金)	曇後一時雨	地区設定杭打ち込み。午後雨が降り作業中止。	8月21日(火)	曇のち雨	台風11号接近。昼前雨足強くなった為以後の作業中止。
7月9日(月)	晴時々曇	作業員本格投入。遺物出土が多く表土除去を人力とした場所から作業着手。	8月22日(水)	雨	台風により雨、作業中止。
7月10日(火)	晴	人力にて表土除去、遺構精査続行。遺物出土量多い。	8月23日(木)	晴	台風通過、溜まった水を排出するのに時間を要した。
7月11日(水)	晴後曇	梅雨明け。人力にて表土除去・遺構精査続行。	8月24日(金)	晴時々曇	SB-15・16掘り下げ。SB-12は大型の石罎戸で立派。
7月12日(木)	曇時々晴	表土除去・遺構精査続行。	8月27日(月)	曇一時雨	遺構掘削続行。
7月13日(金)	曇時々晴	表土除去・遺構精査続行。	8月28日(火)	晴時々曇	SB-16掘り下げ。
7月16日(月)	曇	表土除去・遺構精査続行。遺構平面図の作図開始。	8月29日(水)	晴時々曇	遺構掘削もF区へ入る。SK-099からは中期末の土器片等がゴミ捨て状に詰まった状態で出土。
7月17日(火)	晴時々曇	表土除去・遺構精査続行。	8月30日(木)	曇一時雨	遺構掘削続行。C区は切り合いが多く足の置き場もない。
7月18日(水)	曇	表土除去終了。遺構精査続行。	8月31日(金)	曇	遺構掘削続行。
7月19日(木)	曇時々晴	遺構検出続行。	9月3日(月)	曇後雨	遺構掘削を鋭意続けるが、午後は雨降り、あまり進まず。
7月20日(金)	晴	遺構検出終了。住居址20基弱、土壙・ピットは1,000基弱ありそう。本日36.1℃、倒れそうな暑さ。	9月4日(火)	曇	住居址内ピット、F区遺構を中心に掘削。
7月24日(火)	晴	遺構検出全景写真撮影。その後遺構掘削開始。SX-001からは後期初頭称名寺式深鉢が半完形ながら出土。本日36.4℃、作業員の体調が心配。	9月5日(水)	曇時々晴	遺構掘削もG区へ入る。
7月25日(水)	晴	SB-01の覆土中には多くの土器があり吹上パターンを呈す。SB-06から土偶の顔面部分出土。	9月6日(木)	晴時々曇	G区を中心に遺構掘削。
7月26日(木)	晴時々曇	遺構掘削続行。	9月7日(金)	曇後雨	遺構掘削を急ピッチで進めるが午後は雨天中止。
7月27日(金)	晴時々曇	SB-01には土器多く、完形品も10数個体ありそう。	9月10日(月)	雨	台風15号接近。
7月30日(月)	晴時々曇	B区ピット・土壙掘削を中心に行う。	9月11日(火)	雨後曇	台風が過ぎ午後には雨が上がる。現場はぬかるんでいたが、無理して午後は作業実施。
7月31日(火)	晴	SB-01覆土掘り下げ終わり、出土状況図作成。本日36.2℃。	9月12日(水)	晴時々曇	SK-099の下層から釣手付深鉢の完形品が出土。
8月1日(水)	晴	図化急ピッチで進めるも切り合い激しく遅れ気味。本日35.8℃。	9月13日(木)	曇後晴	SB-10床面から長さ10cm強の黒曜石製石槍が見つかる。中期段階での石槍は類例が少ない。遺構掘削は漸く調査区西端へ達する。
8月2日(木)	晴	SB-07・08・09掘り下げ。SB-08床面から釣手土器出土。本日36.8℃。	9月14日(金)	曇一時雨	遺構掘削も9割方終了。
8月3日(金)	晴時々曇	SB-01遺物取り上げ、コンテナ6箱分。本日35.8℃、4日連続35℃オーバー、倒れそう。	9月17日(月)	晴時々曇	遺構掘削も終盤。
8月6日(月)	晴時々曇	SB-09・10掘り下げ。	9月18日(火)	晴	SB-10より焼町式の半完形土器出土。
			9月19日(水)	晴	航空写真撮影実施。調査成果を新聞発表。
			9月20日(木)	曇時々晴	埋壙の図化、取上げ。
			9月21日(金)	曇後雨	遺構掘削終了。午後雨だったが強行して撤収作業をした。
			9月22日(土)	晴	最終の片づけ、全作業終了。今日はやや肌寒く、秋の到来を実感。
			【 整理作業 】		
					10月中旬から土器洗い、11月中旬から土器接合・復元、年内に終了。年明けから遺物図化を急ぐ。トレース、組版、遺物写真撮影、原稿執筆をし、3月末報告書刊行。

II 遺跡の立地と歴史的環境

1 遺跡の立地と地形

三夜塚遺跡が存在する山形村は、長野県の中央、松本盆地の南西約12kmに位置し、古生代の地層に属する山地と、扇状地の堆積層によるなだらかに北東へ傾斜した平地からなっている。村の最高標高地点は唐沢山の1,745m、最低地点は唐沢川と三間沢川合流地点のおよそ650mであり、今回の調査地は665～670メートルである。鉢盛山（標高2,446m）山稜から東北方面に延びる尾根は、界沢山（1,994m）、ハト峰（1,970m）を経て唐沢山（1,745m）に達し、そこから2つに分かれ、1つは荒倉山（1,495m）から白山（1,387m）へ、もう1つは山形村の平地部に面した鳴神、御岳山（859m）の尾根へと達する。山形村を潤す河川は、この2つの尾根間を流れる唐沢川と、平地部に面した尾根の前面に振り注いだ雨を集める三間沢川、鳴音川、大池川等の流れの乏しい河川のみである。すなわち鉢盛山に落ちた雨は、南に鎖川となって朝日村を流れ、北は黒川となって梓川に注ぎ、その間に取り残された清水高原の水のみが村を潤すのである。西の山地を背景としたなだらかな平地は、南部は鎖川、北部は梓川と唐沢川との扇状地の堆積層で、厚いローム層に覆われている。また村にある昔ながらの集落は、三間沢川、唐沢川流域の低地に面し、これは鎖川・梓川・唐沢川扇状地と山脚との間にできた窪地に面する。そしてこの窪地は、数少ない村の水田地帯でもある。遺跡もここに集中している。

今回発掘した場所は、現在の唐沢川からかなり離れている。どこから水を得たのかと思うが、畑作地帯内を東西に走る凹地が残っており、明らかに昔の川だと認識できる。唐沢川がここを流れ、「i city 井上」の北を通り、松本臨空工業団地付近で三間沢川と合流していたのだろう。縄文時代に集落が営まれた際、この凹地が本流であったのか、支流であったのか判断できないが、いずれにせよこの水辺を生活の地に選んだのだろう。唐沢川は長い年月の中で流路を幾度も変えたと考えられるが、現在の唐沢川本流である通称荒川は、水利用のため人工的に水路を作ってきたと思われる。三夜塚地籍一帯は、戦前まで針葉樹や広葉樹が広がる平地林が広がっており、戦後刈り払われ畑に開墾されたのである。縄文時代には、平地林の中を川が流れていたと推測され、絶好の立地であったと考えられる。

この度の調査地点である農道は、昭和30年代実施の圃場整備の際、周りから土を寄せ高くし道路にしたもので、この盛土及び後の敷砂利層が40cm程度ある。なおこの盛土内にも若干土器等の遺物が含まれていた。その下に圃場整備前の耕作土が30cm程度あり、10cm弱のローム質黒色腐植土を挟みローム層に達す。農道の路盤から概ね80cm、旧耕作面からは40cm程度である。縄文時代の生活面は、ローム質黒色腐植土層にあると考えられたが、調査では遺構の輪郭確認が難しいため、ローム層上面を遺構面とした。なおこの場所は唐沢川扇状地上にあるゆえ、ローム層の更に下には礫層があることになるが、それは確認していない。

2 過去の調査と周辺遺跡

今回の調査地東端部分から約100m南に行った箇所に、何本かの高い木に囲まれた小さな塚があり、その塚上に「お三夜さま」-二十三夜塔が祀られている。地域の人々はこれを「三夜塚」と呼んでおり、地籍名、遺跡名の由来である。またこの近くには、戦後の開墾前まで高さ1m程の馬頭観音と刻んだ文字碑が1基建っていた。現在は上竹田の穴観音境内へ移されたが、この馬頭観音には木曾義仲にまつわる伝承がある。すなわちこの一帯には木曾義仲管轄の牧場があり、この碑の文字は義仲の武将今井兼平の祐筆が書いたと伝えられる。古代の大野牧が付近にあったとする説につながるものかと推察する。

それはともかく、この「三夜塚」から西へ800m、北へ300m、南へ200mという広大な範囲が三夜塚遺跡として登録されている。そのすべての範囲で遺物が採取されるわけではないので、唐沢川の流路に応じて集落位置を決め、移動したものと考えられ、三夜塚遺跡群と呼ぶほうがふさわしいのかもしれない。前述のとおり広く周知されているが、遺跡の範囲や内容はほとんどわかっていない。また過去に、3度学術的発掘調査が行われているが、遺跡のはずれ部分だったり、十分な調査ではなかった。

最初の調査は昭和42年に、藤沢宗平、等々力正大、小松虔の各氏と松商学園高校地歴部によって行われた。正式な調査報告書が刊行されていないため、場所を確定できないが、地元耕作者の話を知ると、今回の調査区中央付近の北側らしい。場所は確定できないが、「日本考古学年報」20に調査が報告されており、3基の住居址が発見されたとある。第1号住居址は長方形の石囲炉と柱穴の一部が発掘され、時期は加曾利E式。第2号住居址は炉の焼土、側壁、柱穴の一部が発見され、時期は加曾利E式古相。第3号住居址は完掘され、円形プランで直径6.5mを測り、時期は中期中頃。以上であ

る。出土遺物は現在散逸したものもあるが、山形村教育委員会、松本市立博物館に収蔵されている。なおこの調査を、第1次調査と呼ぶことにしたい。

昭和55年には圃場整備事業に伴い、2万㎡余を対象にグリッド調査がされた。112グリッド、448㎡を調査したが、土坑が1基と数点の縄文時代中期初頭土器が発見されたのみであり、遺跡の中心部から外れる箇所と判断された。いわば試掘確認調査の段階で終わっており、本格的な調査に至っていないので、第〇次調査と冠しない事にした。

翌昭和56年にも、三夜塚遺跡周辺で圃場整備事業が計画されていたため、遺跡該当地2,700㎡が発掘調査された。土坑5、集石群1、ピット群2が検出され、中期末から後期前葉の土器片、石器等がコンテナ15箱程出土している。この調査を第2次調査と呼ぶことにしたい。

この様に3度学術調査が行われているが、遺跡の中心部を本格的に発掘調査したものではなかった。今回の第3次調査が、初めて遺跡中心部と思われる箇所を調査したことになるのである。

さてこの地に最古の人が暮らした痕跡は、旧石器時代末までさかのぼる。この三夜塚遺跡でたった2点ではあるが、局部磨製石斧が発見されている。続く縄文時代は、草創期と早期の発見例がなく、山形村上大池淀の内遺跡（第1図24）で、前期初頭中越式期の竪穴式住居址3基まで間があく。他前期の遺跡として、山形村上大池淀の内遺跡（24）で関山式期の竪穴式住居址が1基、同下竹田唐沢遺跡（7）で諸磯式期の竪穴式住居址が4基、諸磯C式期の竪穴式住居址1基や土坑が検出された同下大池中町立道西遺跡（15）がある。中期の遺跡は数多く存在し各地に見られる。とはいうものの一気に数が増すのは中期中葉以降であるが、松本市川西開田遺跡（32）は初頭～中葉前半の集落跡で、初頭の竪穴式住居址7基、中葉前半の竪穴式住居址20基等が発見されている。他に中町立道西遺跡（15）で初頭の土坑が、淀の内遺跡（24）で初頭の土坑が見つっている。中葉以降の遺跡は山形村上竹田殿村遺跡（10）、同上大池洞遺跡（27）、淀の内遺跡（24）、波田町麻神遺跡（40）等で発掘調査が行われ、実に多くの資料を得ている。それ以外にも、発掘調査はされていないが表採遺物から、山形村小坂宮村遺跡（17）、同中大池野際遺跡（23）、同下大池名籠遺跡（13）、同下竹田下原遺跡（2）、波田町下原遺跡（39）等は、この時期の遺跡として認識するに十分な資料が採集されている。一方後期以降の遺跡は数えるほどで、波田町麻神遺跡（40）、当遺跡第2次調査出土の後期初頭～前葉の土器片、山形村小坂石原田遺跡（18）や宮村遺跡（17）で表採された後期の土器片が見られる程度である。晩期の遺物は、少し離れた松本市今井北耕地遺跡で、氷式期の土坑が発見されているだけである。

弥生時代になると、山麓沿いにある山形村・波田町では集落の立地に適した場所が少ないゆえ、発見例は限られる。その中でも山形村と松本市にまたいで位置する境窪遺跡（31）は、中期中葉前半の集落跡である。両市村で各1回調査が実施されており、松本市側にて竪穴式住居址12基等が発見されている。それ以外は断片的な発見であり、山形村下大池ヨシバタ遺跡（14）、中町立道西遺跡（15）、洞遺跡（27）、淀の内遺跡（24）、唐沢遺跡（7）で土器が数個体発見されている。また殿村遺跡（10）では、方形周溝墓が1基発見されている。この様に松本平西山側は弥生時代の遺跡が少なく、東山側の奈良井川右岸や、田川流域で発見されている様な集落跡は発見されていない。この地域一帯が、水稻耕作の場として適していないことを反映していると考えられる。

古墳時代の集落跡は、当地域で発見されていない。川西開田遺跡（32）で前期の土器が3個体出土している事のみが、集落存在に結びつきそうな発見例である。古墳に関しては、山形村上竹田地区に合計5基の小型円墳（28-1～5）を数える古墳群と、少し離れるが松本市新村に秋葉原古墳群がある。これらの古墳群に関連する集落跡が何れかの場所に存在するのであろうが、現在まで手がかりはない。なお山形村上竹田殿村古墳（28-1）からは、「錦織部」と墨書された8世紀初頭の須恵器杯が見つっている。県内最古の墨書土器で全国的にも最古級であり、渡来系氏族との関連が注目される資料である。続く奈良時代の遺跡も明瞭な痕跡はない。

平安時代になると、この地域一帯にも集落が営まれるようになる。その中でも松本市三間沢川左岸遺跡（33）は、9世紀前半に出現した大集落であり、10世紀後半まで継続した。250基以上の竪穴式住居址、掘立柱建物址群、緑釉陶器や帯金具、「長良私印」銘の銅印等、通常の集落とは違った内容の遺跡で、荘園を構成する集落であったと考えられている。またこの集落を核として、取り巻く状況で小規模な集落跡が見つっており、境窪遺跡（31）、川西開田遺跡（32）が該当する。山沿いの山形村では、灰釉陶器を伴う10世紀以降の竪穴式住居が目立ち、殿村遺跡（10）で13基、中町立道西遺跡（15）で2基、淀の内遺跡（24）で2基、洞遺跡（27）で4基が発見されている。松本市三間沢川左岸遺跡に代表される松本市縁辺部の開発（集落の誕生）は9世紀前半で、古墳時代後期に始まる奈良井川西部の神林・島立地区に遅れる事は指摘されていることであるが、山形村での状況もこれに同調していると思われる。

中世以降の調査例は、中町立道西遺跡（15）で数10基の土坑や区画溝、川西開田遺跡（32）のおびただしい数の土坑墓群がある。また山間部には、中世の山城として秋葉城址（12）、池の入城址、小坂城址等ある。内容の知られた遺跡は少なく、歴史像を描くには程遠い。

III 調査の結果

1 調査の方法

調査はまず重機によって全体の表土を除去した。縄文時代の生活面は、ローム層の上に10cm弱存在するローム質黒色腐植土層中に存在すると考えられたが、遺構の輪郭確認が難しかった為、ローム層上面まで下げ遺構面とした。重機による表土除去は、このローム質黒色腐植土層でとどめ、ローム層上面までは人力による除去を行った。ただし遺物の出土状況を判断しながら、ローム層上面まで重機による表土除去を行った部分もある。重機による表土除去が終了した段階で、3mグリッドを設定した。このグリッドは、狭長な調査区を東西に横切る任意の基準線を設け、3m毎に区切ったものであり、真北からは西へ1° 14' 49" 振れている。3mグリッドは東から1・2…10で、10を「区」でまとめ、東からA区・B区…とH区まで設けた。加えて任意に設けた東西の基準線で南北に分けたので、A1N区・A1S区…という名称をつけることになった。調査で用いたレベル高は、村で実施した下水道工事の際に測量された基準点が、村内各地にあったため、直近の三夜塚連絡班にあった基準点から引き込んだ。

遺構番号は遺構の規模・形状等により、それぞれ「1」からの通し番号をつけたが、土壙とピットに関しては、平面形が大きいか小さいかで判断したため曖昧である。これら遺構の掘削は、竪穴式住居址は4分割して掘削、堆積状況を観察、図化・記録した。土壙・ピット等は半分掘削した後、堆積状況を観察し、分層できるものや特殊なものに関しては図化・記録を行い、その他は土色・土質の記録を行い完掘した。しかし調査終盤では、止むを得ずこの工程を省いたものも少なくない点、反省しなければならない。遺物の取上げは遺構単位を基本とし、竪穴式住居址等大型の遺構は分割した単位で取上げた。なお、人力によってローム層上面まで除去したローム質黒色腐植土層中出土遺物は、グリッド毎の取り上げをし、整理作業段階で遺構出土遺物と接合する等、遺構に帰属すると判断できるものはそちらに含めた。遺構検出中に、遺構覆土上層にあった遺物を引っかけってしまった遺物等は、遺構外出土遺物として区毎に取り上げた。

遺構等の測量記録は、すべて1/20で行った。写真撮影は、モノクロネガとリバーサルフィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。また業者委託の上、航空写真撮影も実施している。

2 検出遺構

① 竪穴式住居址（第10図～第15図）

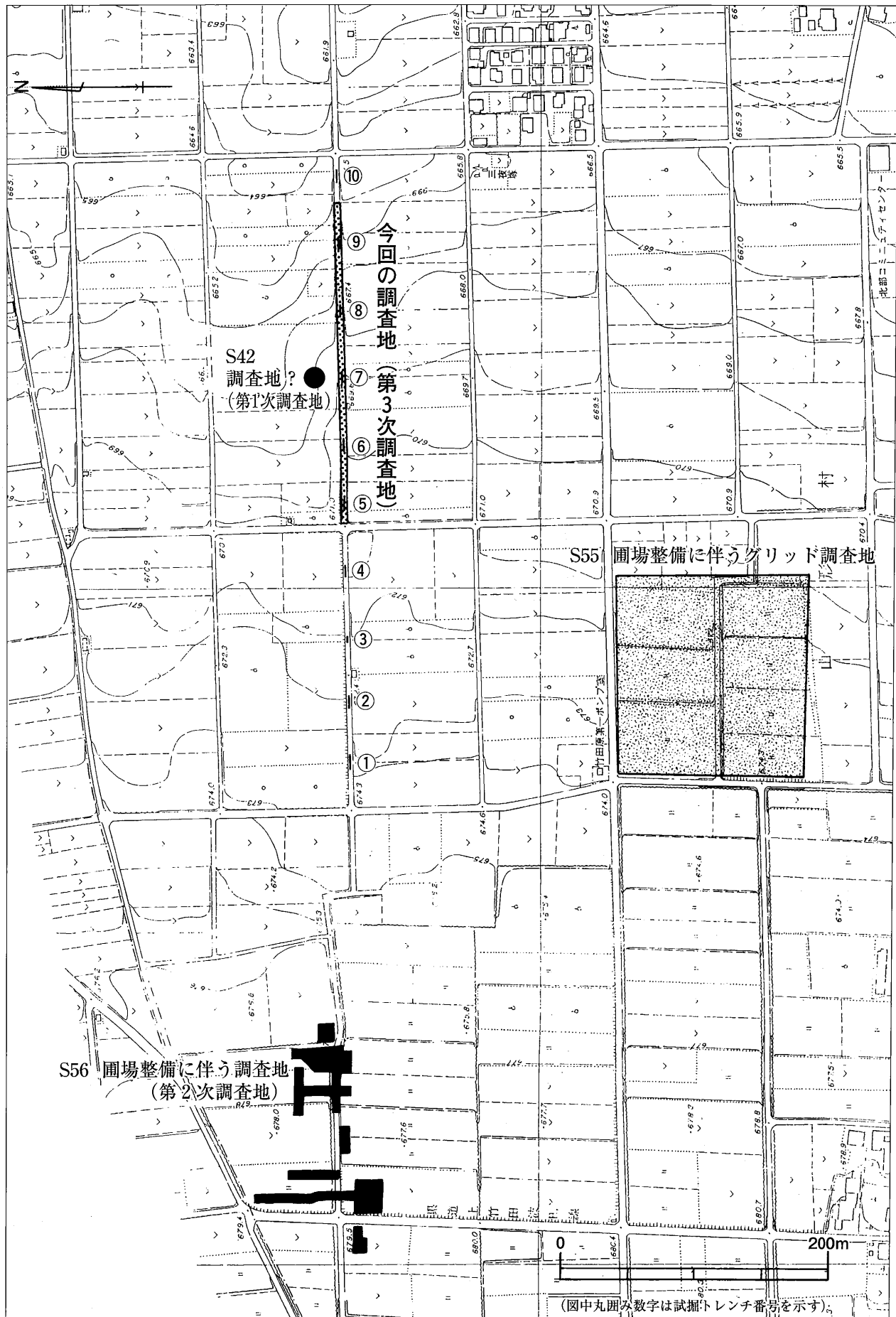
今回の調査で検出した竪穴式住居址は20基と多いが、調査範囲が3.5m幅しかなかったため、完掘できたものは1つもなく、全容を伺えるものはない。また住居址の端を少しだけ検出したもの等は、住居址として判断して良いのか否か迷ったものもある。以下住居址毎記述していきたい。

SB-01（第10図）

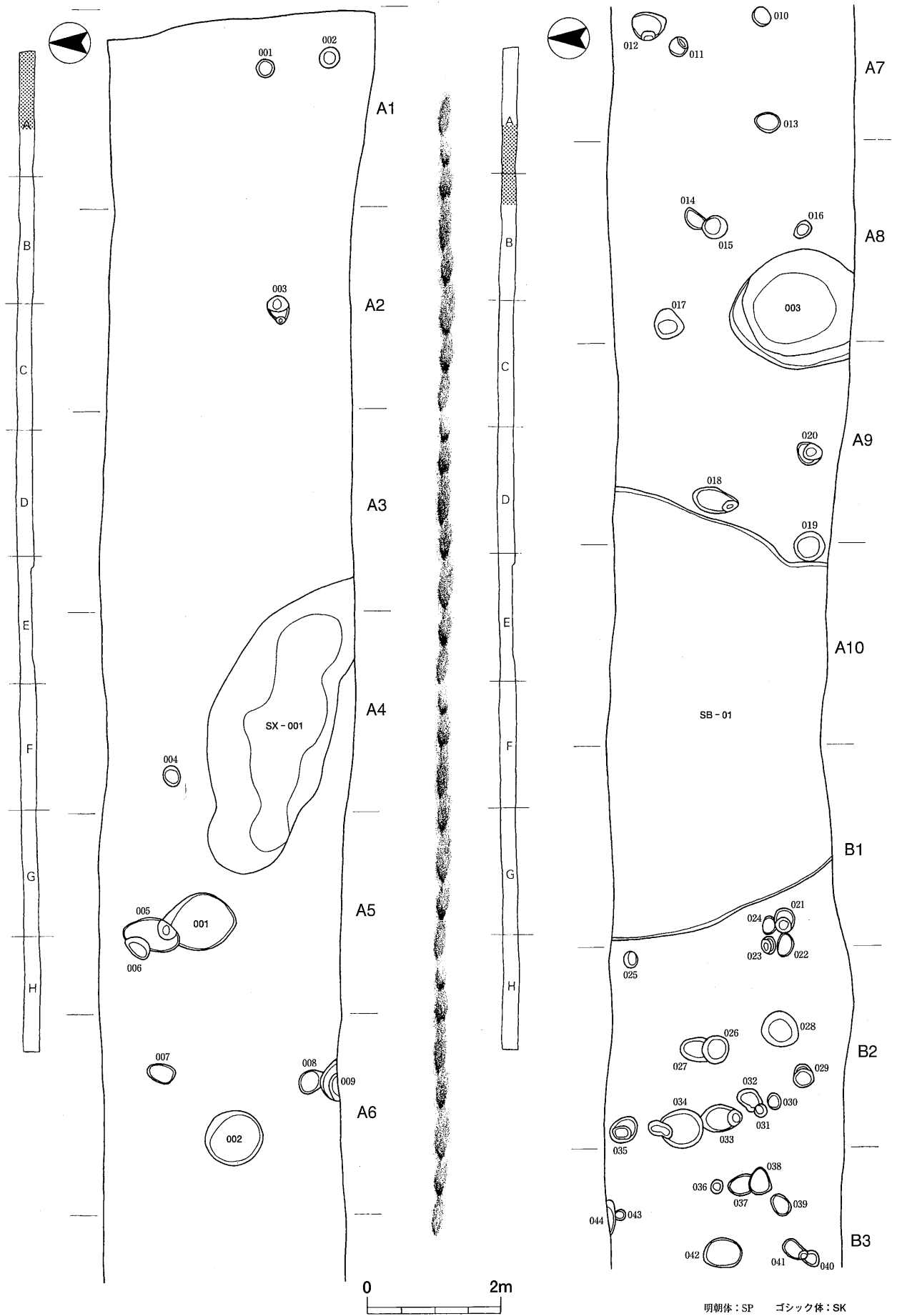
A10N・S区、B1N・S区にて検出した。北から南まで住居址壁の弧が続いているが、北側へ向かって開いていており、北端での径は6.8mを測る。床面までは20cm弱を測り、覆土は3層に分層することができた。床面は、北側中央付近で硬化しており張床を認めたが、一部焼土を含め硬化させている部分も観察された。床面からは多くの掘り込みがあり、そのすべてにピット番号を冠した。しかし、大きさ・深さ・形状が各々大きく違い、切り合いも多いので、この住居址に伴わない別遺構も含まれているように思うが、出土遺物はほぼ同一時期のものに限られている。その中でも、壁際に位置するP3・P11・P31の断面観察では、柱が据えられていた状態を呈す堆積状況を認めたので、これらは上屋構造を支える柱穴と判断した。P22は中央に位置するが、底面へ向かって挟れる袋状の断面形態で、貯蔵穴ではないかと推測される。壁際には一部周溝が見られたが、埋甕・炉址は検出に至らなかった。出土遺物は、図化掲示しただけでも、土器（第19～23図1～39）、石鏃（第40図4・5）、石匙（第41図28）、打製石斧（第41図31～33）、凹石（第43図90～92）と多く、総量でコンテナ10箱余と大量である。これらはほとんどが覆土中からの出土であり、いわゆる吹上パターンを呈す。土器や石器に加え、炉に使っていたような細長い石や砂岩の大きな剥片等も目立ち、まさしく廃棄場といった感であった。これらの土器様相は、中期中葉末から後葉初頭にかけてとやや時間幅を有す様に見受けられる。

SB-02（第10図）

B4N・S区、B5N・S区、B6N・S区にて検出し、SB-03を切る。東側にいくにつれて覆土が失われており、東の端は、巡る周溝にてその範囲を判断した。西端の箇所まで床面まで10cm程度、測れる一番広い箇所で、径7m弱ある。また住居址の中央部分で巡る周溝をもう1本確認しており、2つの住居址を1つに捉えた可能性があるが、その確かな判断材料を

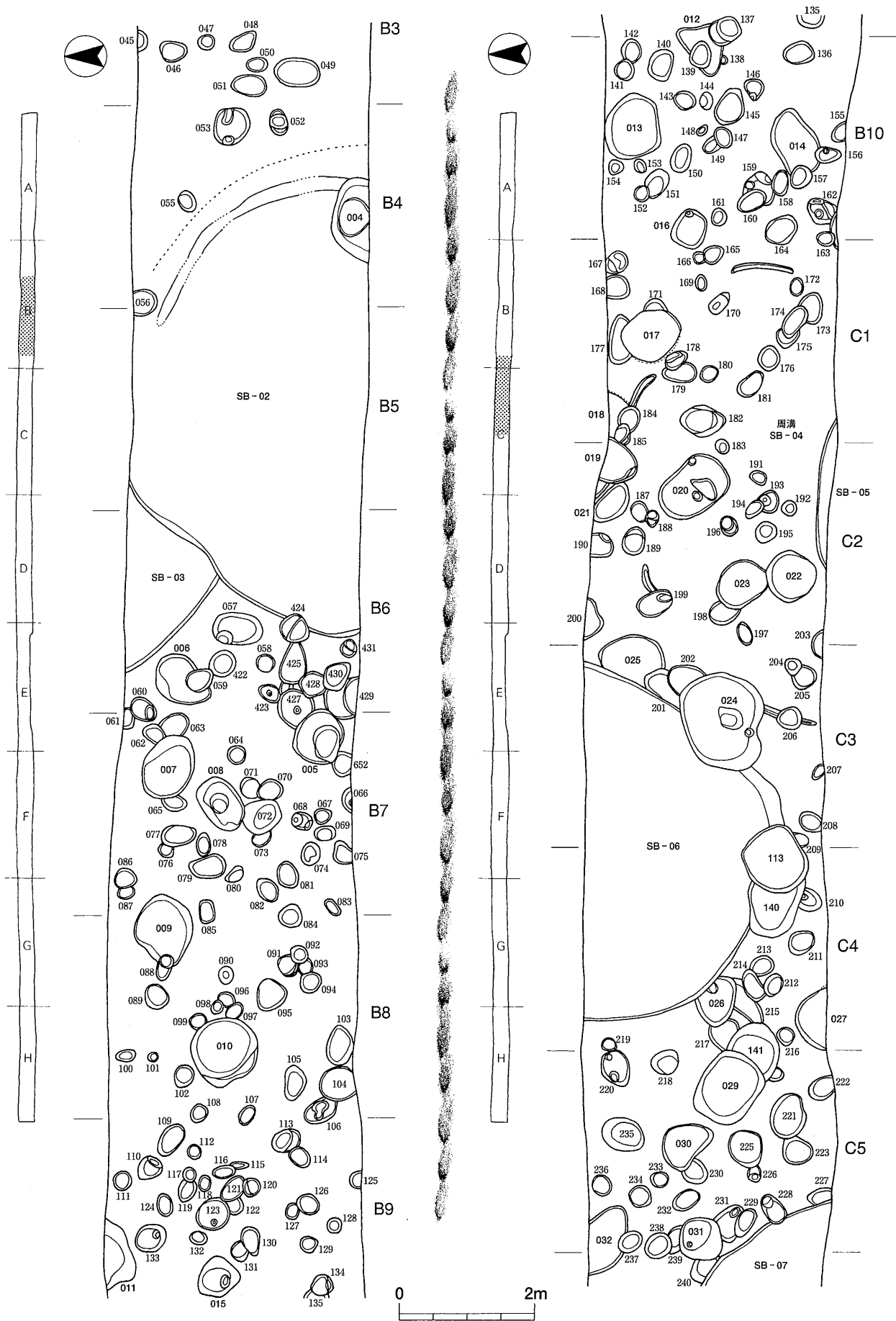


第2図 発掘調査範囲

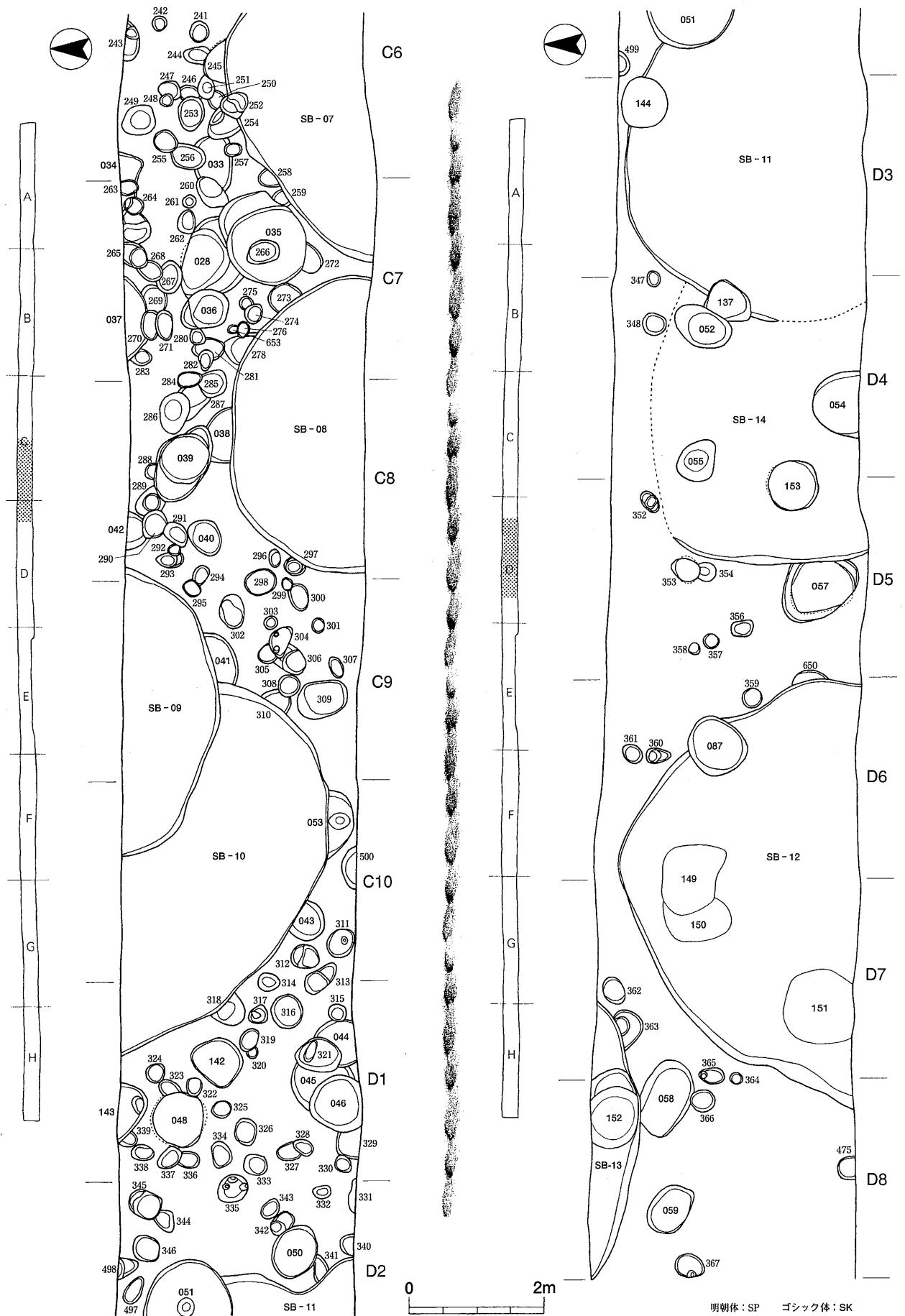


明朝体: SP ゴシック体: SK

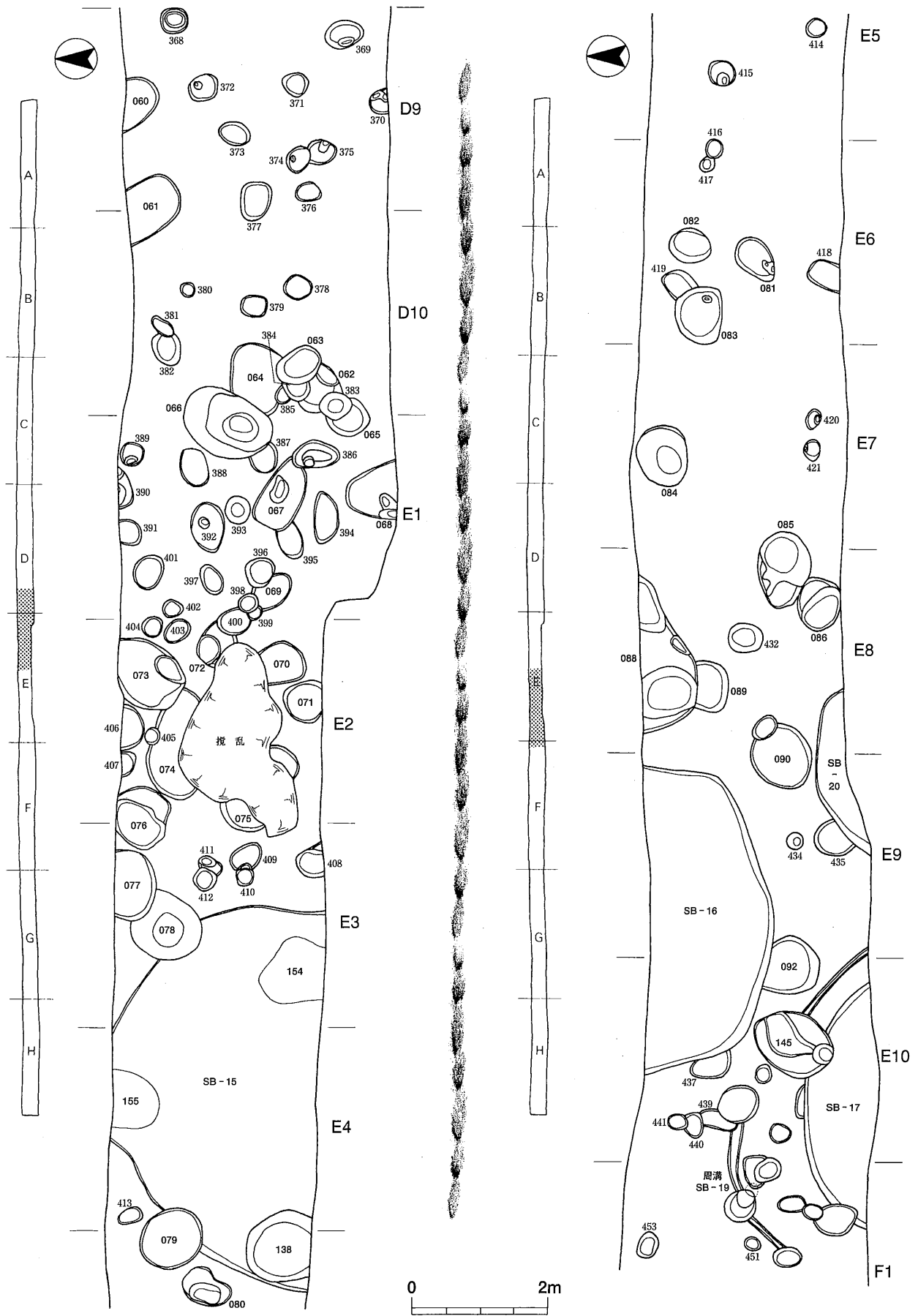
第3図 遺構配置図 (1)



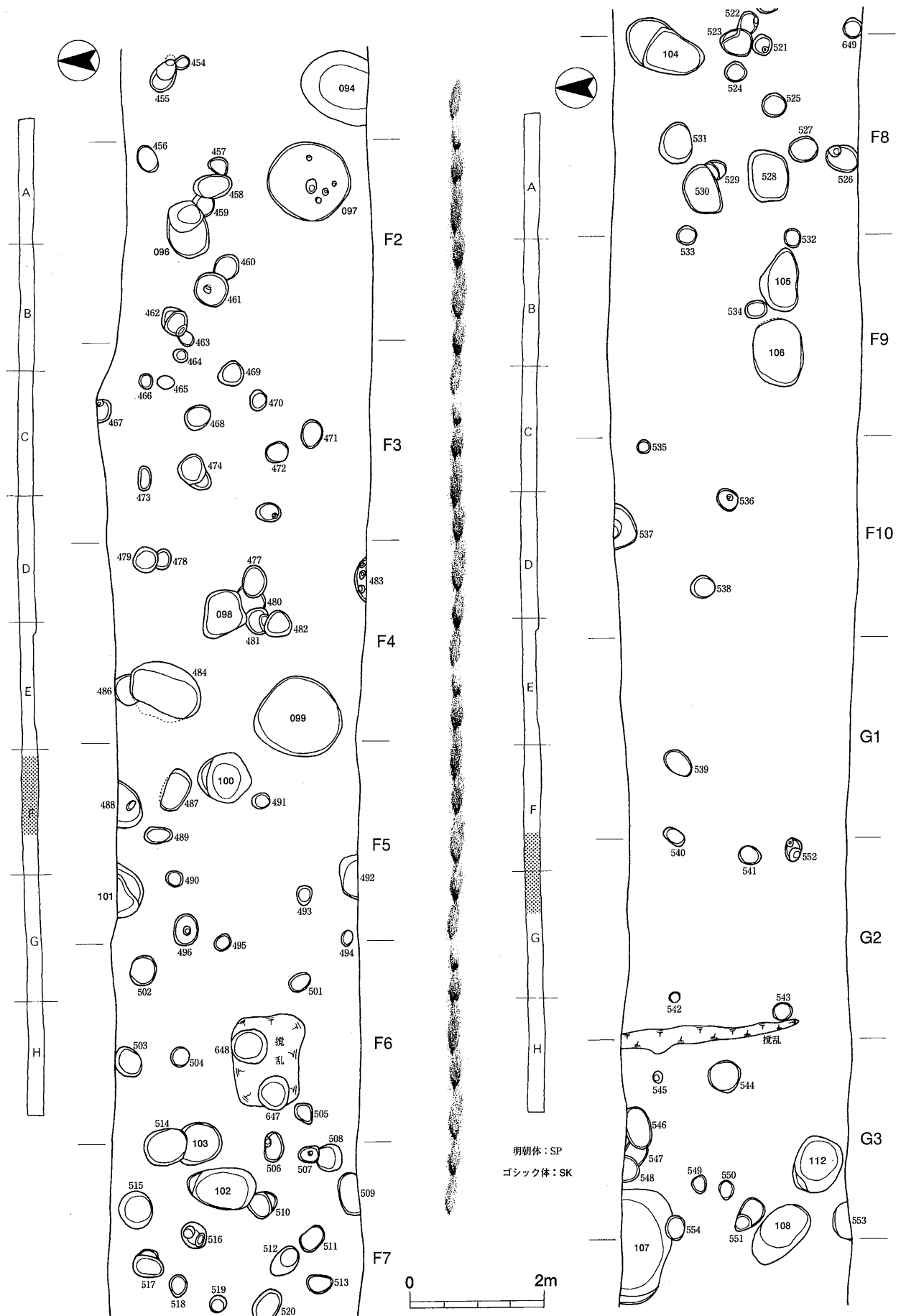
第4図 遺構配置図 (2)



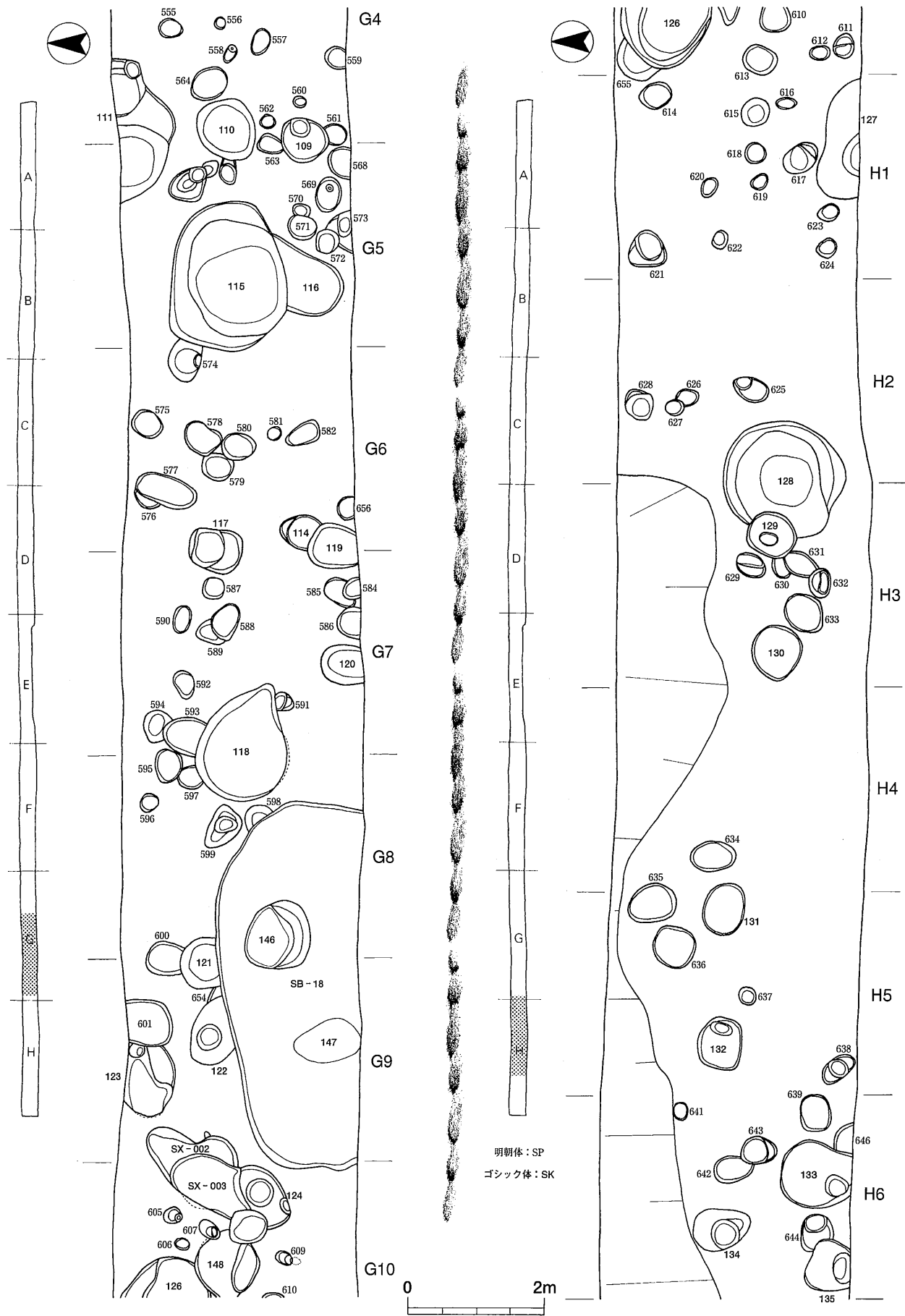
第5図 遺構配置図 (3)



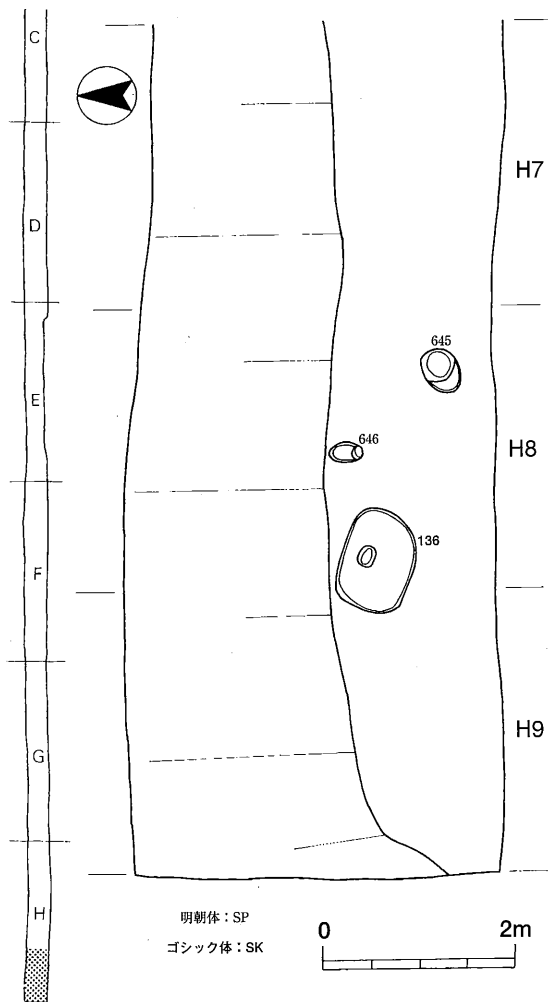
第6図 遺構配置図 (4)



第7図 遺構配置図 (5)



第8図 遺構配置図 (6)



第9図 遺構配置図 (7)

良かったのか疑問が大きい。巡っている溝の径はおよそ5mで、溝は深い所で10cmあったが、遺物として土器は1点も出土しておらず、時期決定できない。

SB-05 (第11図)

C1・2S区にて検出されたが、住居址の端を少し検出しただけであり、大半は南側調査区域外へと及んでいる。床面まで5cm強しかなかったが、壁に沿う箇所には深さ10cm強の周溝を確認したため、住居址と断定した。凹石1点 (第43図94) が出土したものの、残念ながら土器の出土は1片もなく、時期決定できない。

SB-06 (第11図)

C3N・S区、C4N・S区にて検出した。SK-024・140・113に切られ、SK-025・026等を切る。住居址の南半分をほぼ調査できた状況で、調査区北端の部分で測って6.4mある。床面までは概ね25cmを測り、南西の壁際には周溝が巡っている。この周溝の内側からP1・P2・P3の内側では、硬化した張床が認められ、P4~P10はいずれも覆土上部に張床がなされていない。P3が51cm、P10が57cmと深く、住居址内の位置関係から考えても主柱穴と思われる。P1とP2は浅く広い形状で、不自然な印象を与えるので、この住居址には伴わない遺構かもしれない。覆土は3層に分層でき、自然埋没していった堆積状況と思われる。覆土中からは、完形に復元できなかった土器 (第23図42・43、第24図44・46、第35図2~6)、土偶の頭部 (第34図土1)、石鏃 (第40図6)、凹石 (第43図95~98)、砥石 (第45図122) 等、コンテナ1.5箱程の遺物が出土した。またP10からは砥石 (第45図125) が出土している。炉址は検出できなかったが、南端で埋甕 (第24図45) が発見され、正位に埋められていた。埋甕の様相から、本址は中期後葉Ⅲ期に帰属すると考える。

SB-07 (第11図)

C5S区、C6N・S区、C7S区にて検出した。周囲には多くの土壙・ピットがあり、SP-228・252に切られ、SP-227・240・245・254等を切る。住居址壁の円弧の巡り具合から、その1/3程度を検出したと思われる、直径は約5mと推測される。

探し出すことができなかった。なお出土遺物に、大きな時期差は認められなかった。床面に硬化した範囲は認められなかった。この住居址の範囲内にあるすべてのピットに番号を冠したが、この住居跡に伴わないものが多く含まれている可能性がある。埋甕 (第23図41) が北東隅で見つかり、大型な深鉢の胴部より上の部分を逆位に埋めてあった。なお埋甕の覆土内からは、完形の打製石斧1点 (第41図34) が出土した。出土遺物は埋甕の他、深鉢の破片資料 (第23図40、第35図1)、凹石 (第43図93) 等、大きなビニール袋1袋分程度が覆土中から、半損の打製石斧 (第41図36) がP22から、完形の磨製石斧 (第43図75) が周溝から出土している。埋甕からこの住居址の帰属時期は、中期後葉Ⅰ期と判断した。

SB-03 (第10図)

B5・6N区にて検出されたが、東側をSB-02に切られ、北半分以上は調査区域外へと及んでいるため、詳細は不明である。床面まで15cm強を測るが、検出範囲で硬化した箇所は認められず、ピットは4基検出した。SB-02にてピット番号を冠したものの中に、SB-03に伴うものがあるのだろうが、判断材料がなかったためSB-02に含めた。覆土は分層できなかった。炉址・埋甕・周溝は検出されず、出土遺物も土器片5点しかない。小さな土器片なので時期判断も難しいが、中期中葉井戸尻式の範疇に含まれると思われる。

SB-04 (第4図)

C1~C3区において検出した。円弧状に途切れながらも巡っている溝をもって住居址と現場にて判断したが、今とってみれば住居址と確実に判断できる証拠の、炉址や埋甕、張床状の硬化面は認められず、住居址として

壁は西側で20cm、東側で10cmと西側の方が残っていると思われるが、壁に沿って周溝が1条巡る。周溝内側の床面は、炉址近辺を中心として硬化していた。ピットは5つ検出されたが、P1が52cm、P3が55cmと深く、住居址の壁際にあることから考えても支柱穴と判断したい。炉址は北側半分弱しか掘れなかったが、深さが35cmで底は赤く焼けていた。炉址を構成する石が1つだけ元位置を保っていると思われ、直径1.3m強で円形の、かなり大型な石囲炉だった様である。住居址の入口は南西にあると推測され、検出されなかった埋甕はこちらに埋まっているのかもしれない。覆土は4層に分層され、土器片（第35図7～12）、石鏃（第40図8）、打製石斧（第41図37）、磨石（第44図102）等が出土した。遺物量は、コンテナ約半分とそれほど多くない。覆土中出土遺物は、中期後葉Ⅲ期の様相を呈し、本址の時期もほぼこの時期と考えたい。

SB-08（第12図）

C7N・S区、C8N・S区にて検出された。周囲に土壙・ピットが密集する箇所、SB-07に隣接し、SK-038、SP-273・278・297を切る。住居址壁の円弧の巡り具合から見て、その北側半分を調査できた様で、調査区南端箇所まで測って径4.5mである。床面までは西側20cm強、東側10cm弱で、壁際には周溝が巡り、北西側の一部は2重になっている。周溝内側の床面は硬化しており、張床が認められた。ピットは10基検出されたが、P1が53cm、P2が47cm、P5が51cm、P10が45cmと深さがあり、住居址内の位置関係から支柱穴と判断したい。なおP7・P8は張床の下から検出されており、この住居址に伴うピットではない可能性がある。炉址は南側1/3程を掘れなかったが、東西112cm、深さ37cmで、底面は赤く焼けていた。大型の石囲炉であった様だが破壊を受けており、南端にある2、3個の石を除き元位置を保っていない。炉址が北側の壁にやや寄っている感じで、入口は南側にあったと思われる。検出されなかった埋甕はこちらに埋まっているのかもしれない。覆土は4層に分層された。遺物は炉址周辺の床面に近い箇所から多く出土し、土器（第24図47～54、第25図55・56・59、第35図13～16）、石鏃（第40図7）があり、炉址内からは半損の打製石斧（第41図38）が出土した。また炉址の北西、住居奥に該当する箇所の床面上からは、釣手土器（第25図60）が出土している。釣手土器の様相から判断して、本址の帰属時期は中期後葉Ⅲ期と考える。

SB-09（第12図）

C8～10N区にて検出され、SB-10、SK-041を切る。住居址の北側大半は調査区域外であり、規模はつかめない。床面まで15cm程を測り、東側の壁際のみ周溝が認められた。床面は壁際を除いて張床の硬化面が認められ、ピットは9基検出された。支柱穴を判断するのは難しいが、壁際のP1・P9は該当するのだろうか。炉址・埋甕は検出されなかった。覆土は4層に分層されたが、完形にはならない土器（第25図57・58・61・62、第26図63～71、第35図17・18、第36図19～22）、石鏃（第40図9）、磨製石斧（第43図76）、凹石（第43図99）、滑石製の垂飾（第45図128）等が出土した。また覆土中から、北陸系の土器片が2点（第39図79と小片が1点あり）出土しているが、中期中葉上山田式の様相を呈すと思われ、その他出土土器の中期後葉Ⅲ期とはズレがある。

SB-10（第13図）

C9N・S区、C10N・S区、D1N区で検出され、SB-09、SK-053に切られ、SK-041、SP-318を切る。住居址壁の円弧の巡り具合から見て、主軸を北西-南東にもつ楕円形の形状を呈すと思われ、短軸で径5m程と推察する。床面までは西側で55cm、東側で40cmと、今回の調査で最も深い掘り方を有す住居址であった。周溝は壁から70～80cm離れた箇所に部分的に見られ、深さも7cm程しかない。床面は壁際が多少高い形状で、硬化した範囲は認められなかった。ピットは大小26基が検出され、P3が72cm、P14が65cm、P11が76cmと深く、住居址内の位置関係から考えて上屋構造を支える柱穴と思われる。加えて壁際の小さなピットは、補助的に支えた柱穴だろうか。またP4（深さ107cm）、P7（深さ79cm）、P1（深さ70cm）は断面が袋状で深く、貯蔵穴と言われる例に類似する。炉址は、調査区域の北端で少しだけ検出することができたが、焼土が覆土中に含まれており、確定してよいのか迷う。埋甕は検出されなかった。覆土は5層に分層されたが、遺物はその多くがかなり床面から浮いた部位で出土した。焼町式の深鉢（第26図72）に加え、第26図73～75、第27図76～81、第36図23～25の土器、石鏃（第40図10）、打製石斧（第41図35・39）、磨製石斧（第43図77・82・83）、凹石（第43図100・101）、石皿（第45図126）がある。また黒曜石製石槍（第40図1）が、ほぼ床面に接する箇所から出土した。出土土器の様相は、中期中葉井戸尻Ⅰ式が主である。

SB-11（第13図）

D2～4N・S区にて検出され、SK-051・137・144に切られ、SP-341を切る。住居の南側約1/3を調査できなかったのが確かな事は言えないが、径5.3m程の円形で南東部分が張り出しており、柄鏡状になっているのかもしれない。上部が削平されている様で、一番残存の良い箇所が壁高10cmしかない。1条の周溝が壁に沿って巡るが、南東の張り出し部分は途切れている。床面は硬化しており、大小39基のピットが検出されており、壁際のP1（深さ63cm）、P9（深さ60cm）、P11（深さ75cm）、P15（深さ70cm）が支柱穴と思われる。炉址は住居址中央からやや北西に寄った箇所であり、炉址を

構成する石はなく、浅い皿状の掘り込みで底が赤く焼けている。埋甕は検出されなかった。覆土は3層に分層されたが、削平されている分出土遺物の総量は少なく、完形にならない土器（第27図82～84、第36図26）、半損の石槍らしきもの（第40図2）、石鏃（第40図11）、石錐（第40図23）、打製石斧（第41図40）、磨製石斧（第43図78）、凹石（第44図105）、石皿（第45図127）、土偶脚部（第34図土4）等がある。本址の帰属時期は、中期後葉Ⅱ期と思われる。

SB-12（第12図）

D6・7N・S区、D8S区から検出され、SK-087に切られ、SK-149・150・151、SP-650を切る。住居址の南半分が調査区域外のため、規模・形状は不明である。床面までは概ね10cm強を測り、覆土は単層である。周溝はなく、床面に硬化した範囲も認められなかった。ピットは18基検出されたが、この付近は切りあいが多く、住居址に伴わないものを含めた可能性があり、どのピットが上屋構造を支える柱穴であったのか判断し難い。炉址は大型の石囲炉で、破壊を受けておらず元の形をとどめている。長軸138cm、短軸128cmの隅丸長方形で、50cmと深く、底は赤く焼けている。埋甕は検出されなかった。出土遺物は、土器片（第36図27～30）、石鏃（第40図12・13）、石錐（第40図24）、打製石斧（第41図41）、凹石（第44図106・107）等がある。出土土器は中期後葉Ⅲ期の様相を呈す。

SB-13（第11図）

D7・8N区にて検出されたが、その南端を少し調査したに過ぎない。床面まで15cm強を測るが、周溝・床の硬化は認められない。住居址にするか迷ったが、遺構の底が平坦で広がりもあったゆえ住居址番号を冠した。土器3点（第28図85、第36図31・32）を図化掲示したが、遺物の総量は少ない。一応この土器の様相から、本址は中期後葉Ⅱ～Ⅲ期に位置付けておく。

SB-14（第14図）

D4・5N・S区にて検出された。SB-11と重なっているが、住居址東側が削平されている為、切り合い関係は出土遺物の新旧をもってSB-14が切ると判断した。その他にも土壙等との切り合いが多く、ピット番号を冠した中にも、本址に伴わないものが含まれている可能性がある。周溝は西側と北側に認められ、床面は炉址より北側が硬化していた。炉址を構成していたと思われる石が1個だけ元位置を保ち、底は赤く焼けていた。径95cm、深さ32cmの大型石囲炉だったようである。埋甕は検出されなかった。土器5点（第28図86、第36図33～36）、打製石斧（第41図46）のみを図化掲示した。本址の帰属時期は、出土土器から中期後葉Ⅲ～Ⅳ期と思われる。

SB-15（第14図）

E3～5N・S区にて検出され、SK-078・079・138・154に切られ、SK-155を切る。住居址壁の円弧の巡り具合から見て、住居の主軸は北西-南東だと思われるが、調査区域南端で径5.65mを測る。床面までは概ね20cm弱で、周溝の内側は硬化していた。周溝は2重に巡っており、ピットは小さなものが数多く検出された。その内でもP1が深さ52cm、P2が床面から測って55cm余、P4が50cmと深く、位置関係からも主柱穴と考える。炉址は長軸130cm、短軸120cmの隅丸長方形で、2段に45cm程掘り込まれており、土器（第28図87・90）、磨製石斧（第43図79）、凹石（第44図108・110）が出土した。底は赤く焼けており、炉を構成した石が南西の一部だけ残っていた。埋甕は検出されなかった。覆土は2層に分層され、土器（第28図88・89・91～93、第36図37、第37図38～40）、石鏃（第40図14）、打製石斧（第41図42）、凹石（第44図109）等が出土した。これら出土土器は、炉址・覆土中とも中期後葉Ⅲ期の様相を呈し、本址の時期も同時期としたい。

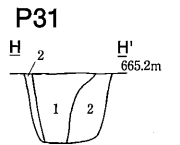
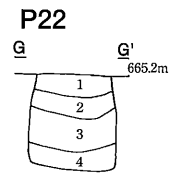
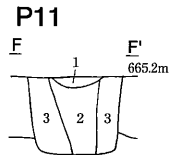
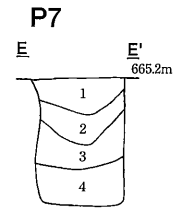
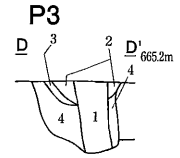
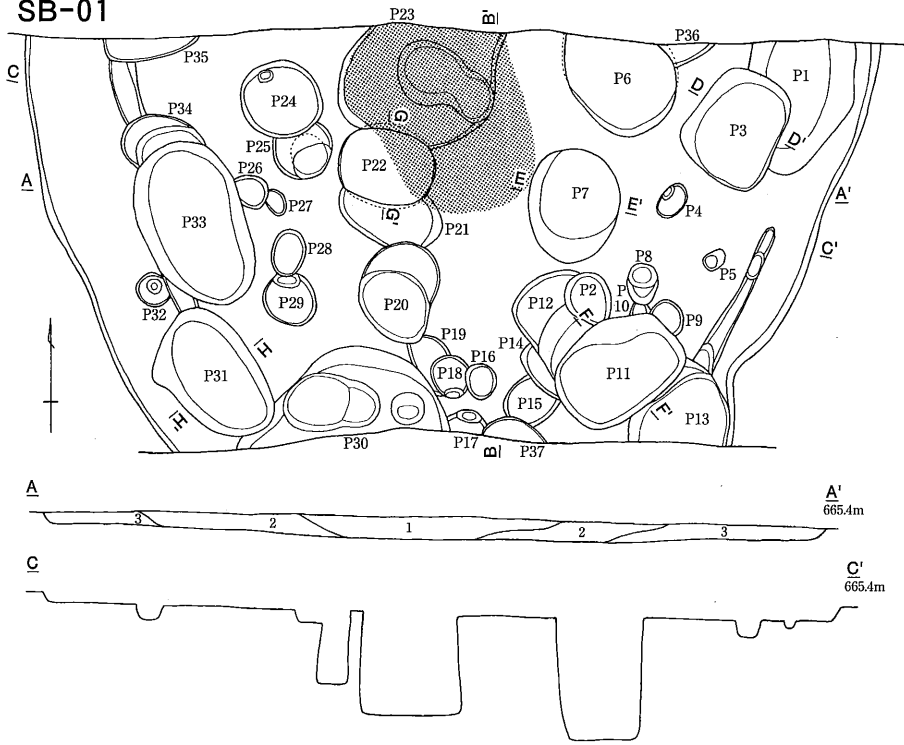
SB-16（第15図）

E9・10N区にて検出され、SK-092、SP-437を切る。住居址の北半は調査区域外へ及ぶが、壁の巡り具合は、やや角がついている。床面までは西側で30cm弱、東側で15cm弱を測り、周溝が壁に沿って1条巡る。床に硬化した箇所は認められなかった。ピットは計14基検出されたが、P1が深さ41cm、P9が深さ55cmで主柱穴と考える。炉址は検出されなかったが、埋甕が南端で検出され、胴部下半以下と口縁端部を欠く深鉢（第29図94）を正位に埋めてあった。覆土は3層に分けられ、土器（第29図95～98、第37図41～44・47）、石鏃（第40図15～17）、磨製石斧（第43図80）等が出土した。埋甕の様相から、本址の帰属時期は中期後葉Ⅲ期であり、覆土中土器はやや新しい様相を示す。

SB-17（第15図）

E10S区、F1S区にて検出され、SB-19と重なる。SB-19の覆土がすべて失われているため、当初切り合い関係が明瞭でなかった。しかしSB-17の床面を精査したところ、SB-19炉址が切られた状況で検出された事、SB-19床面の硬化範囲がSB-17に重なる箇所には及んでいない状況を確認した事、以上からSB-17が切ると判断した。北側の一部のみを検出しただけなので詳細は不明であるが、壁高は17～18cmで、床面に硬化した箇所は認められなかった。土器（第29図100、第37図45・46）が覆土中から、凹石（第45図118）がピット中から出土した。土器は小片であるが、一応この土器の様相から中期後葉Ⅲ期に帰属すると考えたい。

SB-01



【SB-01 覆土】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック、炭多く含む
 - 2 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック少し・焼土少し・炭多く含む
 - 3 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性無 5mm程ロームブロック・炭含む
- 【SB-01内P3】
- 1 7.5YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
 - 2 10YR3/2 黒褐 締まり有 粘性無 5mm程ロームブロック少し含む
 - 3 10YR4/4 褐 締まり・粘性無
 - 4 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック含む

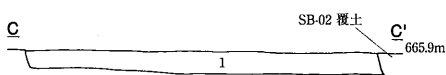
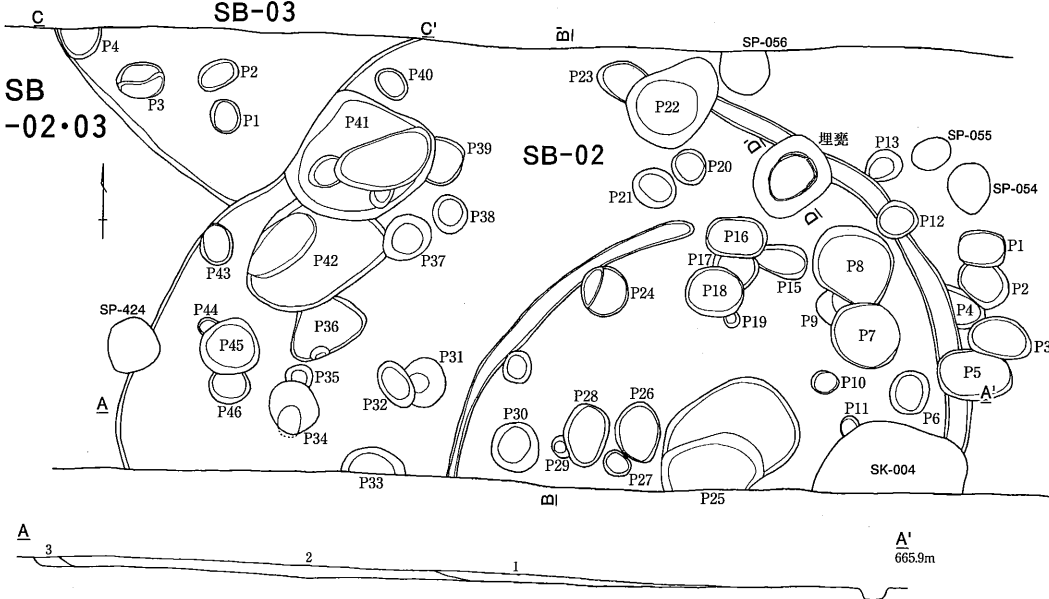
【SB-01内P11】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり強 粘性稍有
 - 2 10YR3/4 暗褐 締まり無 粘性稍有 0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 3 10YR2/1 黒 締まり有 粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 【SB-01内P22】
- 1 10YR2/1 黒 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭含む
 - 2 10YR3/2 黒褐 締まり有 粘性稍有 0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 3 7.5YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック含む
 - 4 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性稍有 炭少し含む

【SB-01内P31】

- 1 10YR3/1 黒褐 締まり無 粘性稍有 0.5~2cmロームブロック含む
- 2 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 0.5~1cmロームブロック・炭含む

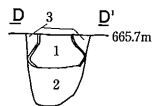
SB-03



【SB-03 覆土】

- 1 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック含む

SB-02 埋甕



【SB-02 覆土】

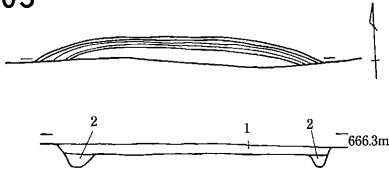
- 1 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 炭少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 0.5~3cmロームブロック含む
- 3 10YR4/3 におい黄褐 締まり無 粘性有 ローム粒多く含む

【SB-02 埋甕】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭・焼土ブロック含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 炭含む

第10図 竪穴式住居址 (1)

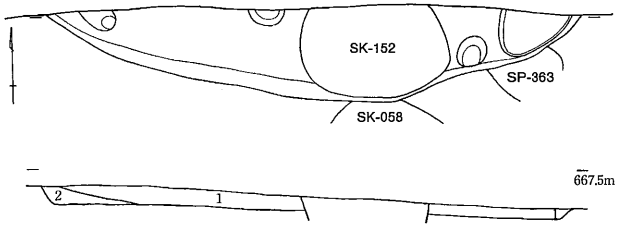
SB-05



【SB-05 覆土】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 2 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 5mm程ロームブロック含む

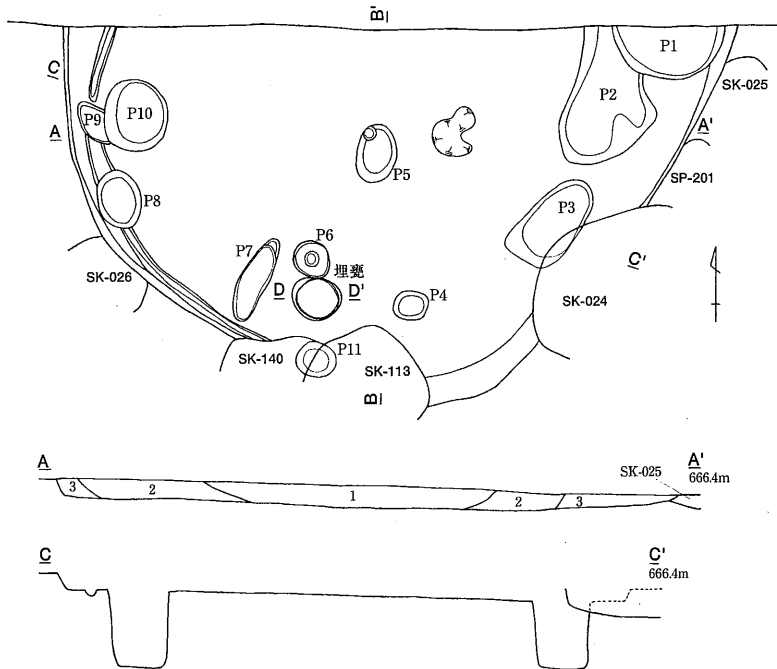
SB-13



【SB-13 覆土】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり、粘性稍有 0.5~2cmロームブロック・炭含む
- 2 10YR3/1 黒褐 締まり、粘性稍有

SB-06



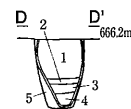
【SB-06 覆土】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 炭多く含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり稍有 粘性無 5mm程ロームブロック・炭含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり無 粘性有 0.5~2cmロームブロック・ローム粒多く含む

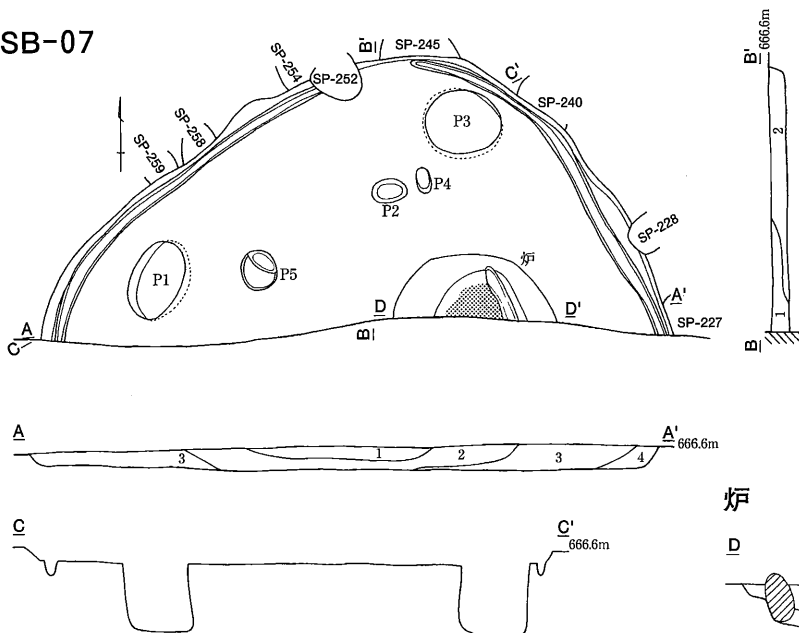
【SB-06 埋塞】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無 5mm程ロームブロック・炭含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック多く含む
- 3 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性稍有
- 4 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性有
- 5 10YR3/3 暗褐 締まり稍有 粘性無 0.5~1cmロームブロック含む

埋塞



SB-07



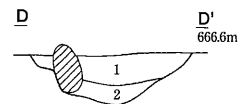
【SB-07 覆土】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 炭多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 0.5~1cmロームブロック・炭含む
- 3 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・ローム粒・炭多く含む
- 4 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 ローム粒多く含む

【SB-07 炉】

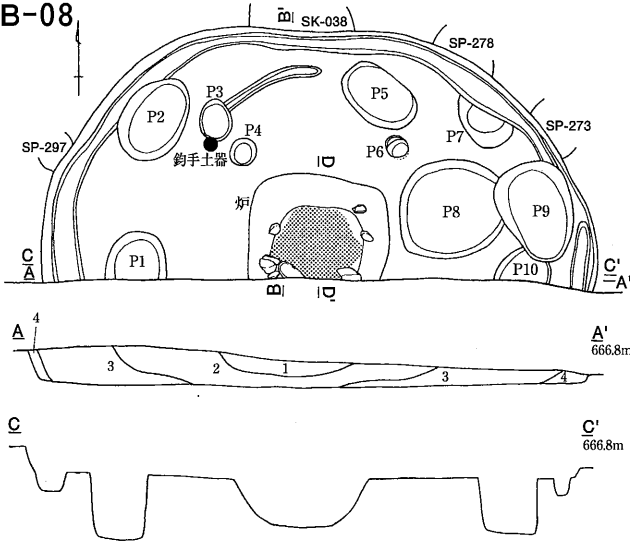
- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック・炭含む
- 2 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性無 0.5~1cmロームブロック・炭・焼土ブロック含む

炉

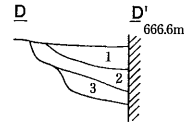


第11図 竪穴式住居址 (2)

SB-08



炉



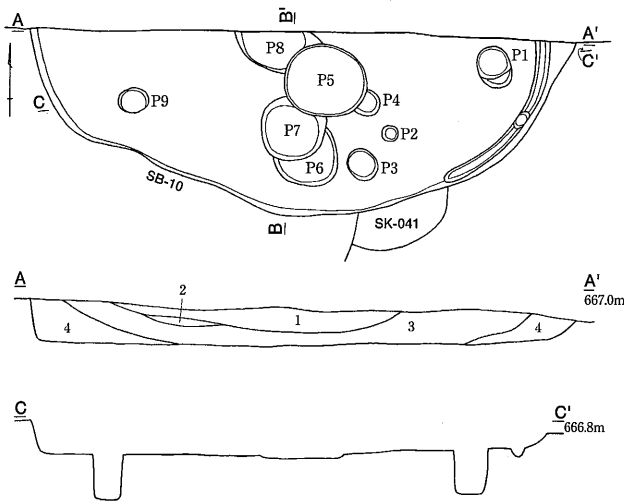
【SB-08 覆土】

- 1 7.5YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 炭多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック含む
- 3 10YR3/4 暗褐 締まり稍有 粘性無 5mm程ロームブロック 少し含む
- 4 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 ローム粒多く含む

【SB-08 炉】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック 少し含む
- 2 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 3 2.5Y4/6 オリーブ褐 締まり強 粘性無 焼土等堆積層

SB-09



【SB-09 覆土】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 2 10YR5/6 黄褐 締まり・粘性無 焼土ブロック多く含む
- 3 7.5YR3/1 黒褐 締まり・粘性無 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 4 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性稍有 0.5~1cmロームブロック・炭少し含む

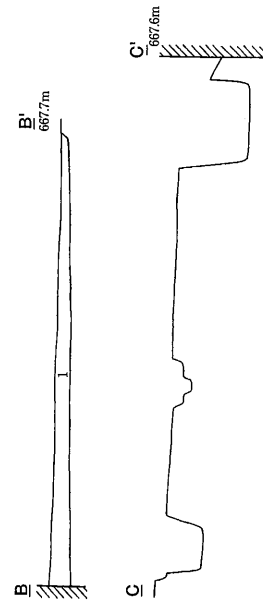
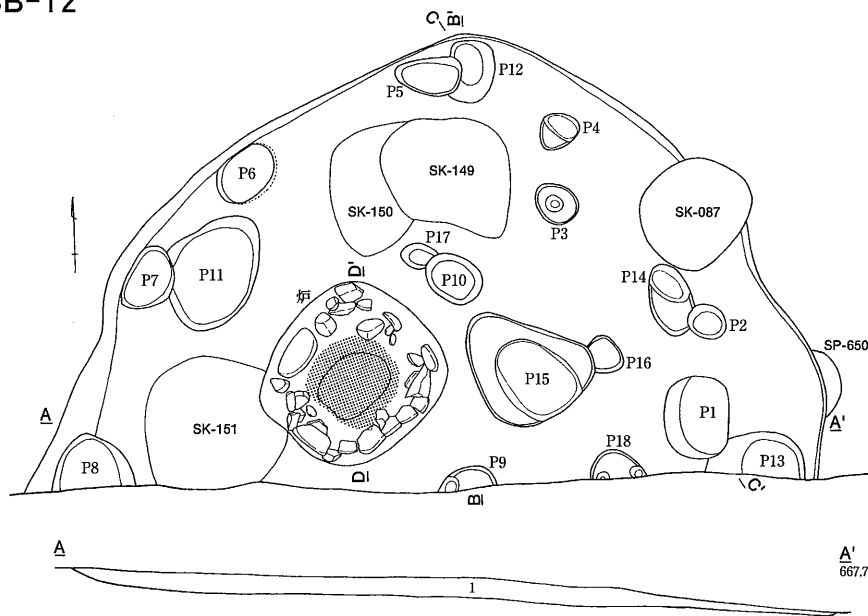
【SB-12 覆土】

- 1 10YR2/3 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック・炭少し含む

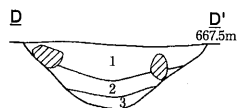
【SB-12 炉】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 2 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 0.5~1cmロームブロック多く、炭含む
- 3 7.5YR3/4 暗褐 締まり・粘性無 焼土ブロック・炭多く含む

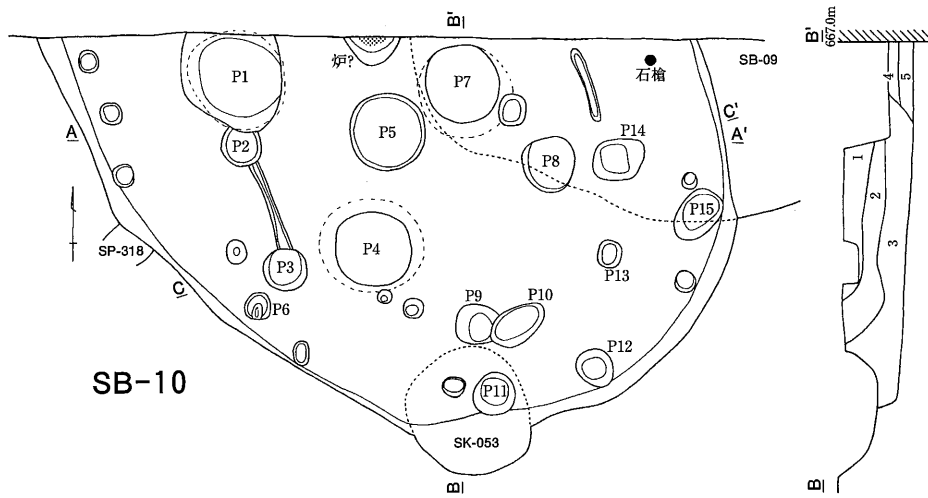
SB-12



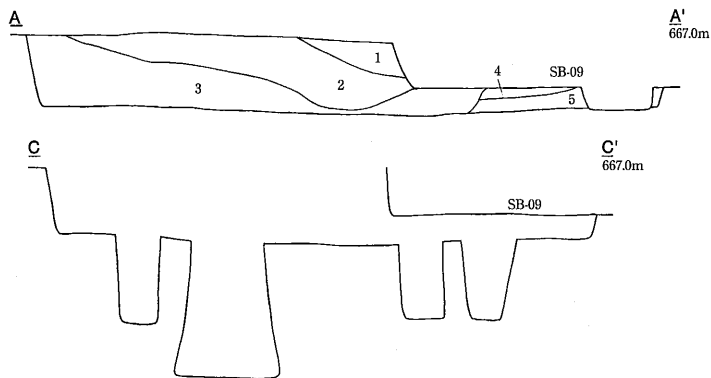
炉



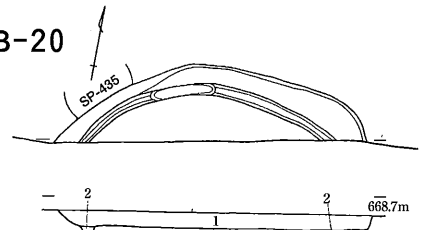
第12図 竪穴式住居址 (3)



- 【SB-10 覆土】
- 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性稍有 0.5~1cmロームブロック・炭含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック少し、炭含む
 - 10YR4/2 灰黄褐 締まり無 粘性有 0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 10YR4/3 におい黄褐 締まり無 粘性有 0.5~1cmロームブロック非常に多く含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む

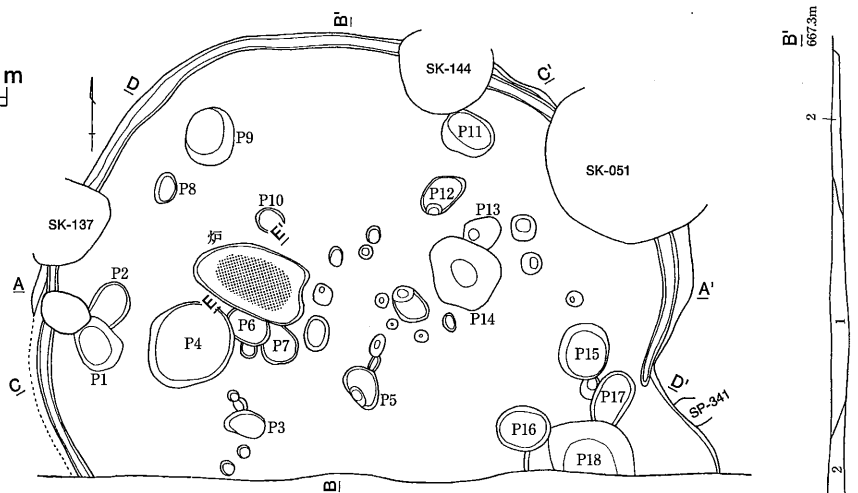
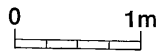


SB-20



- 【SB-20 覆土】
- 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 ローム粒多く含む

SB-11

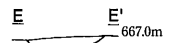


- 【SB-11 覆土】
- 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有 0.5~1cmロームブロック含む
 - 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性稍有 5mm程ロームブロック・炭含む

- 【SB-11 炉】
- 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性無 焼土ブロック多く含む

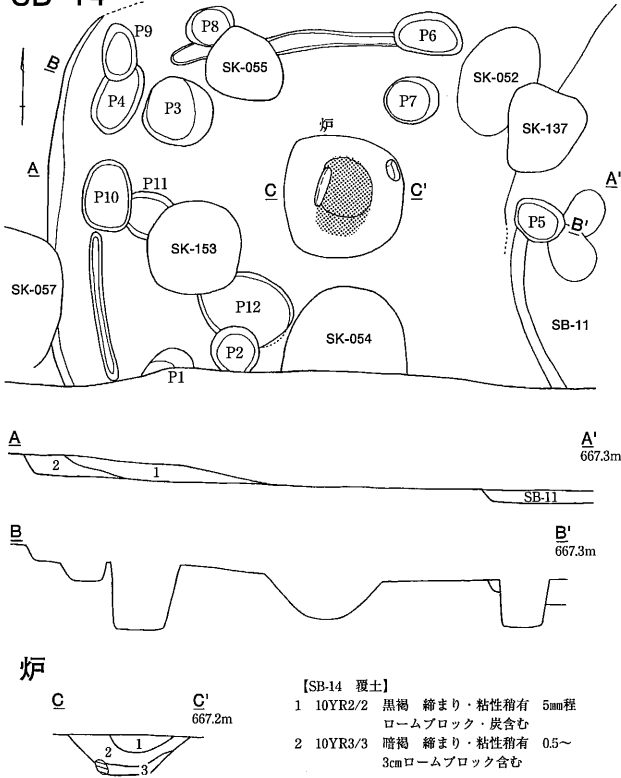


炉



第13図 竪穴式住居址 (4)

SB-14

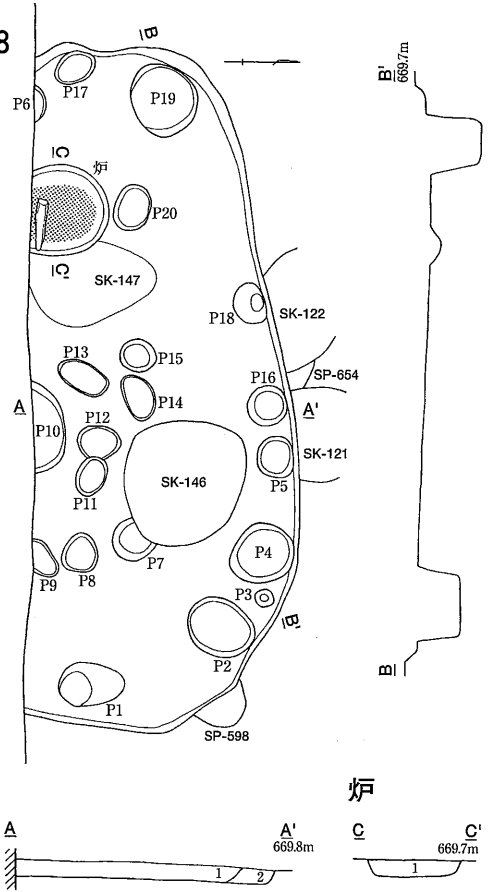


- [SB-14 覆土]
- 1 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性稍有 5mm程
ロームブロック・炭含む
 - 2 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有 0.5~
3cmロームブロック含む

[SB-14 炉]

- 1 5YR4/4 にぶい赤褐 締まり・粘性稍有 5mm
程ロームブロック・炭含む 焼土層
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 5mm程ローム
ブロック・炭含む
- 3 5YR5/6 明赤褐 締まり強 粘性無 焼土層

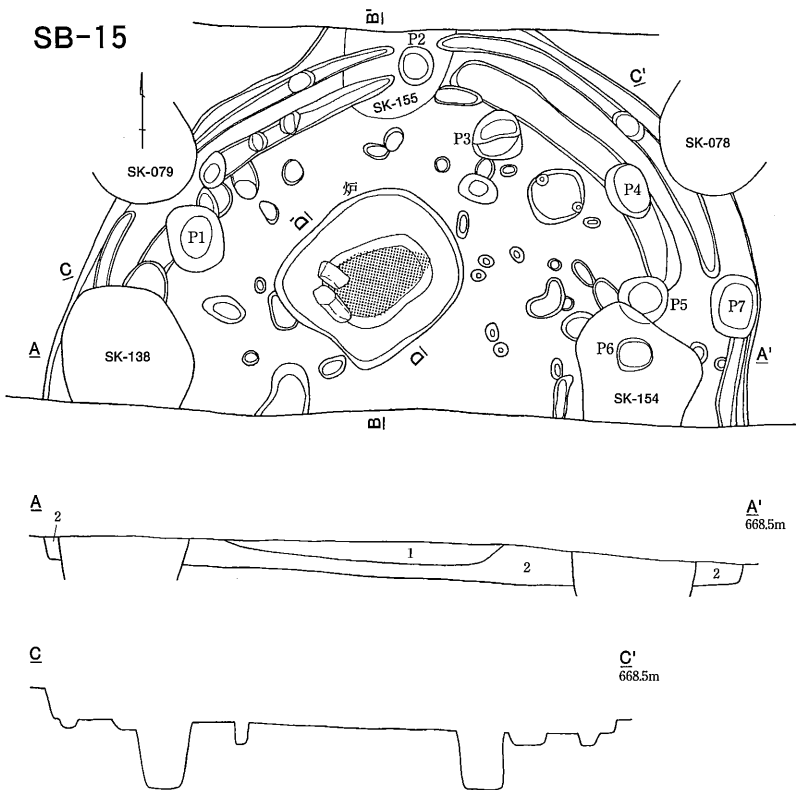
SB-18



[SB-18 覆土]

- 1 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有 0.5~5cm
ロームブロック多く含む
 - 2 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有 炭含む
- [SB-18 炉]
- 1 10YR3/3 暗褐 締まり稍有 粘性無 炭・焼
土ブロック含む

SB-15



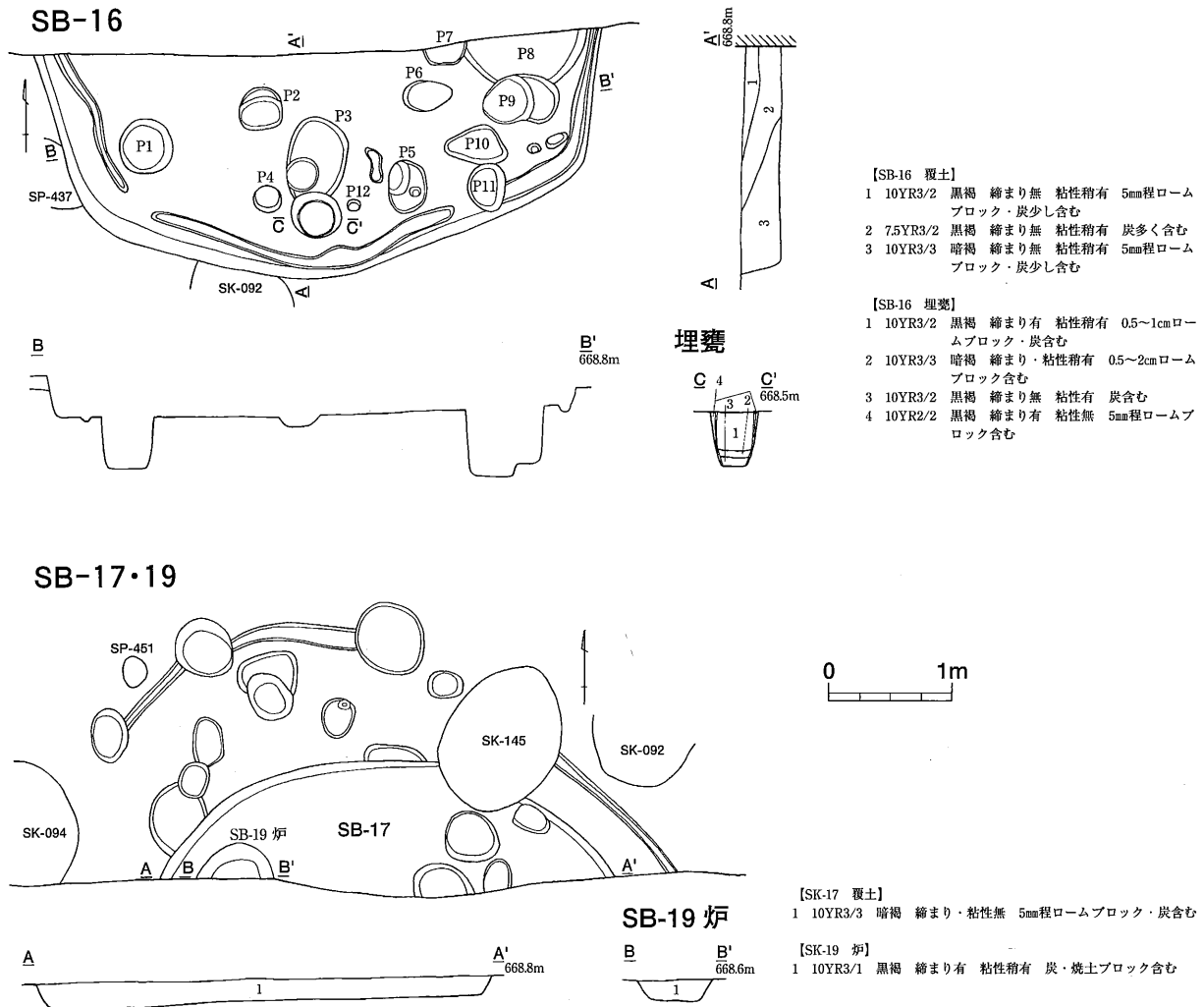
[SB-15 覆土]

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有 5mm程
ロームブロック少し、炭多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性稍有 5mm程
ロームブロック・炭少し含む

[SB-15 炉]

- 1 7.5YR3/1 黒褐 締まり稍有 粘性有 0.5~
1cmロームブロック少し、炭含む
- 2 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性稍有 1cm程ロ
ームブロック少し、炭含む

第14図 竪穴式住居址 (5)



第15図 竪穴式住居址 (6)

SB-18 (第14図)

G8~10N・S区にて検出された。SB-16・17等の住居址が密集している箇所からは、50m程離れている。SK-146に切られ、SK-121・122・147、SP-598・654を切る。壁高は西側で15cm弱、東側で10cm弱を測り、周溝と床の硬化面は認められなかった。ピット番号をP19まで冠したが、この付近は土壙等の遺構が密集しており、住居址に伴わないものも含めた可能性が高い。炉址は西寄りで検出されたが、住居址内の位置関係に不自然な印象を抱く。しかし破壊されてはいるものの石囲炉であり、焼土も認められたことから、この住居の炉とした。出土土器は、炉址から第29図101、P15から同99、覆土中から第37図48~52、第38図53がある。石器は打製石斧(第41図43・48・49)、凹石(第44図111)、砥石(第45図121)がある。出土土器の様相は、中期後葉IV期~V期まで幅がある様に見受けられる。

SB-19 (第15図)

E10N・S区、FIN・S区にて検出されたが、覆土をすべて失っており、周溝が巡っていることから住居址と判断した。硬化面が周溝内の範囲で認められたが、SB-17と重なる部分では認められなかった。炉址はSB-17床面下で検出されたが、底が赤く焼けているだけで構成する石は見られなかった。この住居址に伴う明確な出土遺物は、周溝内出土の礫だけで、帰属時期は不明である。

SB-20 (第13図)

E8・9S区にて検出されたが、その北端を少し調査できたに過ぎない。壁高は15cmを測り、周溝が壁からやや離れた位置を巡っている。その他のことは一切不明で、時期決定できるだけの土器は出土しなかった。

② 土壙・ピット（第16図～第18図、第1・2表）

土壙148基、ピット631基と、820㎡の調査範囲としては実に多くの数が検出された。切りあいが激しく集中している箇所では、すべて掘り終った後には足の置き場もなく移動に苦勞するほどであった。土壙とピットの区別であるが、規模が大きいか小さいかで分けただけであり、その基準が曖昧となってしまった。よってここでは分けて扱わず、一括りとして記述することにしたい。数があまりにも多いため、そのひとつひとつについて記述せず、一覧表に規模や帰属時期等を掲載することにしたい。以下は其中でも特徴的であったものを取り上げ記述することにしたい。

SK-003（第16図） A8・9S区にて検出され、その南端は調査区域外まで及ぶ。南北方向に長い楕円形状を呈し、東西で測っても径178cmとかなり大型で、深さも99cmと深い。覆土は8層に分けることができた。中期後葉Ⅳ期の土器片と、打製石斧（第41図44）、砥石（第45図124）が出土した。

SK-029（第16図） C5N・S区にて検出され、SK-141とSP-217を切る。長軸109cm、短軸87cmの隅丸長方形形状を呈し、深さ91cmを測る。断面観察で真中にまっすぐ立ち上がるラインを確認でき、柱の痕跡ではないかと考えられた。時期が明瞭に判明する遺物は出土しなかったが、唐草文土器の綾杉状沈線が施文された土器片があったので、中期後葉の範疇である。

SK-035（第16図） C7N・S区にて検出され、SP-266に切られ、SK-028等を切る。長軸149cm、短軸80cm、深さ65cmと大型で、覆土中より中期後葉Ⅱ期のまとまった遺物が出土した。第30図106・107に一部を図化掲示した。

SK-048（第16図） D1N区にて検出され、SP-322に切られ、SP-323を切る。直径80cm程の円形状の平面形で、深さは34cmを測り断面形が袋状を呈する。いわゆる貯蔵穴と言われる形状で、入口が狭く底を抉って広く掘ってあり、他にSK-017・151がこれに該当する。

SK-050（第16図） D2S区にて検出され、SP-341・342を切る。81×67×19cmを測り、平面形は楕円形状、断面形はトライ状を呈す。東側の壁に寄りかかる状態で、径30cm程、厚さ10cm弱の漬物石の様な平たい石が発見された。枕の様な感じで、何らかの意味を持つ印象を受けた。出土遺物は土器小片のみであった為、時期を確定できない。

SK-066（第17図） D10・E1N区にて検出され、138×92×89cmを測る。底が狭い断面V字状の土壙で、覆土は4層に分けることができたが、土器の出土はない。落とし穴として報告される土壙に似ている印象を受けた。

SK-099（第17図） F4・5N・S区で検出された。132×122×87cmの平面円形状、断面桶状の大きな掘り方を有す。覆土は7層に分けることができたが、その1層には完形には復元できない土器（第31図115～119、第32図120～125、第38図54～68）等が、コンテナ2箱分程がぎっしり詰まっていた。廃棄された状態を呈すと思われる。またその最下層の7層では、人頭大の不整形な石を配し、その上にほぼ完形の釣手付深鉢（第31図114）を横に倒して置いたと思われる状況が認められた。大変に美しい形で優品である。これらの出土の土器は、上下層出土土器共に、中期後葉Ⅴ期の様相を呈すと考える。

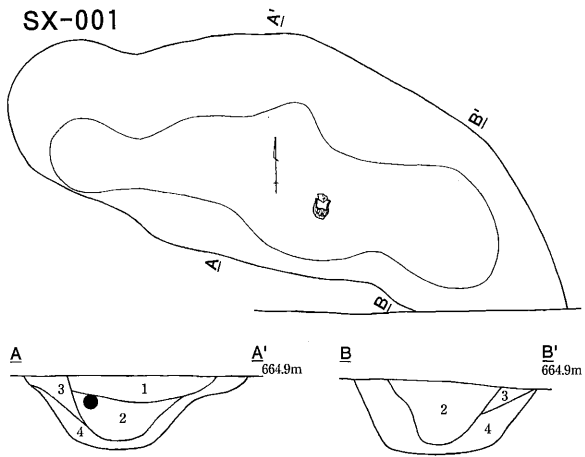
SK-102・104（第17図） SK-102はF7N区にて検出された。104×64×54cmを測り、平面形が楕円形状で2段に掘り込まれている。3層に分層することができ、1層を別遺構の掘り込みとすれば、柱を据えていたと考えられる堆積状況を示す。SK-104はF7・8N区にて検出された。124×73×57cmを測り、平面形が楕円形状で2段に掘り込まれている。2層に分層することができ、柱を据えていたと考えられる堆積状況を示す。共に中期後葉の土器小片が出土している。SK-102とSK-104は、間隔が2.8m程度と近く、形状・規模・時期が類似しており、掘建柱建物の一辺側柱穴ではないかと思われた。調査区域の幅が3.5mしかないので、柱穴が方形に整然と並ぶ状況まで確認できないが、その可能性を提示しておきたい。

SK-105（第17図） F9N区にて検出され、94×57×31cmを測る。覆土中より、中期後葉Ⅴ期に位置付けられる壺形土器の大きな破片が1点（第33図128）出土した。何かを覆う様土器破片の凹側を下に向けた状態で出土しており、甕被葬墓の可能性はある。

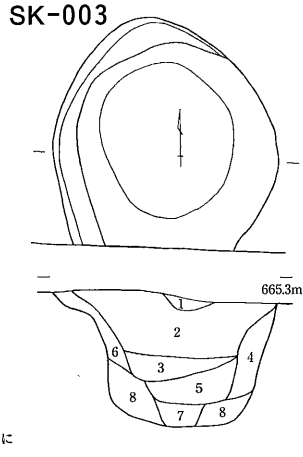
SK-108（第17図） G3・4N・S区にて検出され、104×64×54cmを測る。覆土中より、中期後葉Ⅴ期に位置付けられる深鉢（第32図126）を縦に半裁した土器が出土した。何かを覆う様土器の内側を斜め下に向けた状態で出土しており、SK-105同様甕被葬墓の可能性はある。

SK-126（第18図） G10N区にて検出され、SK-148に切られ、SP-655を切る。平面形は楕円形状で、SK-148に切られるため長軸方向の径は測れないが推定で150cm、短軸125cm、深さ101cmと大型の土壙である。覆土中から中期後葉Ⅳ期の土器がまとめて出土し、深鉢2点（第33図132、第34図136）を図化掲示した。

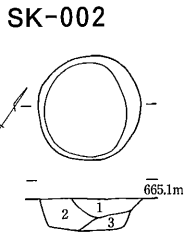
SK-138（第18図） E4・5N・S区にて検出され、南端は調査区域外へ及ぶ。SB-15を切り、平面形は楕円形状で、短軸103cm、深さ108cmと大型の土壙である。覆土中より、土器片（第33図131、第39図71）、磨石類（第44図114・117）、砂岩の剥片等が出土した。土器の様相は中期後葉Ⅴ期を示す。



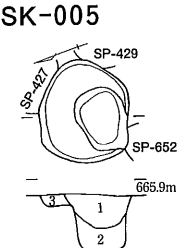
- 【SX-001】
- 7.5YR3/2 黒褐 締まり稍有 粘性無
5mm程ロームブロック・炭少し含む
 - 7.5YR3/1 黒褐 締まり有 粘性無
5mm程ロームブロック・炭含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性無
0.5~1cmロームブロック少し含む
 - 10YR4/4 褐 締まり無 粘性稍有
2~3cmの黒色土ブロック含む



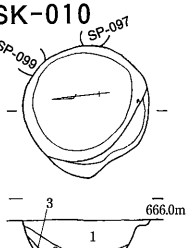
- 【SK-003】
- 5YR4/3 にぶい赤褐 締まり有 粘性無
焼土層
 - 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性有
0.5~1cmロームブロック・炭少し含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり稍有 粘性有
0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり無 粘性有
0.5~1cmロームブロック、ローム粒多く含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有
5mm程ロームブロック・ローム粒多量に含む
 - 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり稍有 粘性無
5mm程ロームブロック・炭少し含む
 - 10YR4/6 褐 締まり無 粘性有 ローム埋戻土
 - 10YR4/4 褐 締まり無 粘性有 ローム埋戻土に
黒褐色土ブロック混入



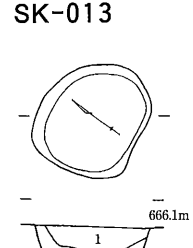
- 【SK-002】
- 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック少し含む
 - 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック少し含む
 - 10YR4/4 褐 締まり・粘性稍有



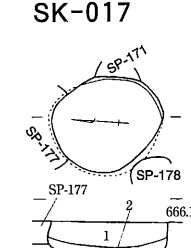
- 【SK-005】
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック・炭少し含む
 - 10YR4/2 灰黄褐 締まり無 粘性稍有
0.5~2cmロームブロック含む
 - 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性稍有
0.5~2cmロームブロック多く含む



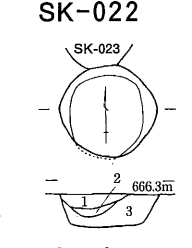
- 【SK-010】
- 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック・炭少し含む
 - 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり有 粘性無
炭少し含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり強 粘性稍有
1cm程のロームブロック少し含む



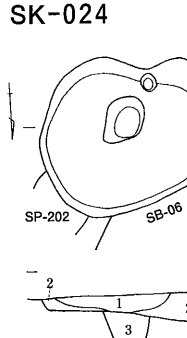
- 【SK-013】
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無
0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり・粘性無
0.5~1cmロームブロック多く含む



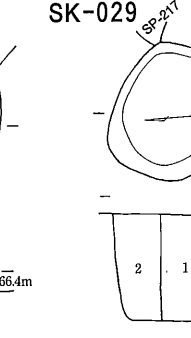
- 【SK-017】
- 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有
5mm程ロームブロック少し、炭多く含む
 - 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり・粘性稍有
0.5~1cmロームブロック含む



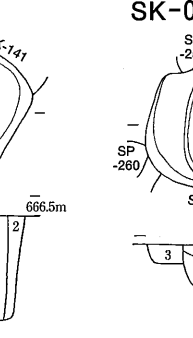
- 【SK-022】
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無
 - 10YR4/4 褐 締まり・粘性無
ローム埋戻土
 - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有
2~3cmロームブロック少し含む



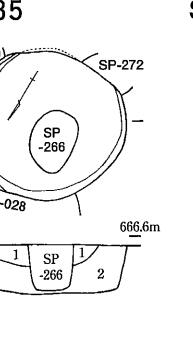
- 【SK-024】
- 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性稍有
5mm程ロームブロック含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック少し含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有
0.5~2cmロームブロック含む



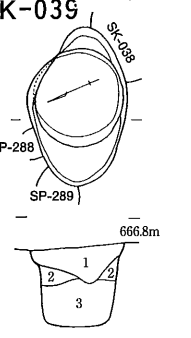
- 【SK-029】
- 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性有
5mm程ロームブロック少し、炭含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有
0.5~3cmロームブロック多く含む



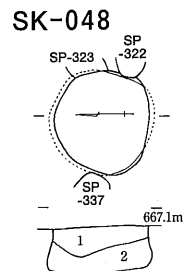
- 【SK-035】
- 7.5YR4/3 褐 締まり・粘性無
0.5~3cmロームブロック多く含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり稍有 粘性無
5mm程ロームブロック少し含む
 - 7.5YR4/2 灰褐 締まり・粘性無
0.5~1cmロームブロック含む



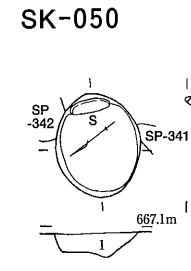
- 【SK-039】
- 7.5YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック少し含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有
0.5~1cmロームブロック多く含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有
0.5~1cmロームブロック・炭含む



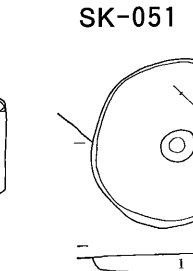
- 【SK-046】
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無
5mm程ロームブロック少し、炭多く含む
 - 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性稍有
炭少し含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり稍有 粘性無
5mm程ロームブロック含む



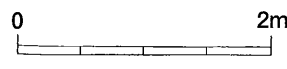
- 【SK-048】
- 7.5YR3/2 黒褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック・炭少し含む
 - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック・炭含む



- 【SK-050】
- 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性無
5mm程ロームブロック・炭少し含む

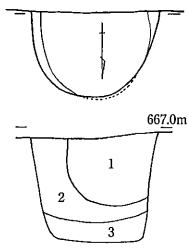


- 【SK-051】
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性稍有
5mm程ロームブロック・炭含む
 - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無
5mm程ロームブロック・炭含む



第16図 土壌 (1)

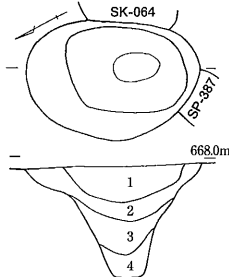
SK-054



【SK-054】

- 1 10YR4/4 褐 締まり無 粘性有 ローム埋戻土
- 2 10YR4/3 におい黄褐 締まり有 粘性有 0.5~2cmロームブロック多く含む
- 3 10YR2/2 黒褐 締まり有 粘性有 0.5~1cmロームブロック少し、炭多く含む

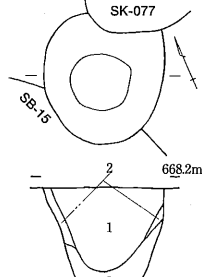
SK-066



【SK-066】

- 1 10YR2/1 黒 締まり有 粘性無 5mm程ロームブロック少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり有 粘性有 5mm程ロームブロック少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 4 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む

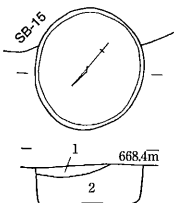
SK-078



【SK-078】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 2 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有
- 3 10YR4/3 におい黄褐 締まり無 粘性有

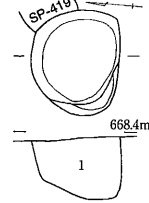
SK-079



【SK-079】

- 1 10YR3/1 黒褐 締まり有 粘性無
- 2 10YR1.7/1 黒 締まり・粘性有 炭含む

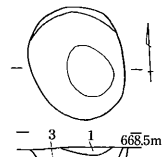
SK-083



【SK-083】

- 1 2.5Y3/1 黒褐 締まり・粘性無 0.5~1cmロームブロック含む

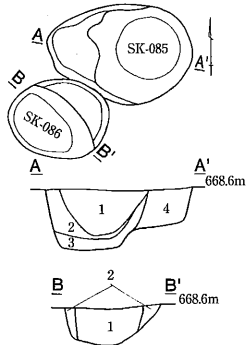
SK-084



【SK-084】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性無 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 2 7.5YR4/3 褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック含む
- 3 2.5YR4/6 赤褐 焼土層

SK-085・086



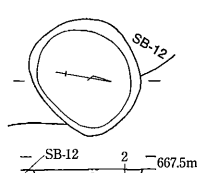
【SK-085】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性有 0.5~1cmロームブロック含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐 締まり有 粘性有
- 3 10YR3/2 黒褐 締まり有 粘性有 炭少し含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック少し含む

【SK-086】

- 1 7.5YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 炭含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐 締まり有 粘性有

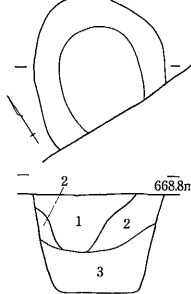
SK-087



【SK-087】

- 1 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 2 7.5YR4/3 褐 締まり・粘性無 焼土ブロック多く含む

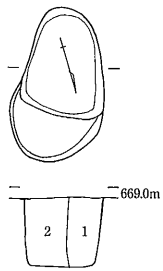
SK-094



【SK-094】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 炭含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 3 10YR4/3 におい黄褐 締まり有 粘性有

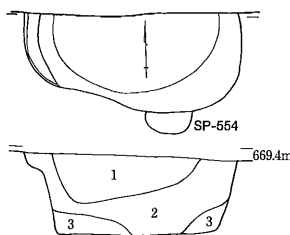
SK-104



【SK-104】

- 1 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 0.5~1cmロームブロック・炭含む

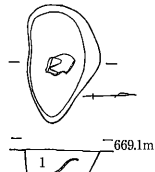
SK-107



【SK-107】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック少し、炭含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 締まり無 粘性有 0.5~1cmロームブロック多く、炭含む
- 3 10YR4/1 褐灰 締まり無 粘性有 0.5~3cmロームブロック多く含む

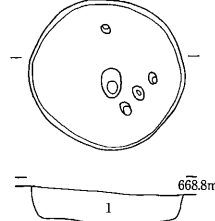
SK-105



【SK-105】

- 1 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 0.5~1cmロームブロック含む

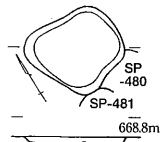
SK-097



【SK-097】

- 1 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性有 褐色土ブロック混入

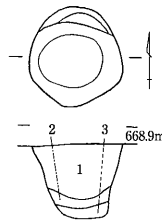
SK-098



【SK-098】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 0.5~1cmロームブロック多く含む

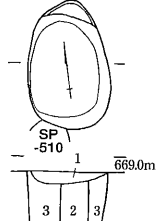
SK-100



【SK-100】

- 1 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性有
- 3 10YR3/3 暗褐 締まり有 粘性有

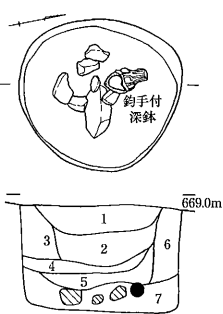
SK-102



【SK-102】

- 1 7.5YR3/2 黒褐 締まり有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐 締まり無 粘性有 0.5~1cmロームブロック少し、炭含む
- 3 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性有 0.5~2cmロームブロック含む

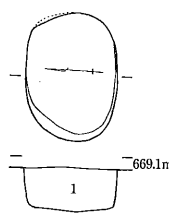
SK-099



【SK-099】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭含む 遺物 この層に集中
- 2 5YR4/3 におい赤褐 締まり・粘性無 焼土ブロックとの混合層 炭多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 4 10YR4/4 褐 締まり無 粘性有 焼土ブロック多く、炭含む
- 5 7.5YR4/3 褐 締まり・粘性有 焼土ブロック・炭含む
- 6 10YR4/3 におい黄褐 締まり有 粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む
- 7 10YR3/2 黒褐 締まり無 粘性有 5mm程ロームブロック・炭少し含む

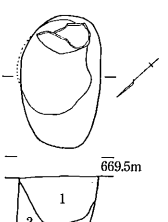
SK-106



【SK-106】

- 1 10YR4/2 灰黄褐 締まり有 粘性無 部分的に1~3cmのロームブロック含む

SK-108

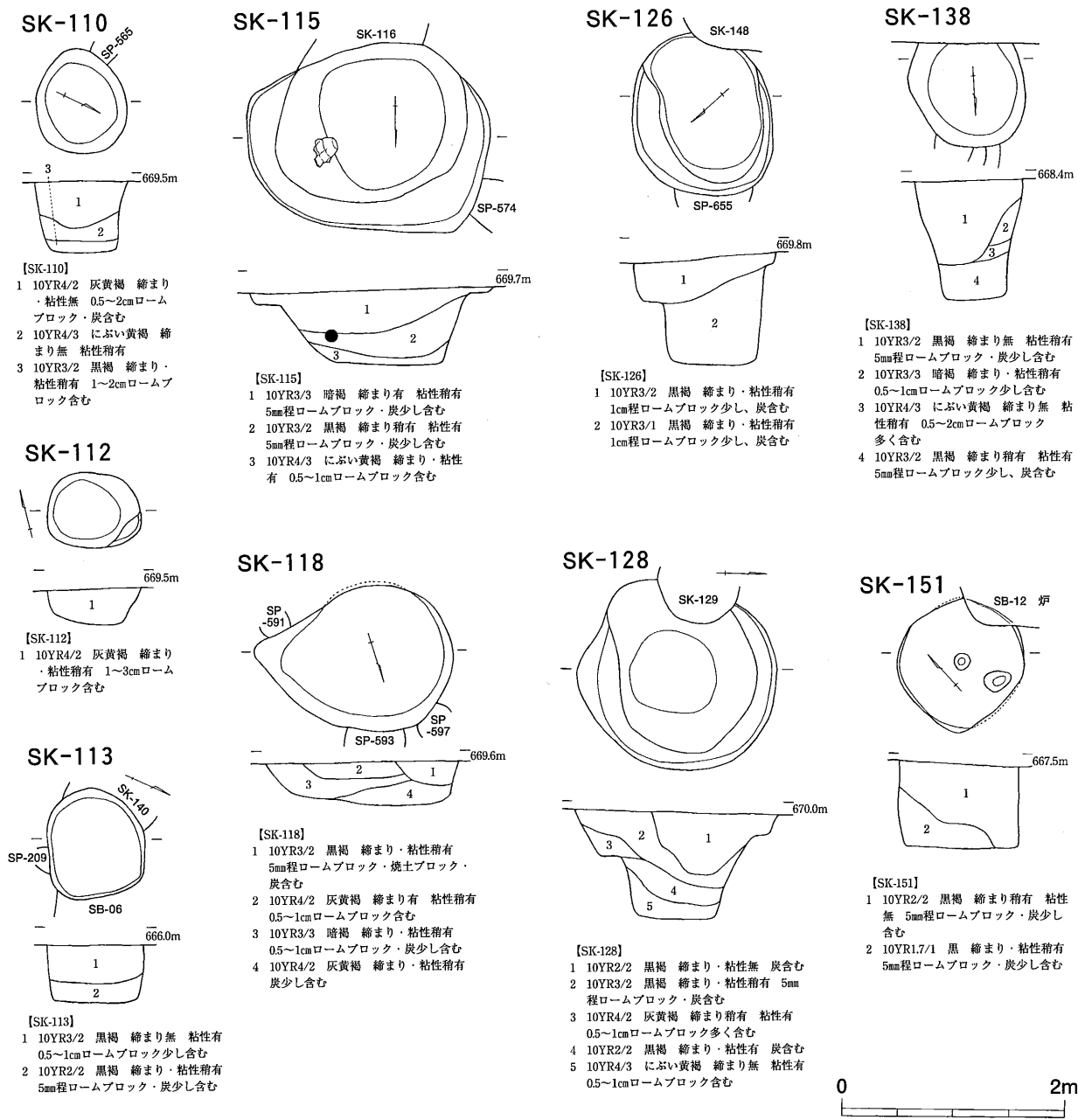


【SK-108】

- 1 10YR3/2 黒褐 締まり有 粘性無 0.5~1cmロームブロック・炭含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性有

第17図 土壌 (2)





第18図 土壌 (3)

③ その他の遺構

SX-001 (第16図) A3~5N区にて検出された。その南東端は調査区域外にまで及んでいるが、細長い溝みたいな平面形状を呈する遺構で、断面は台形状を呈する。覆土は4層に分けられたが、不自然な埋没状況は認められず、自然埋没していった様である。出土遺物は中期後葉の範疇で時期が混在している土器片が、ビニール袋で1袋分出土したほか、後期初頭称名寺式に位置付けられる半完形の深鉢 (第29図102) が1点だけ、底からかなり浮いた位置より出土した。この遺構の性格は不明である。

石が詰め込まれた穴 縄文時代の遺構ではなく攪乱であるが、E2・3N・S区にて検出された。土器片、打製石斧、凹石を初めとして、炉址を構成していたであろう被熱し割れた石、砂岩の剥片等が、詰め込まれた状態で発見された。これら遺物の間から、肥料袋らしきビニール片が見られたので、この地が戦後開墾された後から圃場整備される間に、耕作をしていた方が、土中から現れるこれら遺物を廃棄する為に掘った穴だと判断した。あまりに膨大な量であった為、定型的な石器しか持ち帰らなかったが、廃土置場には高い石の山ができた程である。その一部 (打製石斧 第42図61~63・73) を図化掲示した。

第1表 土壌一覽表

番号	検出箇所	平面形	断面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	切り合い関係 (「<」:切る 「>」:切られる)	備考
SK-001	A5N・S	楕円形	A		85	12	不明	>SP-005	遺物出土なし
SK-002	A6S	円形	B	86	82	29	不明	なし	土器の出土なし
SK-003	A8・9S	楕円形	G		178	99	中期後葉Ⅳ	なし	石器実測図44・124 南端調査区域外
SK-004	B4S		G	125		14	中期井戸尻式	<SB-02	南半調査区域外
SK-005	B7S	円形	G	80	71	49	不明	<SP-427・429・652	遺物出土なし
SK-006	B6N	不整楕円形	G	90	66	24	不明	>SP-059	土器小片のみ
SK-007	B7N	楕円形	G	101	74	18	不明	<SP-062・063・065	土器小片のみ
SK-008	B7N・S	長楕円形	G	82	55	51	不明	<SP-072	遺物出土なし
SK-009	B7・8N	不整形	F	105	85	28	不明	>SP-088	土器小片のみ
SK-010	B8N・S	円形	G	103	100	39	中期後葉Ⅰ	<SP-097・099	
SK-011	B9N		H			19	不明	なし	土器小片のみ 北の大半が調査区域外
SK-012	B9・10N	不整形	B	71		20	不明	>SP-137・139 <SP-138	遺物出土なし
SK-013	B10N	楕円形	D	95	83	40	不明	なし	遺物出土なし
SK-014	B10S	長楕円形	A	101	59	10	不明	>SP-156・157	土器の出土なし
SK-015	B9N・S	不整形	F	64	60	19	不明	なし	遺物出土なし
SK-016	B10・C1N	楕円形	F	59	47	34	不明	なし	土器の出土なし
SK-017	C1N	楕円形	E	86	73	30	中期後葉	<SP-171・177	
SK-018	C1・2N	円形	E			50	不明	>SK-019・SP-184・185	土器小片のみ 北の大半が調査区域外
SK-019	C1・2N	楕円形	F			32	不明	<SK-018・021・SP-185	土器小片のみ 北半調査区域外
SK-020	C2N・S	隅丸長方形	F	110	72	38	不明	なし	土器小片のみ
SK-021	C2N	長楕円形	G		44	25	不明	>SK-019	土器小片のみ 北端調査区域外
SK-022	C2S	円形	D	78	74	30	不明	<SK-023	遺物出土なし
SK-023	C2N・S	楕円形	A	77	65	7	不明	>SK-022 <SP-198	土器の出土なし 石器実測図25
SK-024	C3N・S	不整楕円形	G	143	126	48	不明	<SB-06・SP-201・202	土器小片のみ
SK-025	C2・3N	楕円形	A			16	不明	>SB-06・SP-201	遺物出土なし
SK-026	C4N・S	楕円形	F	72	60	29	不明	>SB-06 <SP-215・217	遺物出土なし
SK-027	C4S	円形	B			17	不明	なし	遺物出土なし 南半調査区域外
SK-028	C7N	楕円形	G		100	71	中期後葉Ⅲ	>SK-035・036・SP-267	
SK-029	C5N・S	隅丸長方形	D	109	87	91	中期後葉	<SK-141・SP-217	
SK-030	C5N	不整楕円形	D	79	66	20	不明	<SP-230	遺物出土なし
SK-031	C5・6N・S	円形	F	69	67	34	不明	<SP-231・240	土器の出土なし
SK-032	C5・6N	長楕円形	A		71	14	中期井戸尻式	>SP-237	北半調査区域外
SK-033	C6・7N	楕円形	D		54	42	中期後葉Ⅰ	>SP-254・256・257・260	
SK-034	C6・7N	不整形	H			15	不明	>SP-263・264	遺物出土なし 北半調査区域外
SK-035	C7N・S	楕円形	G	149	120	34	中期後葉Ⅱ	>SP-266 <SK-028・SP-259・272	石器実測図106・107
SK-036	C7N	楕円形	G	74	60	26	不明	<SK-028・SP-280	土器小片のみ
SK-037	C7N		B			22	不明	>SP-270 <SP-269・283	土器小片のみ 北側の大半調査区域外
SK-038	C8N	楕円形	D		84	23	不明	>SB-08・SK-039	土器小片のみ
SK-039	C8N	長楕円形	G	126	80	65	中期井戸尻式?	<SK-038・SP-288・289	石器実測図18
SK-040	C8N	楕円形	A	56	45	8	不明	なし	土器小片のみ
SK-041	C9N		B			13	不明	>SB-09・10	遺物出土なし
SK-042	C8N	円形	A		55	13	不明	>SP-290	遺物出土なし 北半調査区域外
SK-043	C10S	楕円形	D		58	36	不明	>SB-10	遺物出土なし
SK-044	D1S	楕円形	B		73	29	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	>SP-321 <SK-045	石器実測図27 南半調査区域外
SK-045	D1S	楕円形	B		81	26	不明	>SK-044・046・SP-321	遺物出土なし
SK-046	D1S	円形	D	87	83	44	中期後葉Ⅱ	<SK-045・SP-329	石器実測図81・84・85 南端調査区域外
SK-047									欠番
SK-048	D1N	円形	E	82	76	34	中期後葉	>SP-322 <SP-323	
SK-049									欠番
SK-050	D2S	楕円形	B	81	67	19	不明	<SP-341・342	土器小片のみ
SK-051	D2N	円形	F	142	130	30	中期後葉Ⅴ	<SB-11	石器実測図108
SK-052	D4N	長楕円形	C	91		66	中期後葉Ⅰ	>SK-137 <>SB-14	
SK-053	C10S	楕円形	F			33	中期井戸尻Ⅰ	>SB-10	石器実測図109
SK-054	D4N		C		100	85	中期後葉Ⅳ	<SB-14	石器実測図110
SK-055	D4・5N	円形	D	63	56	60	不明	<SB-14	土器小片のみ
SK-056								欠番	
SK-057	D5S	不整楕円形	G	124	96	91	中期後葉Ⅳ	<SB-14	
SK-058	D7・8N	隅丸長方形	D	110	75	37	中期後葉Ⅰ	>SB-13・SP-366	
SK-059	D8N	不整楕円形	B	81	57	24	不明	なし	遺物出土なし
SK-060	D9N	楕円形	B			16	不明	なし	遺物出土なし 北側の大半調査区域外
SK-061	D9・10N	長楕円形	A		77	15	中期後葉	なし	北半調査区域外
SK-062	D10N	円形	G	72		33	不明	>SK-063・SP-383・384	遺物出土なし
SK-063	D10N・S	楕円形	D	69	51	31	不明	<SK-062・064・SP-384	土器小片のみ
SK-064	D10N	楕円形	B	106		19	不明	>SK-063・066・SP-384・385	土器小片のみ
SK-065	D10・E1S	円形	B		59	15	不明	>SP-383	遺物出土なし
SK-066	D10・E1N	楕円形	G	138	92	89	不明	<SK-064・SP-387	土器の出土なし
SK-067	E1N・S	長楕円形	F		61	31	不明	>SP-386 <SP-395	土器小片のみ
SK-068	E1S		F			20	不明	なし	土器の出土なし 南半調査区域外
SK-069	E1N・S	楕円形	B		19	19	不明	>SP-396・398・399	遺物出土なし
SK-070	E2N・S	楕円形	B		60	20	不明	>攪乱	土器小片のみ
SK-071	E2S	楕円形	B		62	20	不明	なし	土器小片のみ 南端調査区域外
SK-072	E1・2N	楕円形	G			35	不明	>攪乱・SP-400	土器小片のみ
SK-073	E2S	楕円形	G	120	82	50	中期後葉	<SK-074	
SK-074	E2S	長楕円形	B	150		25	不明	>攪乱・SK-073・SP-405	土器小片のみ
SK-075	E2N・S, E3N	長楕円形	A	127		18	中期後葉Ⅱ	>攪乱	
SK-076	E2・3N	不整形	G	89		24	中期後葉Ⅲ	なし	北端調査区域外
SK-077	E3N	楕円形	F	104		29	不明	<SK-078	各時期の土器混在
SK-078	E3N	円形	D		93	103	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	>SK-077 <SB-15	
SK-079	E4・5N	円形	B	95	84	30	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	<SB-15	欠損した磨製石斧I
SK-080	E5N	不整形	F	76	54	31	不明	なし	土器小片のみ
SK-081	E6N	楕円形	G	72	49	25	中期後葉Ⅰ	なし	

番号	検出箇所	平面形	断面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	切り合い関係 (「<」:切る 「>」:切られる)	備考
SK-082	E6N	楕円形	D	60	52	26	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	なし	
SK-083	E6N	楕円形	F	83	69	64	中期後葉	<SP-419	
SK-084	E7N	楕円形	D	89	74	30	中期後葉Ⅳ	なし	
SK-085	E7・8N・E8S	楕円形	G	114	79	51	中期後葉Ⅲ	>SK-086	
SK-086	E8N・S	円形	G	69	67	29	不明	<SK-085	土器小片のみ
SK-087	D6N	楕円形	A	89	79	20	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	<SB-12	底面焼けている 覆土中から際多く出土
SK-088	E8N	不整形	H			96	中期井戸尻式	<SK-089	幾つかの遺構を1つとした可能性大
SK-089	E8N	楕円形	D	77		35	不明	>SK-088	土器の出土なし
SK-090	E8・9N・S	円形	A	91	87	17	不明	>SP-433	遺物出土なし
SK-091									欠番
SK-092	E9・10N・S	楕円形	B		85	25	中期後葉Ⅳ	<>SB-16	
SK-093									欠番
SK-094	F1S	楕円形	D		103	84	不明	なし	遺物出土なし 南半調査区域外
SK-095									欠番
SK-096	F2N	楕円形	G	85	64	40	中期後葉Ⅰ	<SP-459	
SK-097	F2N・S	円形	F	124	118	43	不明	なし	遺物出土なし
SK-098	F4N	不整楕円形	D	84	64	43	不明	>SP-481 <SP-480	遺物出土なし
SK-099	F4・5N・S	円形	C	132	122	87	中期後葉Ⅴ	なし	土器実測図114～125、拓影図54～68
SK-100	F5N	円形	G	81	74	63	中期後葉	なし	
SK-101	F5N	円形	G	85		37	中期後葉Ⅴ	なし	北半調査区域外
SK-102	F7N	長楕円形	G	104	64	54	中期後葉	<SP-510	
SK-103	F6・7N	楕円形	D		64	25	中期後葉	>SP-514	
SK-104	F7・8N	長楕円形	G	124	73	57	中期後葉	なし	
SK-105	F9N	不整楕円形	D	94	57	31	中期後葉Ⅴ	なし	土器実測図128、拓影図70
SK-106	F9N・S	楕円形	C	102	73	35	不明	なし	土器小片のみ
SK-107	G3・4N	楕円形	G	175		67	中期後葉Ⅳ	>SP-554	拓影図72～76
SK-108	G3・4N・S	長楕円形	C	104	62	49	中期後葉Ⅴ	なし	甕被葬墓か 土器実測図126
SK-109	G4・5N・S	円形	A	71	66	14	不明	<SP-561・563	遺物出土なし
SK-110	G4・5N	円形	D	96	84	64	不明	<SP-565	土器出土なし 覆土中に際多い
SK-111	G4・5N	不整形	H			75	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	なし	幾つかの遺構を1つとした可能性大
SK-112	G3N・S	楕円形	G	84	70	30	中期後葉Ⅳ	なし	
SK-113	C3・4S	楕円形	D	99	87	60	不明	<SB-06・SK-140・SP-209	土器出土なし
SK-114	G6N・S	楕円形	G		52	39	中期後葉Ⅴ	>SK-119	土器実測図127
SK-115	G5N	楕円形	G	219	169	70	中期後葉Ⅳ	<SK-116・SP-574	土器実測図133 石器実測図112
SK-116	G5N・S	長楕円形	A		86	15	不明	>SK-115	遺物出土なし
SK-117	G6・7N	楕円形	G	78	66	71	中期後葉Ⅳ	なし	
SK-118	G7・8N	不整楕円形	D	179	131	44	中期後葉Ⅳ	<SP-591・593・597	拓影図77・78 石器実測図113
SK-119	G6・7S	楕円形	D		66	40	不明	<SK-114	南半調査区域外
SK-120	G7S	楕円形	D		59	36	不明	なし	土器小片のみ 南半調査区域外
SK-121	G8・9N	円形	D	76		28	中期後葉Ⅲ	<SP-654 >SB-18	土器実測図111・113 凹石1
SK-122	G9N	楕円形	G		72	26	中期後葉Ⅳ	<SP-654 >SB-18	石器実測図45
SK-123	G9N	楕円形	G		46		中期後葉Ⅲ～Ⅳ	>SP-601	石器実測図116
SK-124	G10N	楕円形	G			58	不明	>SX-003・SP-608	遺物出土なし
SK-125									欠番
SK-126	G10N	楕円形	G		125	101	中期後葉Ⅳ	>SK-148 <SP-655	土器実測図132・136
SK-127	H1S		G			79	不明	なし	土器小片のみ
SK-128	H2・3N・S	円形	G	185	170	95	不明	>SK-129	土器小片のみ
SK-129	H3N・S	楕円形	F	74	66	29	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	<SK-128・SP-630・631	
SK-130	H3N・S	楕円形	A	81	74	14	不明	なし	土器小片のみ
SK-131	H4・5N	楕円形	A	77	60	11	中期後葉	なし	
SK-132	H5N	楕円形	F	77	66	23	不明	なし	遺物出土なし
SK-133	H6N・S	楕円形	F		100	66	不明	<SP-640	土器小片のみ 石器実測図115 南端調査区域外
SK-134	H6N	長楕円形	G	87	65	38	不明	なし	土器小片のみ
SK-135	H6S	不整形	F		77	26	不明	<SP-644	土器小片のみ
SK-136	H8・9N・H8S	楕円形	F	106	77	28	不明	なし	土器小片のみ
SK-137	D4N	不整楕円形	D	74	60	44	中期後葉Ⅲ～Ⅳ	<SB-11・SK-052	土器実測図112
SK-138	E4・5N・S	楕円形	C		103	108	後期前葉	<SB-15	土器実測図131 拓影図71 石器実測図114・117
SK-139									欠番
SK-140	C4S	楕円形	D		80	46	不明	>SK-113 <SB-06・SP-210	
SK-141	C4・5S	楕円形	C		79	107	不明	>SK-029 <SP-215～217・224	
SK-142	D1N	不整楕円形	B	74	65	17	不明	なし	
SK-143	D1N		F			27	不明	<SP-339	土器出土なし 北半調査区域外
SK-144	D3N	円形	B	76	72	21	中期後葉Ⅱ	<SB-11	土器実測図134
SK-145	E10N・S	楕円形	H	123	90	28	不明	<SB-17・19	
SK-146	G8・9N・S	楕円形	G	108	95	42	後期前葉	<SB-18	土器実測図135 石器実測図3
SK-147	G9S	長楕円形	D	99		53	不明	>SB-18	
SK-148	G10N	不整形	G	129	96	40	不明	>SP-607・608 <SK-126	幾つかの遺構を1つとした可能性大
SK-149	D6・7N	不整形	G	117	100	31	不明	>SB-12	
SK-150	D7N	楕円形	G		85	62	不明	>SB-12・SK-149	
SK-151	D7S	円形	E	112	108	88	不明	>SB-12	
SK-152	D7・8N	楕円形	G	118		78	不明	<>SB-13	
SK-153	D4・5S	円形	E	76	74	59	不明	<SB-14	
SK-154	E3N・S	不整形	G		95	30	不明	>SB-15	
SK-155	E4N	楕円形	B		88	22	不明	>SB-15	

※ 断面形の欄、記号は下記の意を示す。

「A:皿状」、「B:タライ状」、「C:桶状」、「D:台形状」、「E:袋状」、「F:底面に小ピットが伴う」、「G:2段以上に掘り込まれている」、「H:不整形」

※ 土壌の計測数値欄空白のものは、切り合いや調査区域外に及ぶ為計測不可である。

第2表 ヒット一覧表

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-001	A1S	4	出土遺物なし
SP-002	A1S	5	出土遺物なし
SP-003	A2S	12	出土遺物なし
SP-004	A4N	4	出土遺物なし
SP-005	A5N	25	出土遺物なし
SP-006	A5N	6	出土遺物なし
SP-007	A6N	7	出土遺物なし
SP-008	A6S	12	出土遺物なし
SP-009	A6S	14	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-010	A7S	8	出土遺物なし
SP-011	A7N	19	出土遺物なし
SP-012	A7N	25	土器小片3 中期後葉
SP-013	A7S	14	出土遺物なし
SP-014	A8N	16	出土遺物なし
SP-015	A8N・S	22	時期判別不可な土器小片5
SP-016	A8S	10	出土遺物なし
SP-017	A8N	16	土器小片3 中期後葉Ⅲ～Ⅳ
SP-018	A9N・S	25	出土遺物なし
SP-019	A9・10S	14	出土遺物なし
SP-020	A9S	15	出土遺物なし
SP-021	B1S	12	出土遺物なし
SP-022	B1・2S	5	礫のみ出土
SP-023	B1・2S	11	出土遺物なし
SP-024	B1S	14	出土遺物なし
SP-025	B2N	14	出土遺物なし
SP-026	B2N・S	12	出土遺物なし
SP-027	B2N	7	出土遺物なし
SP-028	B2S	12	出土遺物なし
SP-029	B2S	26	時期判別不可な土器小片1
SP-030	B2S	6	出土遺物なし
SP-031	B2S	8	出土遺物なし
SP-032	B2S	20	礫のみ出土
SP-033	B2N・S	11	平石1
SP-034	B2N	17	出土遺物なし
SP-035	B2N	26	出土遺物なし
SP-036	B3S	20	出土遺物なし
SP-037	B3S	5	出土遺物なし
SP-038	B3S	11	出土遺物なし
SP-039	B3S	7	出土遺物なし
SP-040	B3S	8	出土遺物なし
SP-041	B3S	26	出土遺物なし
SP-042	B3N・S	6	出土遺物なし
SP-043	B3N	5	出土遺物なし
SP-044	B3N	13	出土遺物なし 北半調査区域外
SP-045	B3N	10	出土遺物なし 北半調査区域外
SP-046	B3N	13	出土遺物なし
SP-047	B3N	7	出土遺物なし
SP-048	B3N・S	11	出土遺物なし
SP-049	B3S	20	出土遺物なし
SP-050	B3S	10	出土遺物なし
SP-051	B3N・S	11	出土遺物なし
SP-052	B4S	40	出土遺物なし
SP-053	B4N・S	41	出土遺物なし
SP-054	B4N	24	出土遺物なし
SP-055	B4N	12	時期判別不可な土器小片1
SP-056	B4・5N	17	中期井戸尻Ⅰ 北半調査区域外
SP-057	B6N・S	26	出土遺物なし
SP-058	B6S	10	出土遺物なし
SP-059	B6N	17	出土遺物なし
SP-060	B6・7N	25	出土遺物なし
SP-061	B6・7N	15	出土遺物なし
SP-062	B7N	17	出土遺物なし
SP-063	B7N	10	出土遺物なし
SP-064	B7N・S	13	出土遺物なし
SP-065	B7N	17	時期判別不可な土器小片1
SP-066	B7S	35	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-067	B7S	11	出土遺物なし
SP-068	B7S	11	出土遺物なし
SP-069	B7S	10	出土遺物なし
SP-070	B7S	15	出土遺物なし
SP-071	B7S	19	出土遺物なし
SP-072	B7S	21	礫のみ出土
SP-073	B7S	14	出土遺物なし
SP-074	B7S	21	出土遺物なし
SP-075	B7S	10	出土遺物なし
SP-076	B7N	16	出土遺物なし
SP-077	B7N	19	出土遺物なし
SP-078	B7N	20	時期判別不可な土器小片1
SP-079	B7N	25	時期判別不可な土器小片3
SP-080	B7N・S	19	出土遺物なし
SP-081	B7S	12	出土遺物なし

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-082	B7S	16	出土遺物なし
SP-083	B7S	10	出土遺物なし
SP-084	B7・8S	12	出土遺物なし
SP-085	B7・8N	13	出土遺物なし
SP-086	B7N	15	出土遺物なし
SP-087	B7N	5	出土遺物なし
SP-088	B8N	19	出土遺物なし
SP-089	B8N	18	出土遺物なし
SP-090	B8N	11	礫のみ出土
SP-091	B8S	14	出土遺物なし
SP-092	B8S	13	出土遺物なし
SP-093	B8S	17	出土遺物なし
SP-094	B8S	18	出土遺物なし
SP-095	B8S	25	出土遺物なし
SP-096	B8N	22	出土遺物なし
SP-097	B8N・S	7	出土遺物なし
SP-098	B8N	8	時期判別不可な土器小片のみ
SP-099	B8N	14	出土遺物なし
SP-100	B8N	15	出土遺物なし
SP-101	B8N	7	出土遺物なし
SP-102	B8N	18	出土遺物なし
SP-103	B8S	13	出土遺物なし
SP-104	B8S	12	出土遺物なし 南端調査区域外
SP-105	B8S	21	出土遺物なし
SP-106	B8・9S	20	井戸尻Ⅲの土器片1
SP-107	B8・9S	17	出土遺物なし
SP-108	B8・9N	15	出土遺物なし 礫のみ出土
SP-109	B9N	17	出土遺物なし 礫のみ出土
SP-110	B9N	20	出土遺物なし
SP-111	B9N	12	出土遺物なし
SP-112	B9N	13	出土遺物なし
SP-113	B9S	13	出土遺物なし
SP-114	B9S	21	出土遺物なし
SP-115	B9N・S	7	出土遺物なし
SP-116	B9N	16	出土遺物なし
SP-117	B9N	17	出土遺物なし
SP-118	B9N	9	出土遺物なし
SP-119	B9N	10	出土遺物なし
SP-120	B9S	20	出土遺物なし
SP-121	B9N・S	8	出土遺物なし
SP-122	B9N・S	15	出土遺物なし
SP-123	B9N	22	出土遺物なし
SP-124	B9N	10	出土遺物なし
SP-125	B9S	4	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-126	B9S	17	出土遺物なし
SP-127	B9S	5	出土遺物なし
SP-128	B9S	7	出土遺物なし
SP-129	B9S	13	出土遺物なし
SP-130	B9S	17	出土遺物なし
SP-131	B9N・S	9	出土遺物なし
SP-132	B9N	9	出土遺物なし
SP-133	B9N	25	時期判別不可な土器小片3
SP-134	B9S	19	礫のみ出土
SP-135	B9S	24	時期不明な土器小片1
SP-136	B10S	19	時期判別不可な土器小片1
SP-137	B9・10N・S	17	出土遺物なし
SP-138	B10N	19	出土遺物なし
SP-139	B10N	19	時期判別不可な土器小片1
SP-140	B10N	15	出土遺物なし
SP-141	B10N	20	時期判別不可な土器小片1
SP-142	B10N	8	出土遺物なし
SP-143	B10N	10	出土遺物なし
SP-144	B10N	15	出土遺物なし
SP-145	B10N・S	16	礫のみ出土
SP-146	B10S	21	出土遺物なし
SP-147	B10N・S	16	出土遺物なし
SP-148	B10N	8	出土遺物なし
SP-149	B10N	12	出土遺物なし
SP-150	B10N	13	出土遺物なし
SP-151	B10N	15	出土遺物なし
SP-152	B10N	12	時期判別不可な土器小片1
SP-153	B10N	6	出土遺物なし
SP-154	B10N	8	出土遺物なし
SP-155	B10S	14	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-156	B10S	29	出土遺物なし
SP-157	B10S	20	時期判別不可な土器小片1
SP-158	B10S	12	出土遺物なし
SP-159	B10S	22	出土遺物なし
SP-160	B10S	19	時期判別不可な土器小片2
SP-161	B10N・S	5	出土遺物なし
SP-162	B10S	12	出土遺物なし

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-163	B10・C1S	11	出土遺物なし
SP-164	B10・C1S	38	礫のみ出土
SP-165	C1N	8	出土遺物なし
SP-166	C1N	14	土器小片3 中期後葉
SP-167	C1N	13	黒曜石小剥片1
SP-168	C1N	18	土器小片5 中期後葉 北半調査区域外
SP-169	C1N	6	出土遺物なし
SP-170	C1N・S	16	時期判別不可な土器小片1
SP-171	C1N	20	出土遺物なし
SP-172	C1S	16	出土遺物なし
SP-173	C1S	21	出土遺物なし
SP-174	C1S	15	出土遺物なし
SP-175	C1S	18	出土遺物なし
SP-176	C1S	12	出土遺物なし
SP-177	C1N	30	出土遺物なし
SP-178	C1N	8	出土遺物なし
SP-179	C1N	10	時期判別不可な土器小片2
SP-180	C1N	8	出土遺物なし
SP-181	C1S	15	出土遺物なし
SP-182	C1N・S	31	礫のみ出土
SP-183	C1・2N・S	5	出土遺物なし
SP-184	C1N	20	出土遺物なし
SP-185	C1・2N	19	出土遺物なし
SP-186			欠番
SP-187	C2N	8	出土遺物なし
SP-188	C2N	11	出土遺物なし
SP-189	C2N	13	出土遺物なし
SP-190	C2N	15	出土遺物なし
SP-191	C2S	9	出土遺物なし
SP-192	C2S	8	出土遺物なし
SP-193	C2S	16	出土遺物なし
SP-194	C2S	9	出土遺物なし
SP-195	C2S	3	出土遺物なし
SP-196	C2S	16	出土遺物なし
SP-197	C2S	7	礫のみ出土
SP-198	C2N・S	16	出土遺物なし
SP-199	C2N	25	礫のみ出土
SP-200	C2N	14	出土遺物なし 北半調査区域外
SP-201	C3N	27	土器小片3 中期後葉
SP-202	C3N	14	土器小片1 中期後葉
SP-203	C2・3S	11	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-204	C3S	17	礫のみ出土
SP-205	C3S	18	出土遺物なし
SP-206	C3S	15	出土遺物なし
SP-207	C3S	9	礫のみ出土
SP-208	C3S	12	礫のみ出土
SP-209	C3S	19	時期判別不可な土器小片1
SP-210	C4S	19	出土遺物なし
SP-211	C4S	15	出土遺物なし
SP-212	C4S	22	出土遺物なし
SP-213	C4S	12	出土遺物なし
SP-214	C4S	20	出土遺物なし
SP-215	C4S	11	出土遺物なし
SP-216	C4S	8	出土遺物なし
SP-217	C4N・S	9	出土遺物なし
SP-218	C5N	18	礫のみ出土
SP-219	C4N	10	出土遺物なし
SP-220	C5N	21	出土遺物なし
SP-221	C5N	26	出土遺物なし
SP-222	C5N	14	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-223	C5N	21	出土遺物なし
SP-224	C5N	11	出土遺物なし
SP-225	C5S	13	出土遺物なし
SP-226	C5S	18	礫のみ出土
SP-227	C5S	7	礫のみ出土
SP-228	C5S	14	礫のみ出土
SP-229	C5S	18	出土遺物なし
SP-230	C5N	11	出土遺物なし
SP-231	C5N・S	24	出土遺物なし
SP-232	C5N	14	出土遺物なし
SP-233	C5N	12	出土遺物なし
SP-234	C5N	14	礫のみ出土
SP-235	C5N	20	出土遺物なし
SP-236	C5N	15	出土遺物なし
SP-237	C5N	15	出土遺物なし
SP-238	C5・6N	17	土器小片2 中期井戸Ⅲ
SP-239	C5N	13	出土遺物なし
SP-240	C6N	15	出土遺物なし
SP-241	C6N	17	出土遺物なし
SP-242	C6N	14	出土遺物なし
SP-243	C6N	28	出土遺物なし
SP-244	C6N	13	時期判別不可な土器小片1

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-245	C6N	83	時期判別不可な土器小片5
SP-246	C6N	22	土器小片1 中期後葉
SP-247	C6N	15	出土遺物なし
SP-248	C6N	16	出土遺物なし
SP-249	C6N	24	礫のみ出土
SP-250	C6N	13	出土遺物なし
SP-251	C6N	22	時期判別不可な土器小片1
SP-252	C6N	43	土器小片5 中期井戸Ⅲ
SP-253	C6N	23	出土遺物なし
SP-254	C6N	25	出土遺物なし
SP-255	C6N	19	出土遺物なし
SP-256	C6N	19	出土遺物なし
SP-257	C6N	18	出土遺物なし
SP-258	C6・7N	13	時期判別不可な土器小片1
SP-259	C7S	10	出土遺物なし
SP-260	C6・7S	41	出土遺物なし
SP-261	C7N	11	出土遺物なし
SP-262	C7N	18	礫のみ出土
SP-263	C7N	10	出土遺物なし
SP-264	C7N	22	出土遺物なし
SP-265	C7N	16	土器小片1 中期後葉Ⅰ
SP-266	C7S	35	井戸Ⅲ
SP-267	C7N	10	礫のみ出土
SP-268	C7N	17	出土遺物なし
SP-269	C7N	16	出土遺物なし
SP-270	C7N	18	礫のみ出土
SP-271	C7N	10	出土遺物なし
SP-272	C7S	40	出土遺物なし
SP-273	C7S	12	出土遺物なし
SP-274	C7N・S	9	出土遺物なし
SP-275	C7N	13	出土遺物なし
SP-276	C7N	19	出土遺物なし
SP-277			欠番
SP-278	C7N	21	礫のみ出土
SP-279			欠番
SP-280	C7N	15	出土遺物なし
SP-281	C7N	16	出土遺物なし
SP-282	C7N	15	出土遺物なし
SP-283	C7N	16	出土遺物なし
SP-284	C7・8N	12	出土遺物なし
SP-285	C7・8N	14	時期判別不可な土器小片1
SP-286	C8N	34	チャート小剥片1
SP-287	C8N	13	出土遺物なし
SP-288	C8N	20	出土遺物なし
SP-289	C8N	22	出土遺物なし
SP-290	C8N	18	出土遺物なし
SP-291	C8N	19	出土遺物なし
SP-292	C8N	9	出土遺物なし
SP-293	C8N	12	礫のみ出土
SP-294	C8・9N	17	礫のみ出土
SP-295	C9N	18	出土遺物なし
SP-296	C8S	10	出土遺物なし
SP-297	C8S	13	出土遺物なし
SP-298	C8・9N・S	9	出土遺物なし
SP-299	C8・9S	10	出土遺物なし
SP-300	C9S	11	出土遺物なし
SP-301	C9S	7	出土遺物なし
SP-302	C9N	24	土器小片1 中期後葉
SP-303	C9S	10	出土遺物なし
SP-304	C9S	20	出土遺物なし
SP-305	C9S	10	出土遺物なし
SP-306	C9S	21	礫のみ出土
SP-307	C9S	9	出土遺物なし
SP-308	C9S	14	出土遺物なし
SP-309	C9S	13	礫のみ出土
SP-310	C9S	12	出土遺物なし
SP-311	C10S	20	出土遺物なし
SP-312	C10S	24	出土遺物なし
SP-313	C10・D1S	24	土器小片1 中期後葉Ⅱ～Ⅲ
SP-314	C10・D1S	14	礫のみ出土
SP-315	D1S	14	礫のみ出土
SP-316	D1S	16	出土遺物なし
SP-317	D1N・S	21	出土遺物なし
SP-318	D1N	18	礫のみ出土
SP-319	D1N・S	15	出土遺物なし
SP-320	D1N・S	17	出土遺物なし
SP-321	D1S	28	時期判別不可な土器小片1
SP-322	D1N	23	時期判別不可な土器小片1
SP-323	D1N	22	出土遺物なし
SP-324	D1N	17	土器小片1 中期後葉
SP-325	D1N	18	出土遺物なし
SP-326	D1N・S	17	出土遺物なし

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-327	D1S	4	出土遺物なし
SP-328	D1S	24	土器小片1 中期後葉
SP-329	D1S	44	出土遺物なし
SP-330	D1S	19	出土遺物なし
SP-331	D1・2S	10	時期判別不可な土器小片1
SP-332	D2S	26	出土遺物なし
SP-333	D1N・S	15	出土遺物なし
SP-334	D1N	16	出土遺物なし
SP-335	D1・2N	30	出土遺物なし
SP-336	D1N	15	時期判別不可な土器小片3
SP-337	D1N	27	中期後葉Ⅰ
SP-338	D1N	17	時期判別不可な土器小片3
SP-339	D1N	15	出土遺物なし
SP-340	D2S	15	時期判別不可な土器小片1 黒曜石剥片1
SP-341	D2S	6	出土遺物なし
SP-342	D2S	39	出土遺物なし
SP-343	D2S	16	出土遺物なし
SP-344	D2N	30	時期判別不可な土器小片3
SP-345	D2N	28	時期判別不可な土器小片1
SP-346	D2N	21	出土遺物なし
SP-347	D3・4N	11	出土遺物なし
SP-348	D4N	14	出土遺物なし
SP-349			欠番
SP-350			欠番
SP-351			欠番
SP-352	D5N	16	出土遺物なし
SP-353	D5N	32	時期判別不可な土器小片3
SP-354	D5N	32	出土遺物なし
SP-355			欠番
SP-356	D5N	10	出土遺物なし
SP-357	D5N	9	出土遺物なし
SP-358	D5N	3	出土遺物なし
SP-359	D6N・S	11	出土遺物なし
SP-360	D6N	20	時期判別不可な土器小片1
SP-361	D6N	10	時期判別不可な土器小片2
SP-362	D7N	12	出土遺物なし
SP-363	D7N	15	時期判別不可な土器小片3
SP-364	D7・8N	7	出土遺物なし
SP-365	D7・8N	30	時期判別不可な土器小片2
SP-366	D8N	13	出土遺物なし
SP-367	D8N	20	時期判別不可な土器小片2
SP-368	D9N	22	時期判別不可な土器小片2
SP-369	D9S	20	礫のみ出土
SP-370	D9S	16	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-371	D9N・S	12	出土遺物なし
SP-372	D9N	27	出土遺物なし
SP-373	D9N	17	出土遺物なし
SP-374	D9S	21	出土遺物なし
SP-375	D9S	22	出土遺物なし
SP-376	D9S	15	出土遺物なし
SP-377	D9・D10N	16	出土遺物なし
SP-378	D10N・S	9	時期判別不可な土器小片1
SP-379	D10N	11	出土遺物なし
SP-380	D10N	20	出土遺物なし
SP-381	D10N	13	時期判別不可な土器小片1
SP-382	D10N	15	黒曜石小剥片1
SP-383	D10・E1S	13	出土遺物なし
SP-384	D10N・S	22	黒曜石小剥片2
SP-385	D10N・S	22	出土遺物なし
SP-386	E1S	34	中期後葉Ⅱ～Ⅲ
SP-387	E1N	23	出土遺物なし
SP-388	E1N	16	出土遺物なし
SP-389	E1N	13	出土遺物なし
SP-390	E1N	21	時期判別不可な土器小片2 北半調査区域外
SP-391	E1N	13	出土遺物なし
SP-392	E1N	21	出土遺物なし
SP-393	E1N	15	礫のみ出土
SP-394	E1S	17	出土遺物なし
SP-395	E1N・S	23	土器小片3 中期後葉
SP-396	E1N	27	中期後葉Ⅲ
SP-397	E1N	18	礫のみ出土
SP-398	E1N	15	出土遺物なし
SP-399	E1N	19	出土遺物なし
SP-400	E1・2N	14	時期判別不可な土器小片1
SP-401	E1N	21	時期判別不可な土器小片1
SP-402	E1N	15	出土遺物なし
SP-403	E2N	15	土器小片1 中期後葉Ⅲ～Ⅳ
SP-404	D1・2N	18	土器小片1 中期後葉
SP-405	E2N	27	出土遺物なし
SP-406	E2N	48	中期後葉Ⅳ 北半調査区域外
SP-407	E2N	14	時期判別不可な土器小片1
SP-408	E3S	36	拓影図69 後期初頭

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-409	E3N	10	出土遺物なし
SP-410	E3N	19	時期判別不可な土器小片1
SP-411	E3N	13	出土遺物なし
SP-412	E3N	27	出土遺物なし
SP-413	E4N	13	出土遺物なし
SP-414	E5N・S	9	出土遺物なし
SP-415	E5N	31	出土遺物なし
SP-416	E6N	16	出土遺物なし
SP-417	E6N	44	出土遺物なし
SP-418	E6N・S	21	時期判別不可な土器小片2 南半調査区域外
SP-419	E6N	25	出土遺物なし
SP-420	E7N・S	17	礫のみ出土
SP-421	E7N・S	16	出土遺物なし
SP-422	B6N	25	時期判別不可な土器小片2
SP-423	B6S	15	出土遺物なし
SP-424	B6S	19	土器小片1 中期後葉
SP-425	B6S	11	出土遺物なし
SP-426			欠番
SP-427	B6・7S	28	礫のみ出土
SP-428	B6S	17	出土遺物なし
SP-429	B6・7S	57	土器小片2 中期後葉Ⅰ～Ⅱ
SP-430	B6S	7	出土遺物なし
SP-431	B6S	20	出土遺物なし
SP-432	E8N	20	土器小片1 中期後葉
SP-433	E8N	13	出土遺物なし
SP-434	E9N	8	出土遺物なし
SP-435	E9S	17	土器実測図129・130 中期後葉Ⅲ
SP-436			欠番
SP-437	E10N	14	出土遺物なし
SP-438			欠番
SP-439	E10N	7	出土遺物なし
SP-440	E10N	11	出土遺物なし
SP-441	E10N	13	出土遺物なし
SP-442			欠番
SP-443			欠番
SP-444			欠番
SP-445			欠番
SP-446			欠番
SP-447			欠番
SP-448			欠番
SP-449			欠番
SP-450			欠番
SP-451	F1N	10	出土遺物なし
SP-452			欠番
SP-453	F1N	23	時期判別不可な土器小片1
SP-454	F1N	16	出土遺物なし
SP-455	F1N	33	時期判別不可な土器小片1
SP-456	F2N	12	出土遺物なし
SP-457	F2N	8	出土遺物なし
SP-458	F2N	10	出土遺物なし
SP-459	F2N	14	出土遺物なし
SP-460	F2N	16	出土遺物なし
SP-461	F2N	21	出土遺物なし
SP-462	F2N	24	土器小片のみ 中期後葉
SP-463	F2・3N	15	出土遺物なし
SP-464	F3N	8	出土遺物なし
SP-465	F3N	9	出土遺物なし
SP-466	F3N	19	出土遺物なし
SP-467	F3N	20	出土遺物なし
SP-468	F3N	10	出土遺物なし
SP-469	F3N	26	時期判別不可な土器小片1
SP-470	F3N	23	時期判別不可な土器小片1
SP-471	F3S	11	出土遺物なし
SP-472	F3N	11	礫のみ出土
SP-473	F3N	12	出土遺物なし
SP-474	F3N	28	時期判別不可な土器小片4
SP-475	D8S	9	出土遺物なし
SP-476	F3N	30	時期判別不可な土器小片1
SP-477	F4N	11	出土遺物なし
SP-478	F4N	12	出土遺物なし
SP-479	F4N	22	土器小片1 中期後葉
SP-480	F4N	45	出土遺物なし
SP-481	F4N	19	時期判別不可な土器小片1
SP-482	F4N	21	時期判別不可な土器小片5
SP-483	F4S	21	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-484	F4N	42	中期後葉Ⅳ 磨石類2
SP-485			欠番
SP-486	F4N	37	出土遺物なし
SP-487	F5N	19	時期判別不可な土器小片3
SP-488	F5N	20	時期判別不可な土器小片1 北半調査区域外
SP-489	F5N	12	出土遺物なし
SP-490	F5N	10	出土遺物なし

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-491	F5N	10	出土遺物なし
SP-492	F5S	49	時期判別不可な土器小片2
SP-493	F5S	30	出土遺物なし
SP-494	F5・6S	33	出土遺物なし
SP-495	F5・6N	11	土器小片1 中期後葉
SP-496	F5・6N	15	土器小片4 中期後葉
SP-497	D2N	6	出土遺物なし
SP-498	D2N	26	出土遺物なし
SP-499	D2N	11	出土遺物なし
SP-500	C10S	34	時期判別不可な土器小片1
SP-501	F6N・S	16	出土遺物なし
SP-502	F6N	12	礫のみ出土
SP-503	F6N	38	時期判別不可な土器小片1
SP-504	F6N	22	出土遺物なし
SP-505	F6N・S	8	出土遺物なし
SP-506	F6・7N	11	出土遺物なし
SP-507	F7S	15	出土遺物なし
SP-508	F7S	58	時期判別不可な土器小片2
SP-509	F7S	25	礫のみ出土 南半調査区域外
SP-510	F7N	24	出土遺物なし
SP-511	F7S	12	出土遺物なし
SP-512	F7N・S	36	時期判別不可な土器小片1
SP-513	F7S	12	出土遺物なし
SP-514	F6・7N	63	土器片1 中期後葉Ⅱ～Ⅲ
SP-515	F7N	40	時期判別不可な土器小片2
SP-516	F7N	45	出土遺物なし
SP-517	F7N	18	時期判別不可な土器小片1
SP-518	F7N	12	出土遺物なし
SP-519	F7N	54	出土遺物なし
SP-520	F7N	9	出土遺物なし
SP-521	F8N	19	出土遺物なし
SP-522	F7N	21	出土遺物なし
SP-523	F7・8N	15	礫のみ出土
SP-524	F8N	14	出土遺物なし
SP-525	F8N	21	出土遺物なし
SP-526	F8S	31	礫のみ出土
SP-527	F8N・S	22	出土遺物なし
SP-528	F8N	42	時期判別不可な土器小片1
SP-529	F8N	22	出土遺物なし
SP-530	F8N	22	石器実測図119
SP-531	F8N	40	礫のみ出土
SP-532	F8・9N	21	出土遺物なし
SP-533	F8・9N	13	礫のみ出土
SP-534	F9N	19	出土遺物なし
SP-535	F10N	12	出土遺物なし
SP-536	F10N	23	出土遺物なし
SP-537	F10N	21	中期後葉Ⅳ
SP-538	F10N	22	出土遺物なし
SP-539	G1N	11	出土遺物なし
SP-540	G1・2N	10	出土遺物なし
SP-541	G2N	9	出土遺物なし
SP-542	G2N	14	出土遺物なし
SP-543	G2N	10	出土遺物なし
SP-544	G3N	16	土器小片1 中期後葉Ⅲ～Ⅳ
SP-545	G3N	12	チャート剥片1
SP-546	G3N	19	時期判別不可な土器小片2 北半調査区域外
SP-547	G3N	20	出土遺物なし 北半調査区域外
SP-548	G3N	20	時期判別不可な土器小片1 北半調査区域外
SP-549	G3N	13	出土遺物なし
SP-550	G3N	14	出土遺物なし
SP-551	G3N	23	時期判別不可な土器小片1
SP-552	G2N・S	70	出土遺物なし
SP-553	G3S	28	出土遺物なし
SP-554	G3・4N	24	礫のみ出土
SP-555	G4N	10	出土遺物なし
SP-556	G4N	23	出土遺物なし
SP-557	G4N	11	礫のみ出土
SP-558	G4N	12	出土遺物なし
SP-559	G4S	14	礫のみ出土 南半調査区域外
SP-560	G4N・S	19	出土遺物なし
SP-561	G4・5S	19	出土遺物なし
SP-562	G4N	10	出土遺物なし
SP-563	G4・5N	9	出土遺物なし
SP-564	G4N	16	時期判別不可な土器小片2
SP-565	G5N	16	時期判別不可な土器小片2
SP-566	G5N	31	出土遺物なし
SP-567	G5N	33	出土遺物なし
SP-568	G5S	16	土器小片2 中期後葉
SP-569	G5S	30	出土遺物なし
SP-570	G5N・S	34	出土遺物なし
SP-571	G5N・S	19	礫のみ出土
SP-572	G5S	30	時期判別不可な土器小片1

遺構番号	検出箇所	深さ (cm)	時期・所見・備考
SP-573	G5S	54	出土遺物なし
SP-574	G5・6N	70	中期後葉Ⅳ
SP-575	G6N	19	出土遺物なし
SP-576	G6N	13	出土遺物なし
SP-577	G6N	38	出土遺物なし
SP-578	G6N	18	出土遺物なし
SP-579	G6N	31	時期判別不明な土器小片1
SP-580	G6N	53	時期判別不明な土器小片1
SP-581	G6N	19	出土遺物なし
SP-582	G6N・S	14	出土遺物なし
SP-583			欠番
SP-584	G7S	16	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-585	G7S	13	出土遺物なし
SP-586	G7S	24	時期判別不可な土器小片2 南半調査区域外
SP-587	G7N	44	出土遺物なし
SP-588	G7N	10	礫のみ出土
SP-589	G7N	33	出土遺物なし
SP-590	G7N	17	出土遺物なし
SP-591	G7N	33	時期判別不可な土器小片1
SP-592	G7N	38	出土遺物なし
SP-593	G7・8N	29	礫のみ出土
SP-594	G7N	65	中期後葉
SP-595	G7・8N	12	出土遺物なし
SP-596	G8N	16	時期判別不可な土器小片1
SP-597	G8N	14	時期判別不可な土器小片1
SP-598	G8N	37	時期判別不可な土器小片2
SP-599	G8N	35	時期判別不可な土器小片2 石器実測図86
SP-600	G8・9N	10	土器小片2 中期後葉
SP-601	G9N	19	中期後葉
SP-602～604 欠番			
SP-605	G10N	25	時期判別不可な土器小片1
SP-606	G10N	26	出土遺物なし
SP-607	G10N	62	時期判別不可な土器小片2
SP-608	G10N	38	時期判別不可な土器小片のみ
SP-609	G10N・S	19	時期判別不可な土器小片1
SP-610	G10N	11	時期判別不可な土器小片2
SP-611	G10S	18	礫のみ出土
SP-612	G10S	21	時期判別不可な土器小片のみ
SP-613	G10N	28	時期判別不可な土器小片1
SP-614	H1N	15	礫のみ出土
SP-615	H1N	54	中期後葉
SP-616	H1N・S	30	時期判別不可な土器小片1
SP-617	H1N・S	22	時期判別不可な土器小片1
SP-618	H1N	9	出土遺物なし
SP-619	H1N	7	出土遺物なし
SP-620	H1N	8	礫のみ出土
SP-621	H1N	18	時期判別不可な土器小片2
SP-622	H1N	32	土器小片1 中期後葉Ⅲ
SP-623	H1S	18	出土遺物なし
SP-624	H1S	20	出土遺物なし
SP-625	H2N	22	時期判別不可な土器小片1
SP-626	H2N	15	出土遺物なし
SP-627	H2N	14	礫のみ出土
SP-628	H2N	48	出土遺物なし
SP-629	H3N	37	時期判別不可な土器小片2
SP-630	H3N・S	31	出土遺物なし
SP-631	H3N・S	21	時期判別不可な土器小片1
SP-632	H3S	36	礫のみ出土
SP-633	H3N・S	15	出土遺物なし
SP-634	H4N	16	土器小片1 中期後葉Ⅲ
SP-635	H4・5N	14	土器小片3 中期後葉Ⅲ
SP-636	H5N	19	出土遺物なし
SP-637	H5N	32	出土遺物なし
SP-638	H5S	43	礫のみ出土
SP-639	H6S	10	礫のみ出土
SP-640	H6S	14	出土遺物なし 南半調査区域外
SP-641	H6N	11	出土遺物なし
SP-642	H6N	15	出土遺物なし
SP-643	H6N	26	礫のみ出土
SP-644	H6S	42	土器片1 中期後葉Ⅲ～Ⅳ
SP-645	H8S	54	出土遺物なし
SP-646	H8N	16	時期判別不可な土器小片1
SP-647	F6N	59	出土遺物なし
SP-648	F6N	41	時期判別不可な土器小片2
SP-649	F7・8N	7	出土遺物なし
SP-650	D5・6S	36	時期判別不可な土器小片3
SP-651	B6S	14	出土遺物なし
SP-652	B7S	14	出土遺物なし
SP-653	C7N	5	出土遺物なし
SP-654	G9N	50	石器実測図47
SP-655	G10N	27	出土遺物なし
SP-656	G6S	24	出土遺物なし 南半調査区域外

3 出土遺物

① 土器 (第19図～第39図、第3表)

今回の調査で出土した土器は、中期中葉井戸尻式から後葉の資料が大半で、わずかに後期前葉の資料が加わる。できるだけ多くを図化掲示したく努めたが、コンテナで50箱を上回る量であり、担当者だけの図化作業では限界があるゆえ御容赦願いたい。実測図136点、拓影図79点を掲示した。以下時期ごと概観していきたい。時期区分は当遺跡の出土資料をもとに区分したものでなく、先学諸氏によって提示された土器編年を参考にした。

中期中葉井戸尻Ⅰ式

SB-10出土資料が該当する。76は4単位の波状口縁で、口縁部はキャリパー形、胴部は直線的に底部に向かい、胴部下半で屈折する器形で、口縁部文様帯には崩れた隆帯区画、胴部には崩れた縦位隆帯区画を施し様々な充填文で埋める古いタイプの土器である。77は口縁部がキャリパー状で、胴部がくびれる器形で、胴部上半に横走隆帯で無文帯を設け、胴部のくびれ下に櫛歯のない櫛形文を配す。74と81は胴部以下しか残存しないが、櫛形文土器である。78には蛇体様の把手が見られる。75は樽形の器形で、口縁部無文帯下に波状の細い隆帯を1条横走させ、それ以下を縄文施文している。また72は焼町式土器で、4単位の突起が上部へ大きく伸び、沈線が深く刻まれる様相を呈し、井戸尻Ⅰ式に併行する段階の特徴を備えている。また北陸系上山田式と思われる破片資料(拓79)が、SB-09から出土しており注目に値する。上山田式は中期中葉でも真中に位置付けられており、SB-09(中期後葉Ⅲ期に帰属)とは併行関係にズレがあるが、これに切り合う位置にあるSB-10から混入したと考えればズレがない様に思われる。

中期中葉井戸尻Ⅲ式・中期後葉Ⅰ期

SB-01出土資料が大半を占めるが、中葉に入る資料、後葉に入る資料と時間幅があるように感じられる。2つの項目に分けず一緒に項目にて記述したい。まず胴部に櫛形文を持ついわゆる櫛形文土器であるが、器形には多少バラエティーがある。口縁部は、内湾するもの(1・5等)、内湾し1単位の突起を有すもの(16)、内湾した後端部が直立ないしはやや外反するもの(3・24等)、直線的に外反し端部が肥厚するもの(7)がある。胴部はくびれ具合に深淺はあるが、一旦膨らんだ後底部へ及ぶ。口縁部の文様は、隆帯のみを貼付のもの(1・16)、隆帯により人体文等を配しその間を縦横の沈線文で埋めるもの(3・5・6・18等)、櫛形文を口縁部にも配すもの(14)等、他にもバラエティーがある。これら櫛形文を有す土器は、大半が古く位置付けられる様に思われ、隆帯による褶曲文や縦位に密接貼付されるものは見られない。なお器形は上記と同様で、櫛形文が省略されている37は、新しい様相を呈すと考える。器形が円筒形の資料として9・11・13・15・27・28がある。口縁部は無文かわずかに隆帯が入り、胴部は隆帯によって縦位に分割され、縦に密な沈線が施される。この隆帯はまっすぐなもの(13)、刻み目を有すもの(28)、十字文風のもの(9)、人体文が崩れた様なもの(27)等見られ、縦への密な沈線は、途中で横へ区画する沈線が入るもの(9・28)と入らないもの(13・27)がある。また隆帯のない11、無文の15も出土している。26等は、岐阜県古川町中野山越遺跡出土遺物を分類し中野山越A2類とされた土器で、後葉に位置付くと思われる。8は頸部が膨らみ口縁部まで無文で、荘厳な把手が付き、胴部に縦の縄文が施文される古い様相を呈す。20も横帯区画された文様構成で中葉の範囲内である。他にも台付の深鉢(35・36)があるが、井戸尻Ⅲ式に見られるタイプである。他にもあるが、SB-01出土土器は中葉井戸尻Ⅲ式のものが多く、後葉の様相を持つ土器が加わると思われる。

SB-02出土土器は、後葉Ⅰ期に位置付くと思われる。器形が円筒形の40は頸部に横位の文様帯を隆帯で構成し、胴部は縦への密な沈線にU字状の大柄な隆帯が配されている。いずれも隆帯脇には角状の押引文が伴う。41は1つの大きな把手と3つの先端三角形の立体的な突起によって口縁部が4単位に分けられ、隆帯が梯子状・U字状に貼付されている。

中期後葉Ⅱ期

SB-11・SK-035出土土器は、この期でも古い様相を呈す資料で、前段階へ含めても良いのかと感じる。浅鉢の胴部破片である82は、刻み目のある横走隆帯を同心円状の沈線と隆帯で画し、内部を沈線文と刺突文で充填している。拓26は小片であるが、褶曲文が沈線で描かれ、その上に垂下する細い波状隆帯を貼付している。内湾する口縁部破片資料の83は、突起を有し、口縁部に輪ゴムを引っ張った様な2本の平行する隆帯を半円弧状に配し、縦への沈線が全面に密に施文される。107は胴部を垂下する隆帯と渦巻状の隆帯によって4単位に画し、その間を横または斜めの沈線で埋めている。SK-144出土の134は樽形の器形で、口縁部無文帯を有し、胴部は腕骨文が崩れた縦位のモチーフにより4単位に分ち、地文が条線文でその上に沈線による大柄な唐草文が施文されている。この期に位置付くと思われる。

中期後葉Ⅲ期

大柄な渦巻文が配され、綾杉状の沈線が施文される唐草文土器最盛の時をこの期とした。SB-06・07・09・15・16等が該当する。綾杉文が施文される土器は、いわゆる樽形の器形が多い。口縁部文様帯は無文のもの(47・56等)、沈線

もしくは隆帯による渦巻状文様と長楕円形状の沈線文が施文されるもの(44・46・63等)がある。口縁部文様帯の直下には、横への区画文様帯を有し(44・45等)、縦に貼付した撚紐状隆帯や渦巻状隆帯等によって区画をつくり、内部を縦位沈線、交互刺突文等によって充填している。胴部は、隆帯間を斜位の沈線で充填する崩れた腕骨文が縦位に器面を区画し、隆帯による大柄な唐草文を配すもの(44・94等)と、崩れた腕骨文を持たず大柄な唐草文や剣先文を配すもの(45・89等)がある。綾杉文はこの隆帯装飾の間を埋める様に施文されるが、綾杉状ではないもの(45・56等)も見られる。SB-08出土の55は、この期より新しくなるのかも知れないが、樽形の器形で、隆帯による長尾付渦巻によって口縁部文様帯をつくり、縦への沈線によって充填する。胴部は隆帯による腕骨文と波状文によって縦に器面を分かち、その間をカーブする横への沈線で埋めている。70は胴部下半の資料ではあるが、沈線がカーブしており、いずれも佐久系と言われる沈線に類似する。他に器形が樽状ではなく口縁部が内湾し頸部がくびれ、胴部が膨らむ器形の資料(68・87・91等)があるが、文様の施文に大差はない。なお浅鉢(88)、釣手土器(60)もこの期に位置付くと思われる。

地文に条線を持つ土器は、綾杉文を持つ土器に比べ少ない。92は口縁部が開きつつ内湾する器形で、口縁部文様帯は、それ以下の部位と横走隆帯によって分かち、隆帯による渦巻文と太い沈線による窓枠状の区画をしており、胴部は2本1組の太い沈線が数単位垂下している。加曽利E式の地文の縄文が、条線文に変わった様相を呈している。96は頸部がくびれ胴部が膨らむ器形の破片資料で、加曽利E式に見られる様な隆帯による渦巻文が配されるが、新しい様相を示すゆえ次段階にした方が良いのかもしれない。

また地文が縄文の加曽利E式系の土器(48・67・97等)が見られる。口縁部が開きつつ内湾し胴部前半がくびれ、底部に向かって胴部がやや膨らむ器形で、口縁部文様帯をそれ以下の部位と横走る隆帯によって分かち、隆帯による渦巻文を起点にして横位の区画をつくる。胴部は縦位への太い沈線によって数単位に器面が区画されている。頸部のくびれや胴部膨らみ具合に強弱があり、文様施文にもバラエティーがある。

中期後葉Ⅳ期

綾杉文の崩れが急速にすすむ時期をこの期とした。住居址出土資料には恵まれなかったが、土壙出土資料等がある。103・132は樽形の器形で、横走隆帯によって口縁部無文帯を作る。胴部は渦巻文や蛇行垂下及び垂下する隆帯の間を、縦への沈線によって埋める。また口縁部無文帯をつくる横走隆帯下には勾玉文も見られる。105は口縁部が無文で、胴部の逆U字状隆帯区画内を垂下する沈線で密に埋めている。

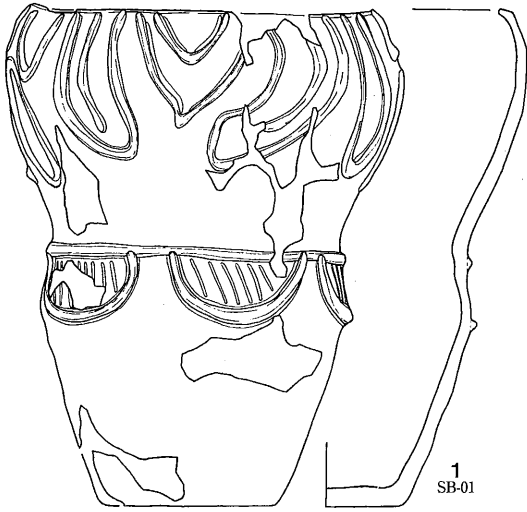
中期後葉Ⅴ期

中期末をこの期とした。SK-099出土土器等調査区西側の土壙から出土した土器が多く該当する。地文の沈線は粗雑になり、施文の仕方も浅く鈍く弱々しいもの(99・133等)となる。樽形器形の口縁部破片資料である123・拓70は、口縁部無文帯を横走隆帯でつくり、直下に浅い施文の勾玉文が並び、胴部は垂下する隆帯間に弱々しい沈線文を粗に施している。地文の沈線が粗雑である点を除けば前段階に近い様相である。その反面120は、口縁部無文帯を横走る1条の沈線をつくり、直下に崩れた勾玉文を並べ、胴部に綾杉状を意識した粗雑な沈線を施しており、新しい様相を示すといえよう。126は地文の沈線がなくなったもので、更に新しい様相を示すと思われる、中期の様相を残す後期初頭の土器と言えるものかもしれない。122・124は同一個体の破片である可能性が高いが、隆帯を弧状やU字状に縦横に配し、その間を粗雑な沈線で埋めている。隆帯の配し方が異様で、隆帯の一部には北信地方の様相である圧痕隆帯が見られる。様々な地域の土器様相が混ざり合ったのではないかと推察する。127は櫛歯状工具による垂下波状文を縦に施文したもので、中期末～後期前葉まで類例が知られるが、相伴土器が中期末であったゆえこの期に位置付けた。

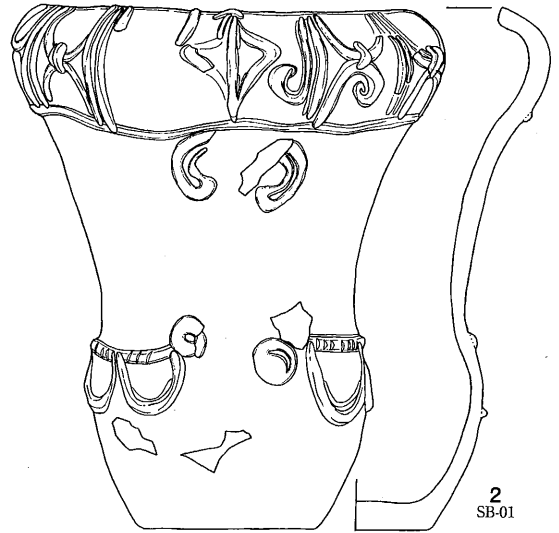
地文に縄文をもつ土器は多い。釣手付深鉢の114は、口縁部が内湾し胴部がくびれ、やや膨らんでから底部に至る器形で、口縁部端部に円形状の刺突が並び、胴部には沈線による円形状、J字状、逆V字状の区画を設け、内部を縄文で埋めている。同様な土器に125・拓63等がある。胴部の文様を隆帯で描くものとして116・117等がある。壺形土器の128もこの期に位置付けられると思われる。また胴部に指頭による鈍い沈線で、蕨手懸垂文や連結曲流蕨手文が見られる115は、大木系の土器と思われる。116の口縁部突起も大木系の様相かと思われる。

後期の土器

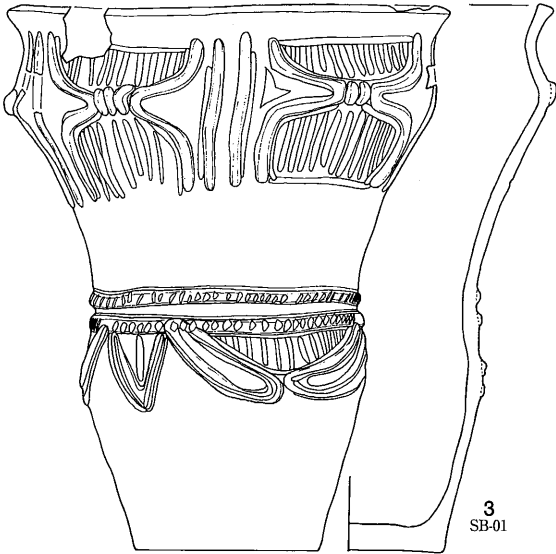
出土量が少ないため一括して記述する。SX-001出土の102は称名寺式の好例である。体部の沈線文様は、称名寺式の古い様相に見られる上下に分かれた文様構成でなく境界がないもので、沈線区画内には縄文が施文される。称名寺式でも中頃の様相を示す土器といえよう。またJ字状の沈線区画が見られる119、2本の平行する沈線で渦巻状に区画した内部に縄文を施文している拓71もこの期に位置付くと思われる。SK-146出土の浅鉢(135)は、4単位の立体的な突起を有し、口縁部はく字状に屈折する。この口縁部のみに文様が施文されており、沈線で細長い箱状の区画をつくり内部に円形の刺突文が並ぶ。後期前葉の範疇に入る土器だと思われる。



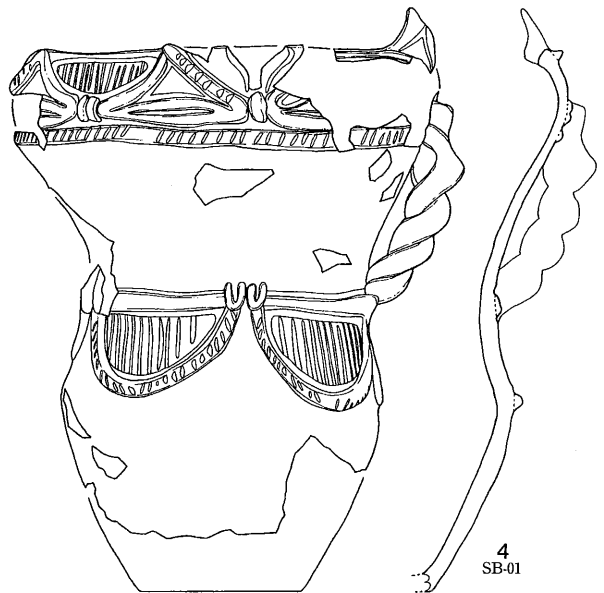
1
SB-01



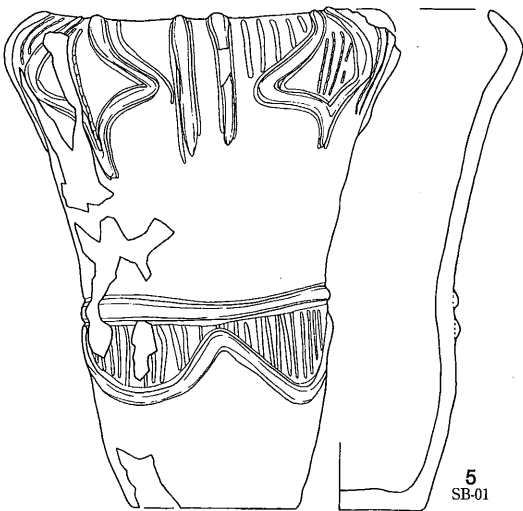
2
SB-01



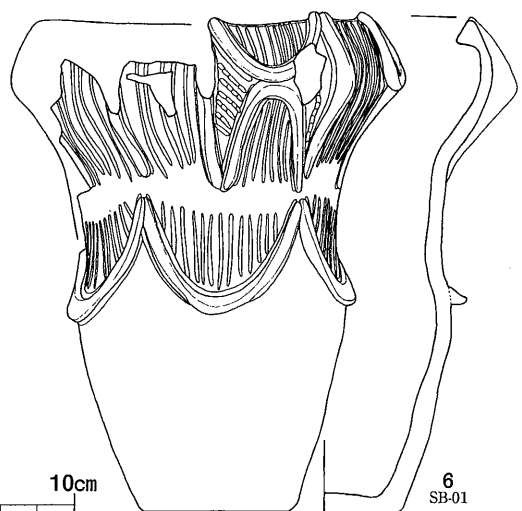
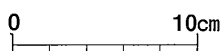
3
SB-01



4
SB-01

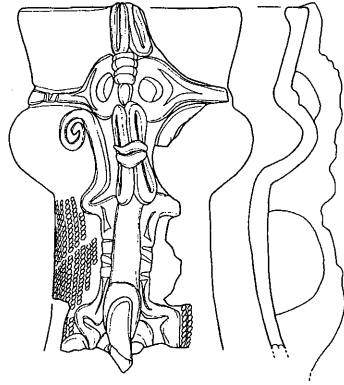
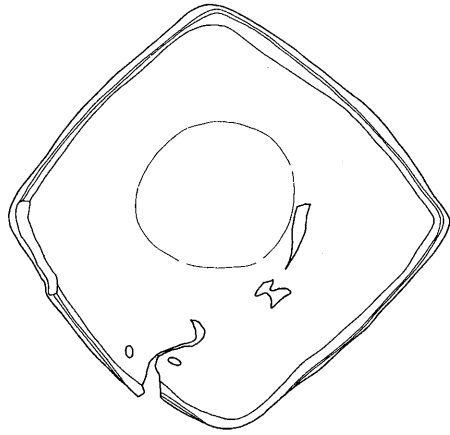


5
SB-01

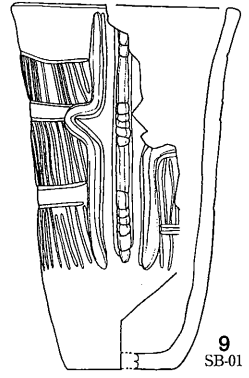


6
SB-01

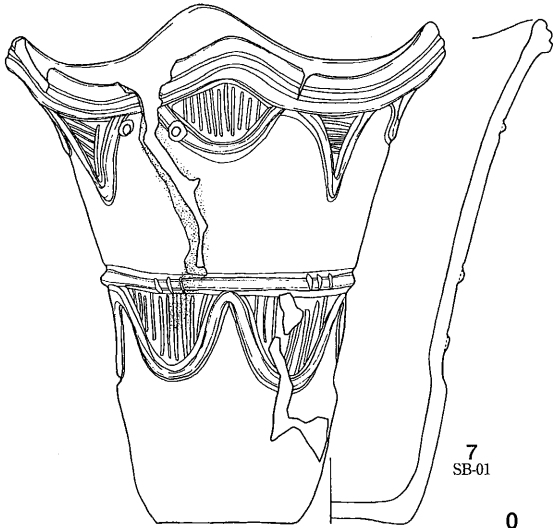
第19図 縄文土器 (1)



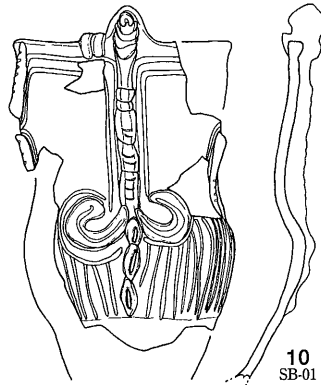
8
SB-01



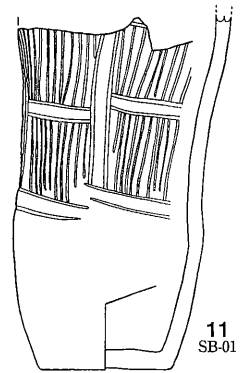
9
SB-01



7
SB-01

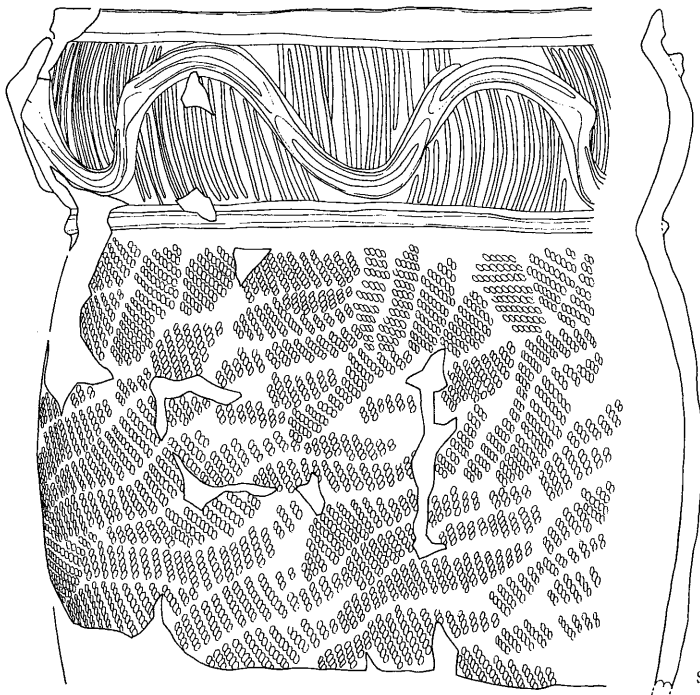


10
SB-01

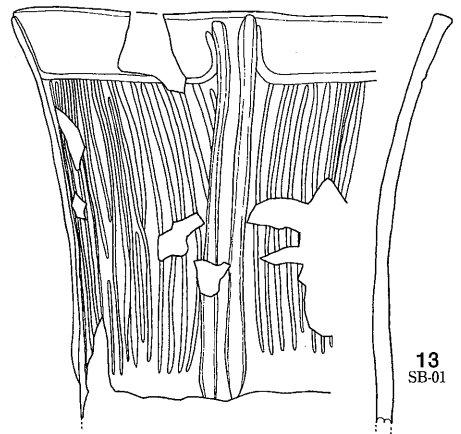


11
SB-01

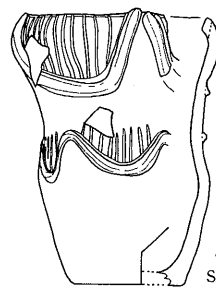
0 10cm



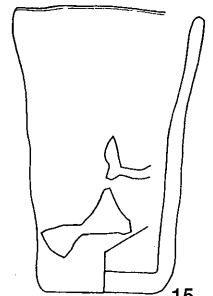
12
SB-01



13
SB-01

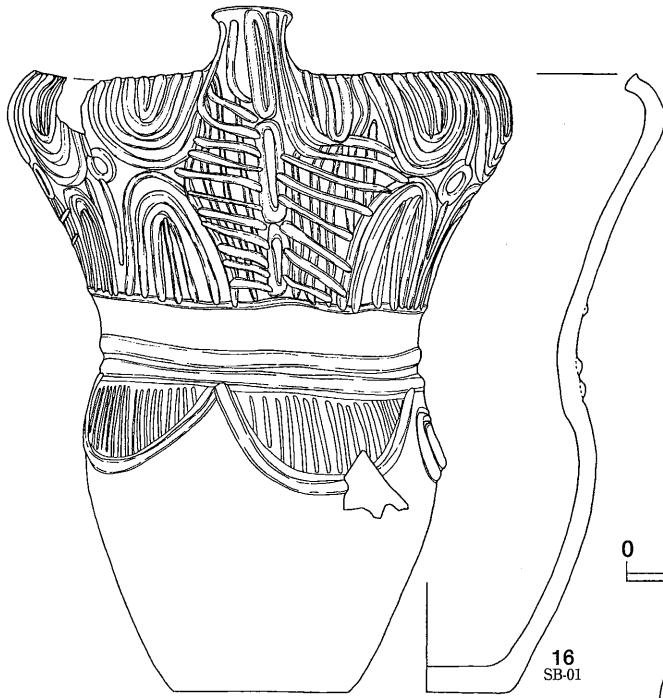


14
SB-01

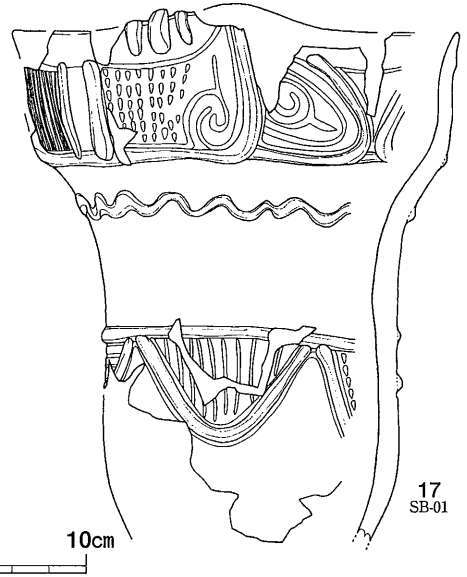


15
SB-01

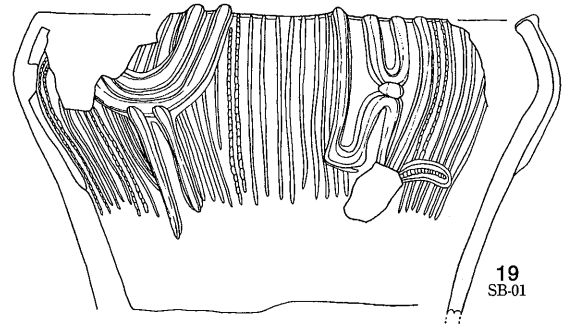
第20図 縄文土器 (2)



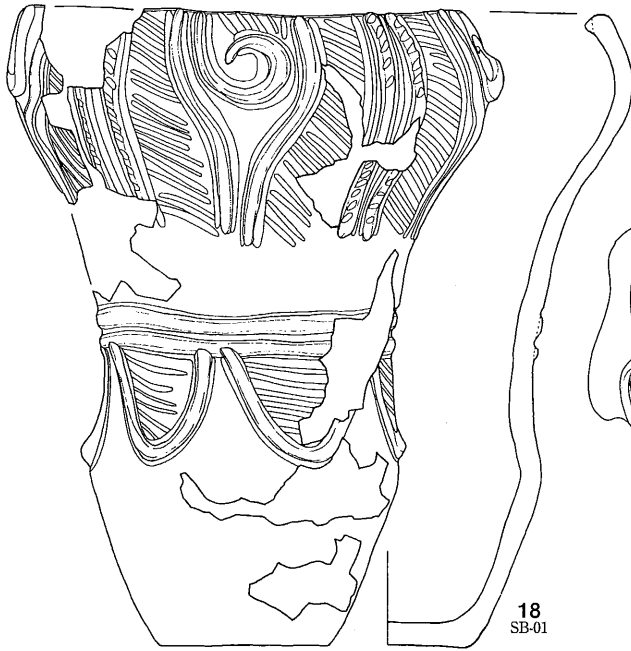
16
SB-01



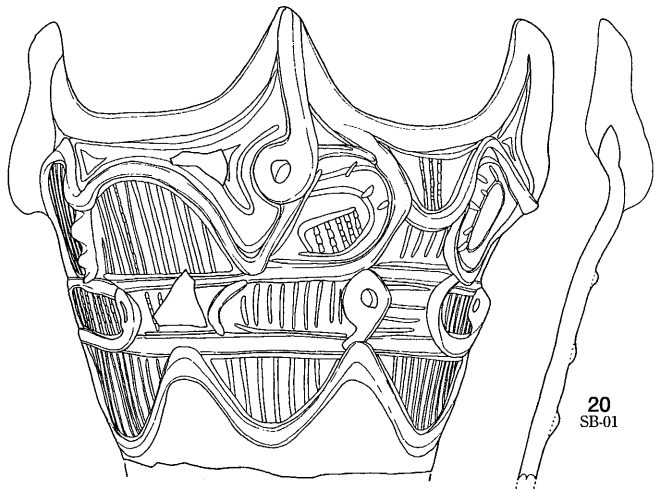
17
SB-01



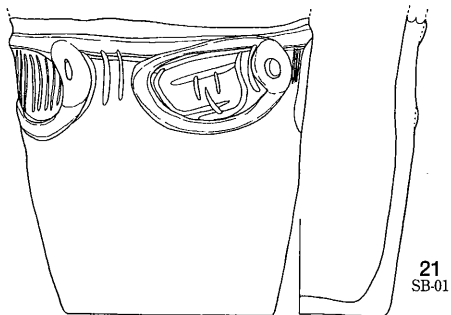
19
SB-01



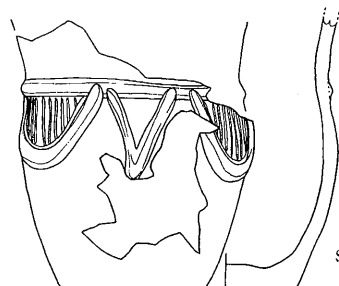
18
SB-01



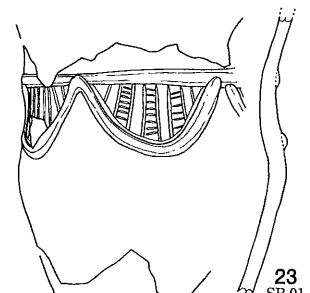
20
SB-01



21
SB-01

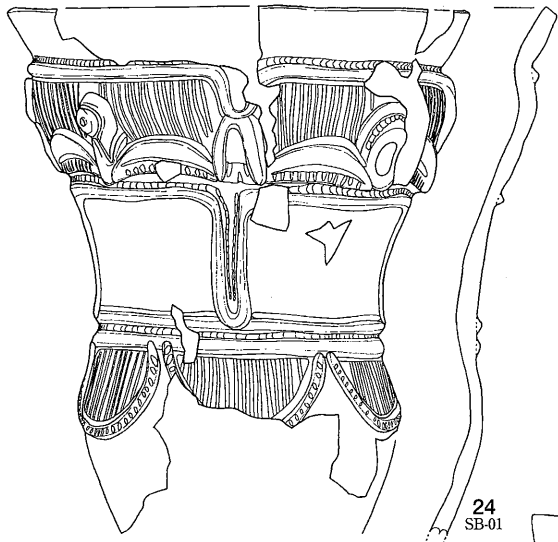


22
SB-01

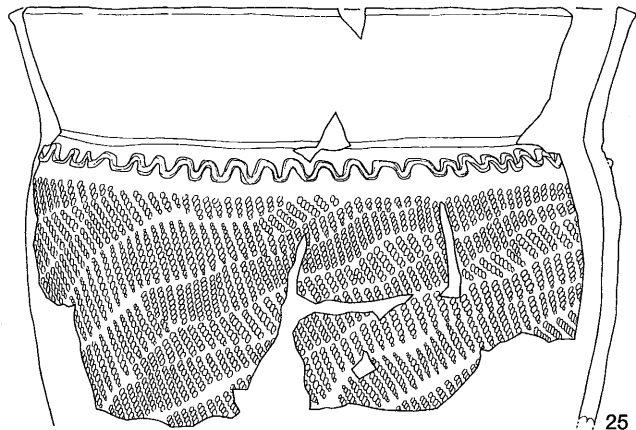


23
SB-01

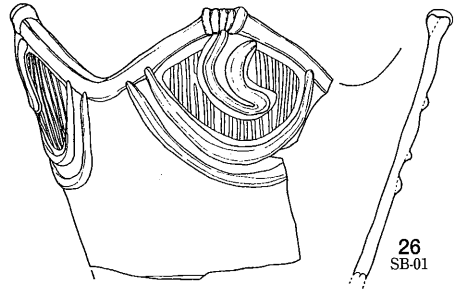
第21図 縄文土器 (3)



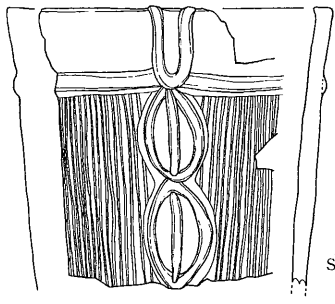
24
SB-01



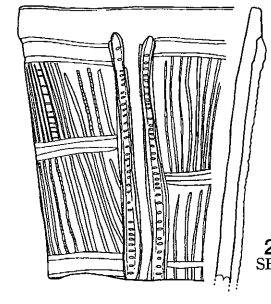
25
SB-01



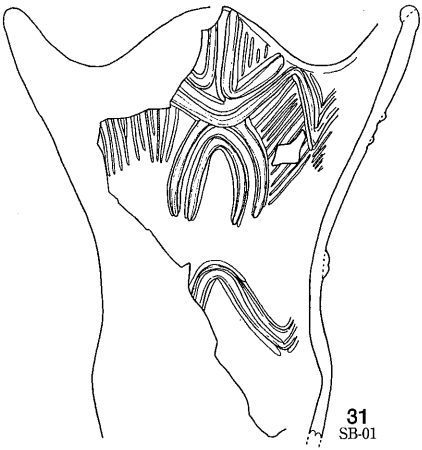
26
SB-01



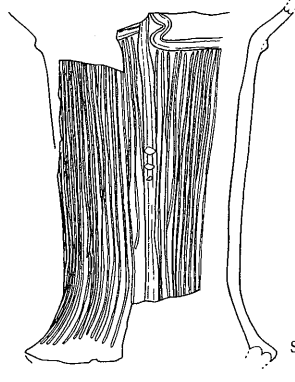
27
SB-01



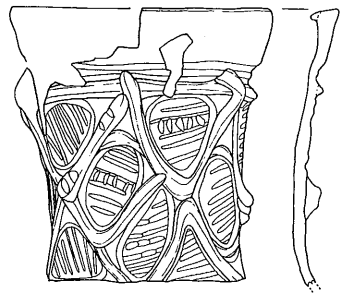
28
SB-01



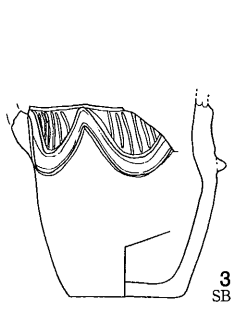
31
SB-01



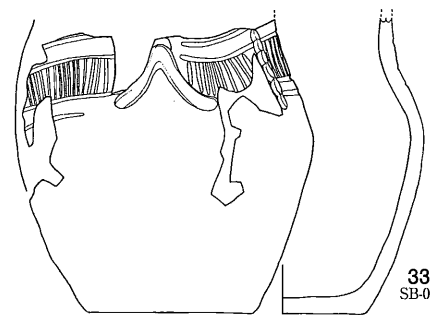
29
SB-01



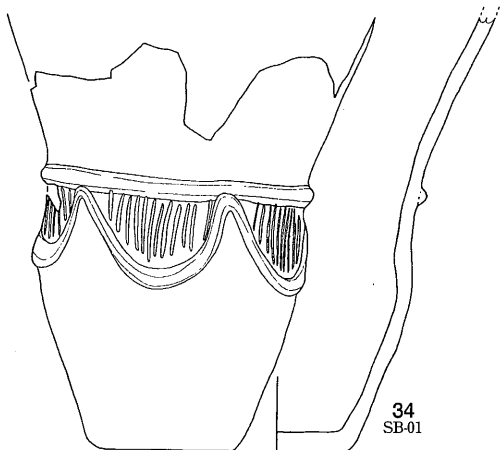
30
SB-01



32
SB-01

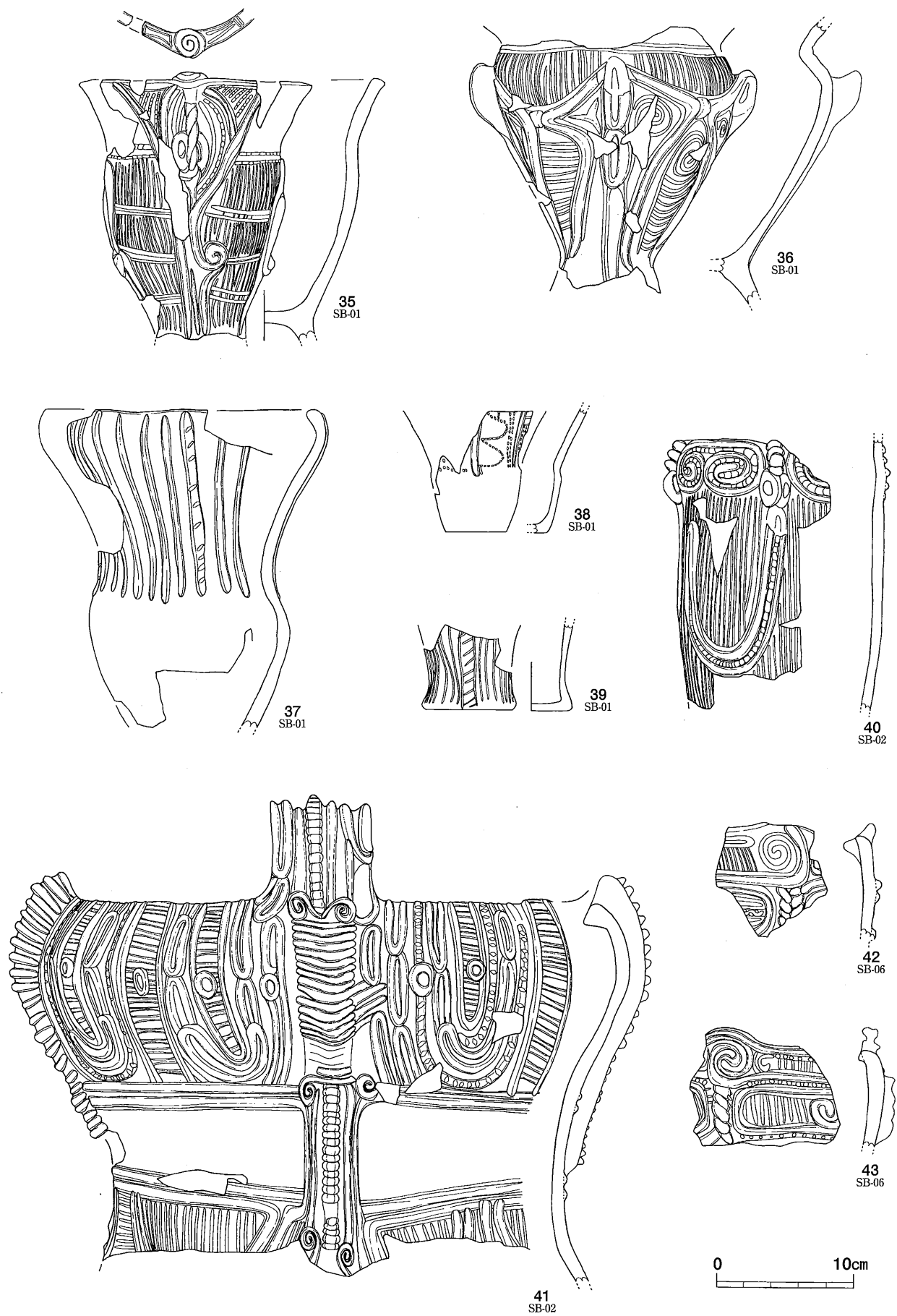


33
SB-01

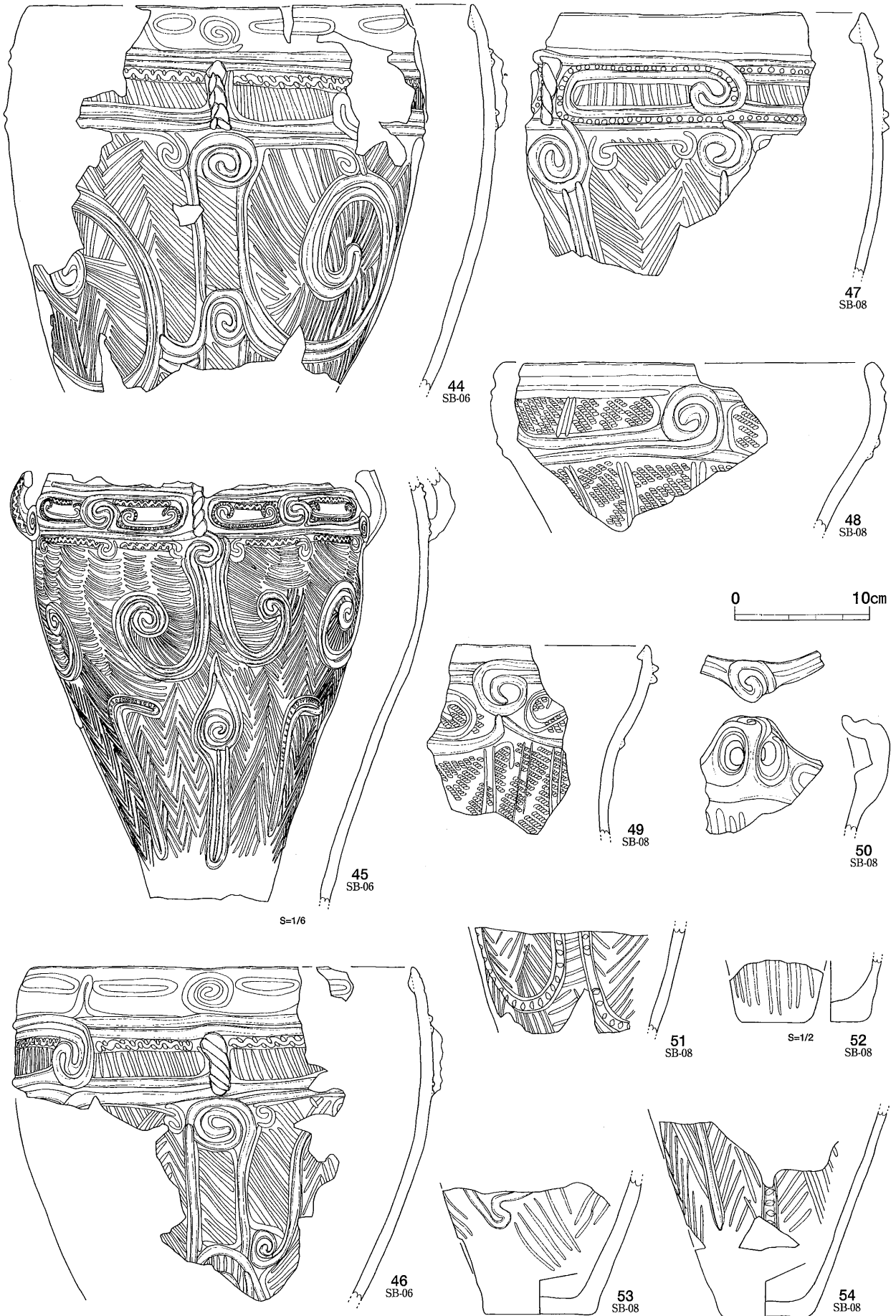


34
SB-01

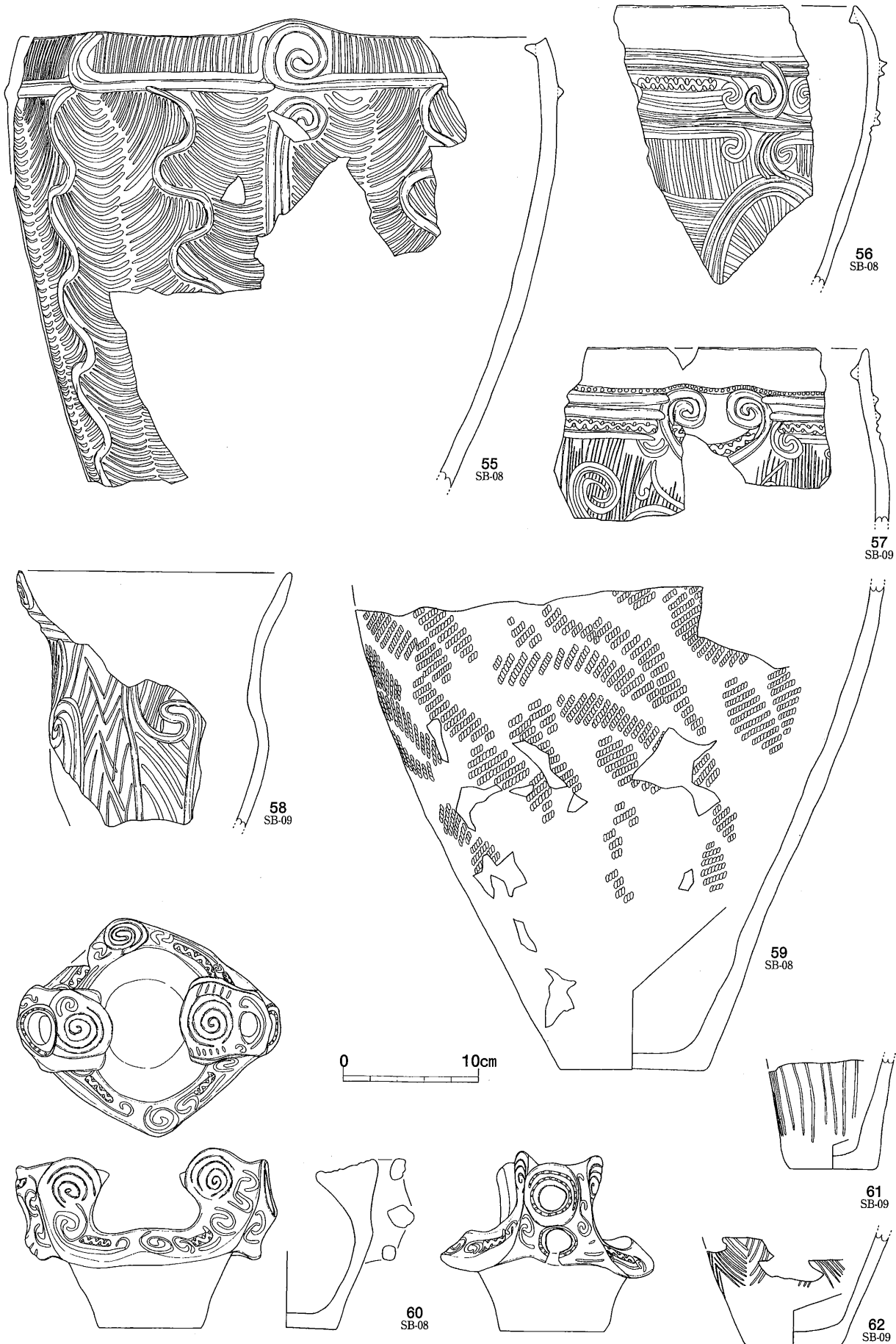
第22図 縄文土器 (4)



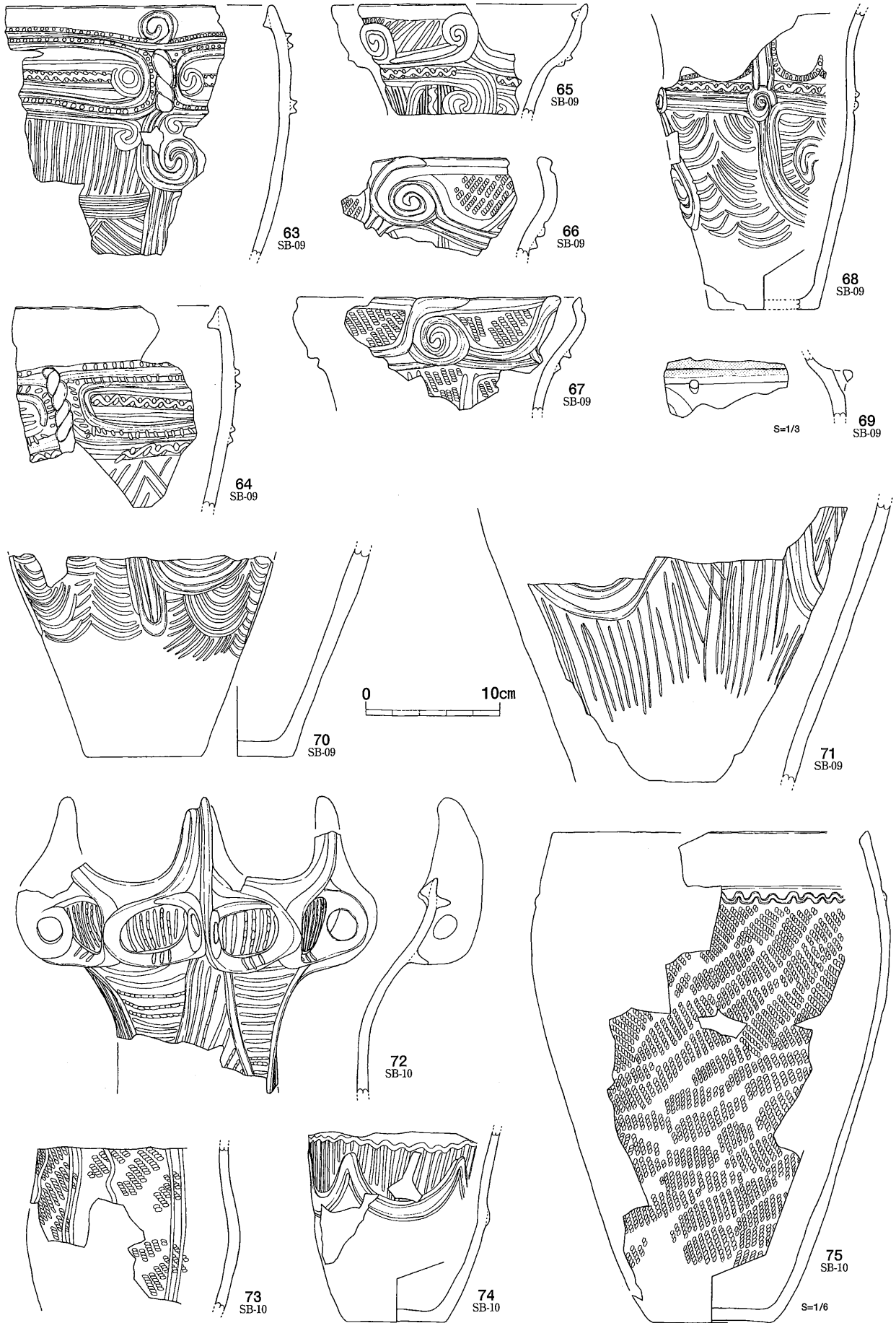
第23図 縄文土器 (5)



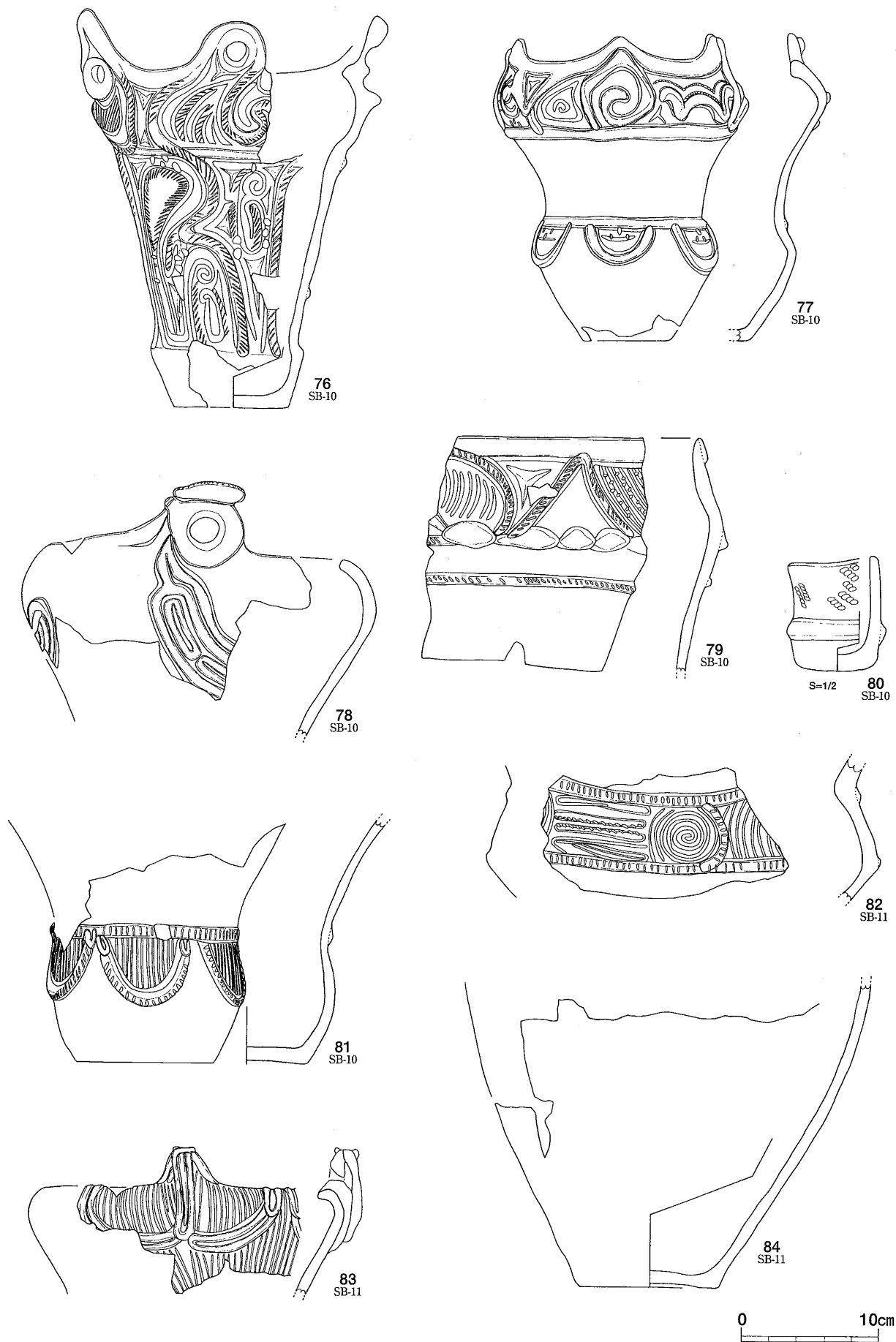
第24図 縄文土器 (6)



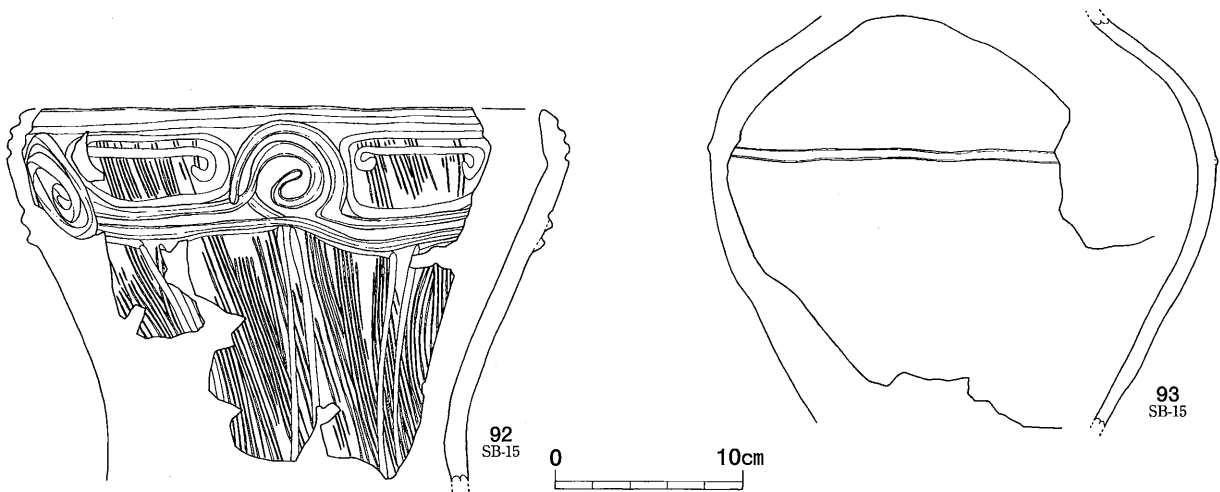
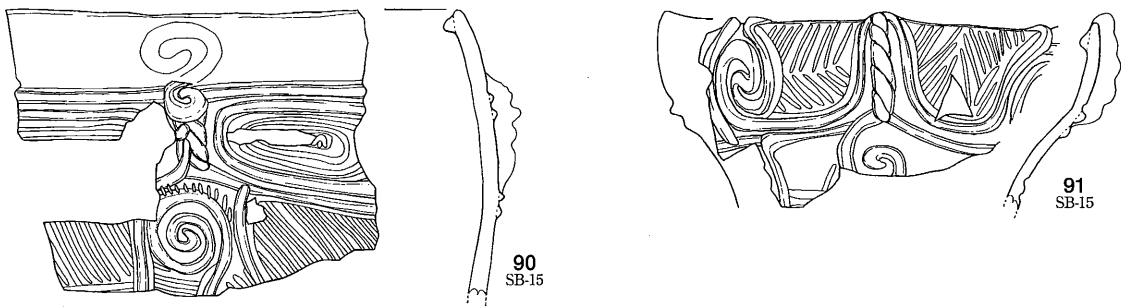
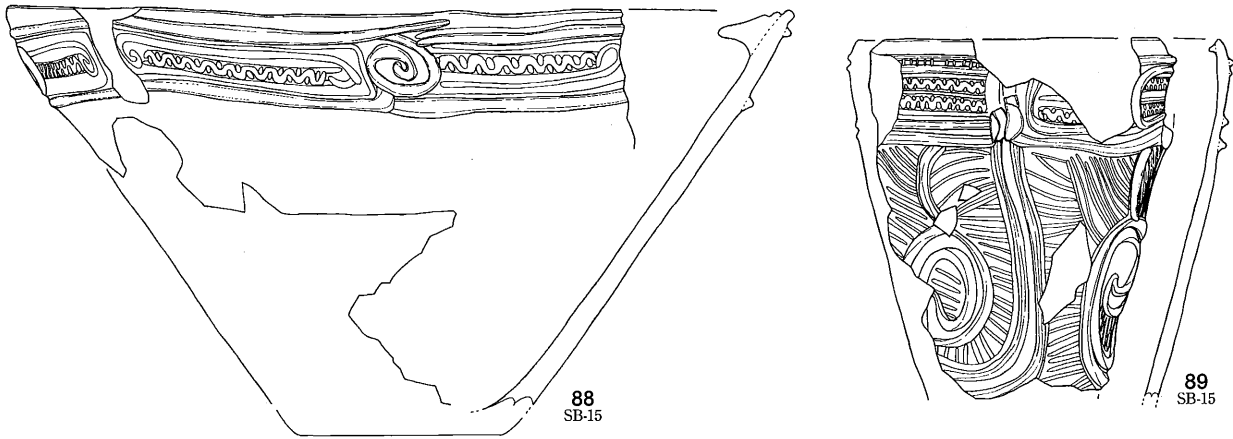
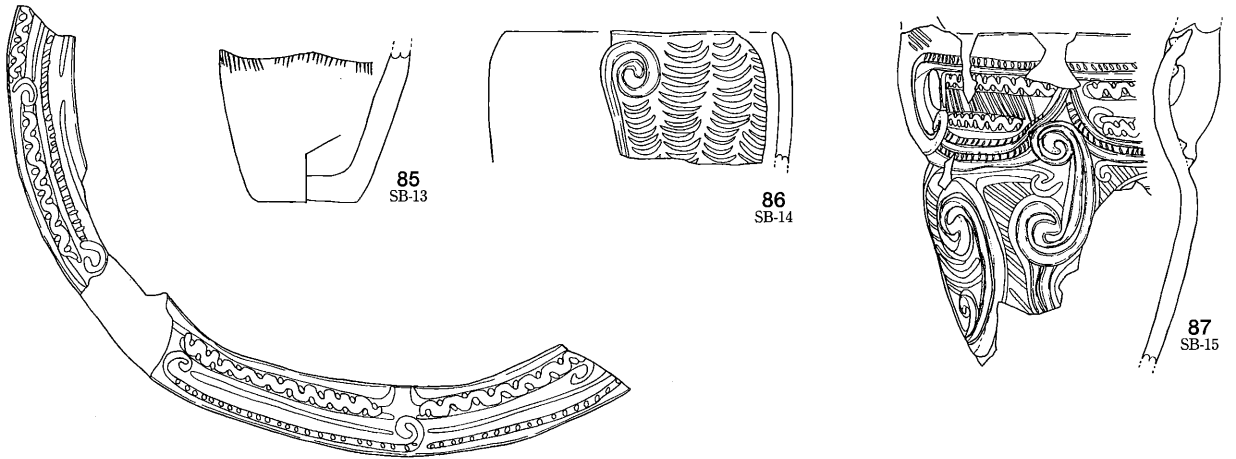
第25図 縄文土器 (7)



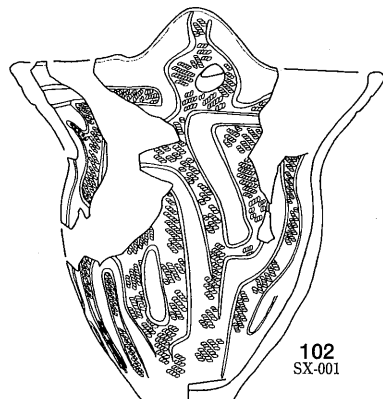
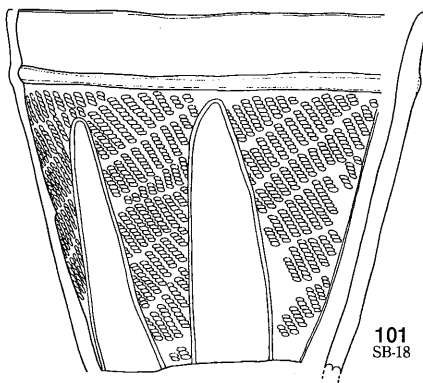
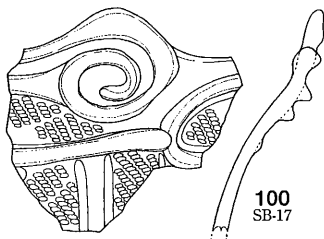
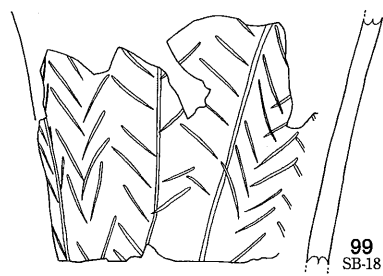
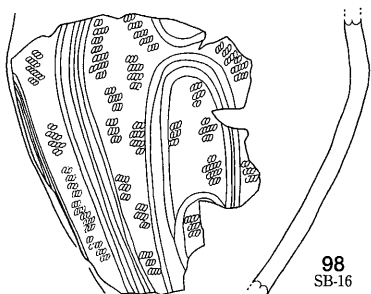
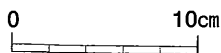
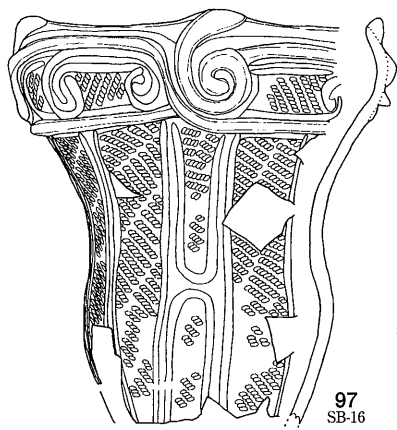
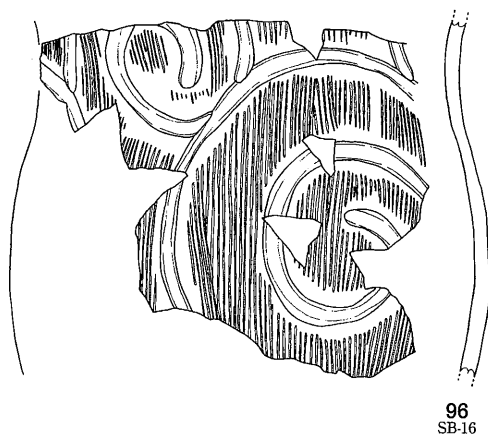
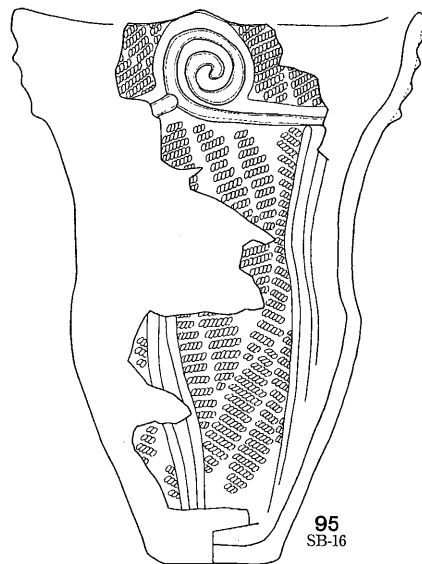
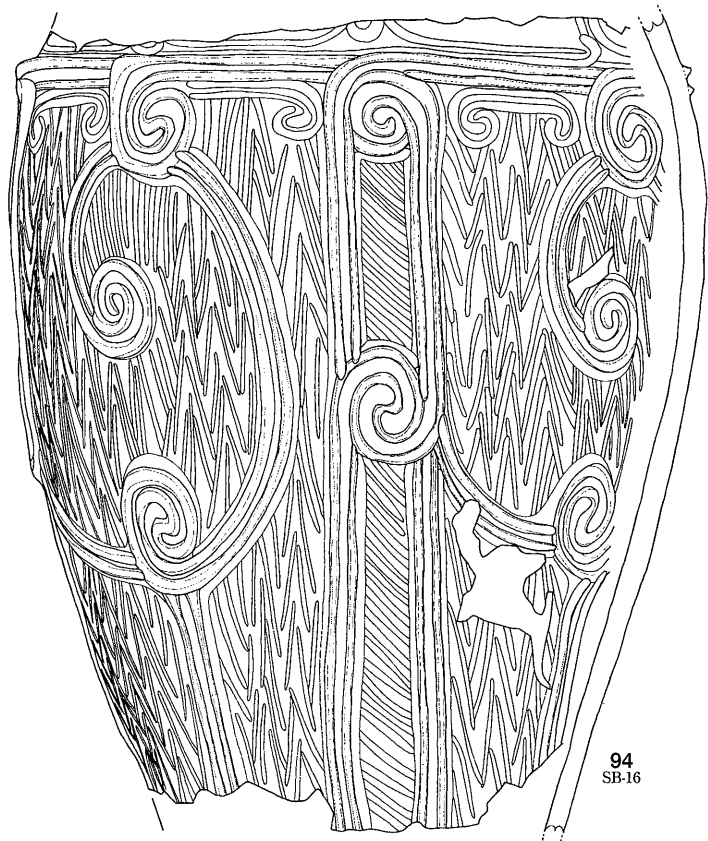
第26図 縄文土器 (8)



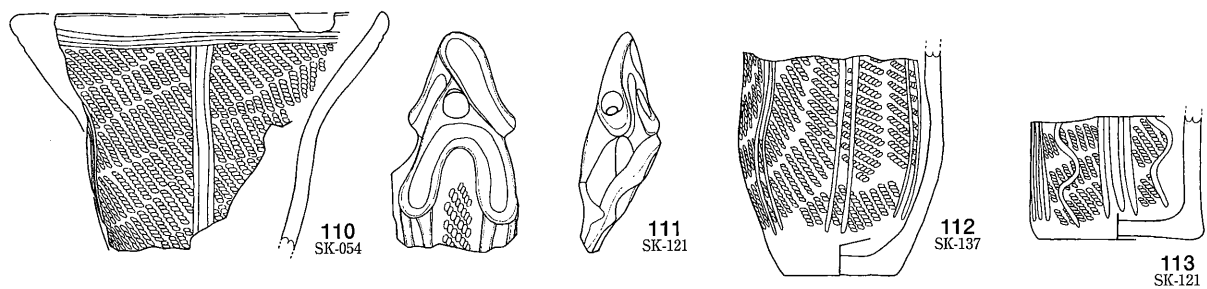
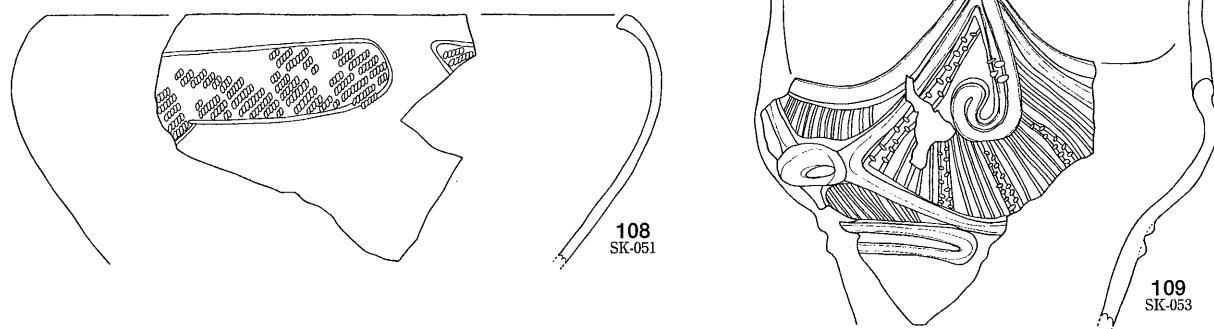
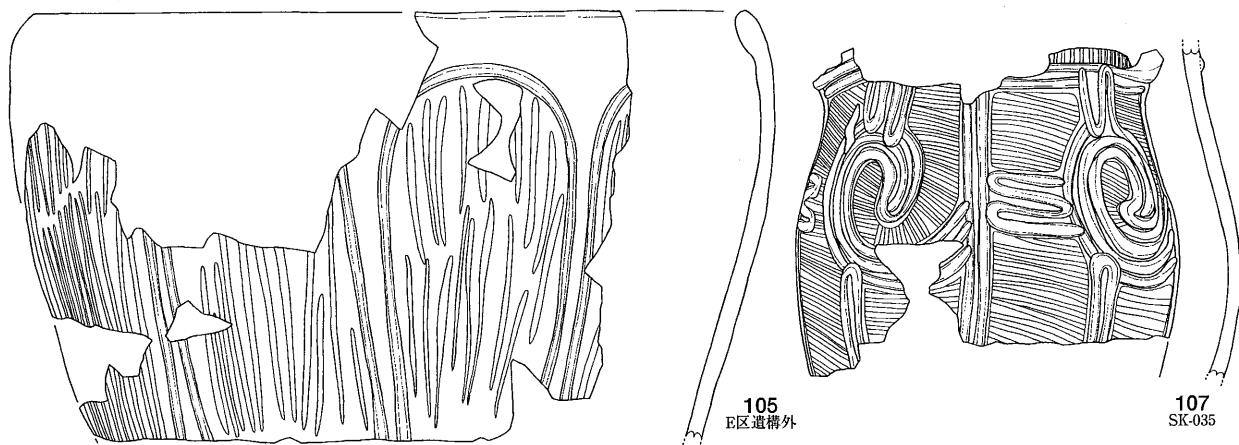
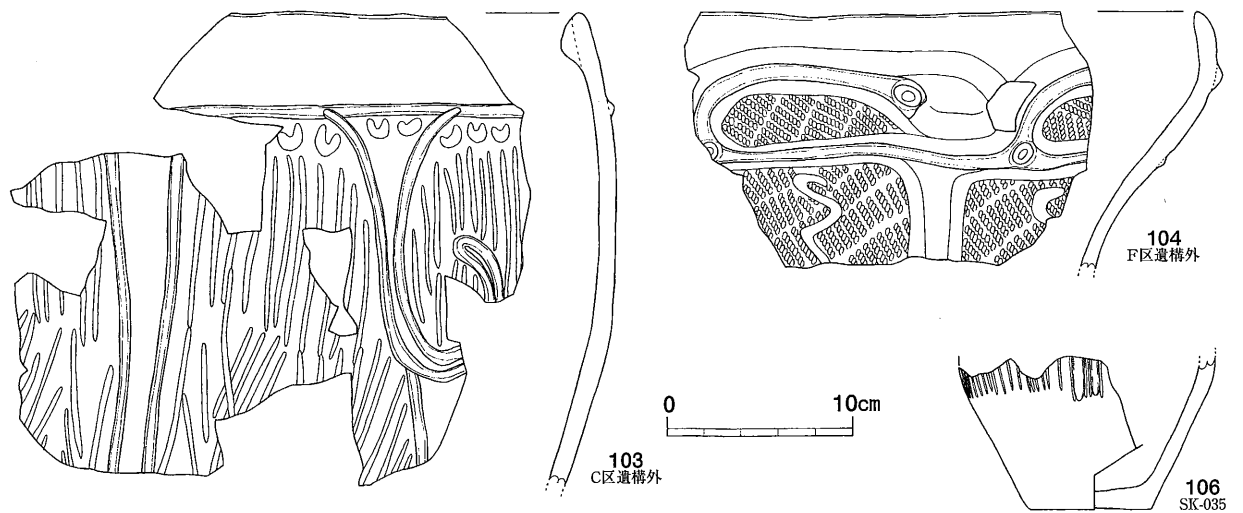
第27図 縄文土器 (9)



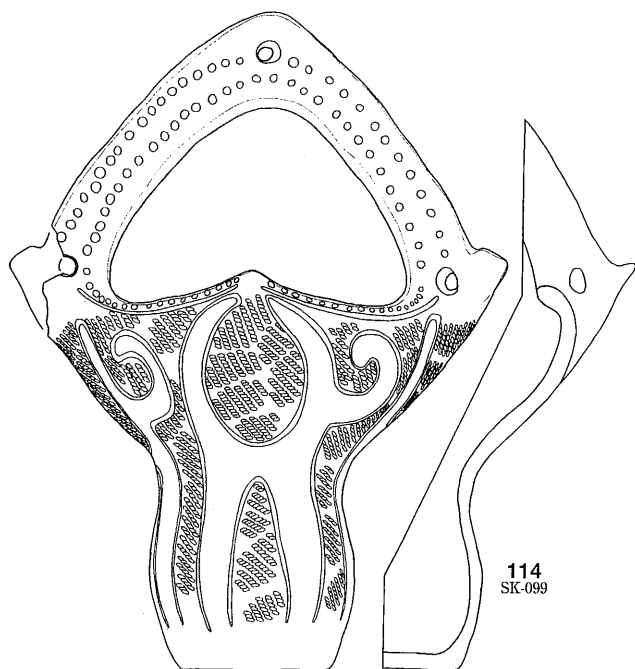
第28図 縄文土器 (10)



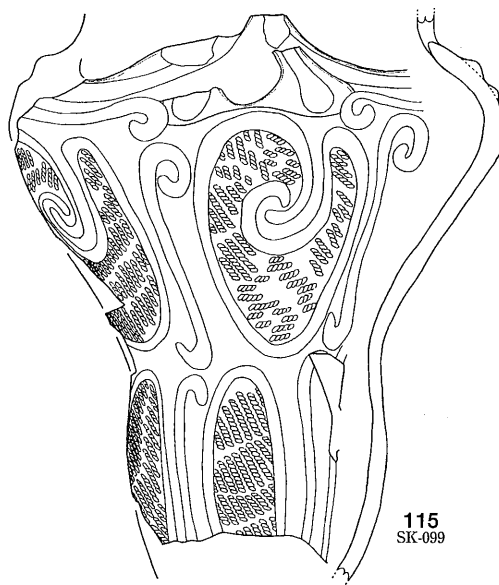
第29図 縄文土器 (11)



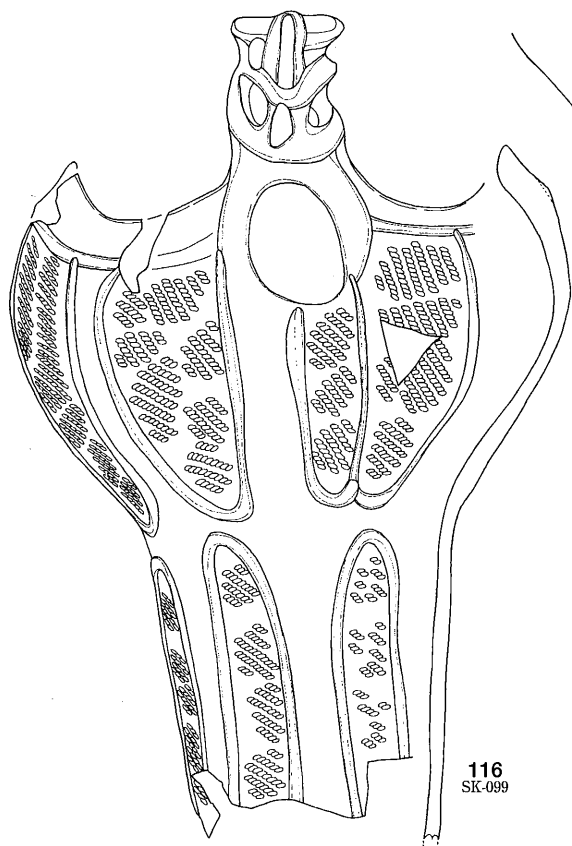
第30図 縄文土器 (12)



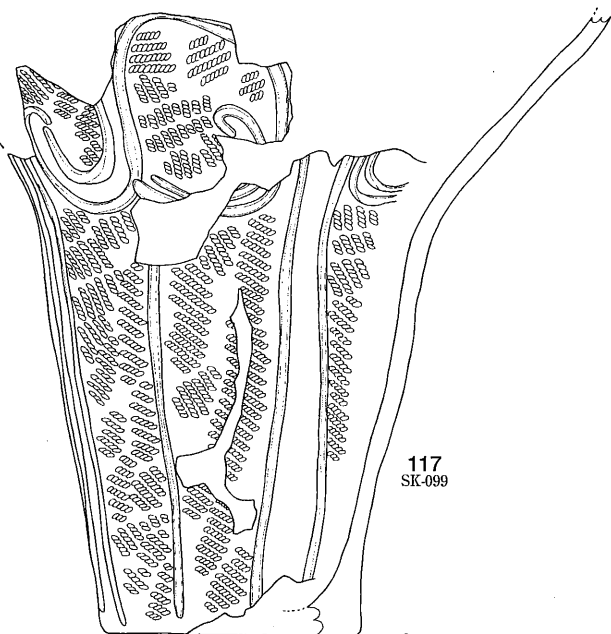
114
SK-099



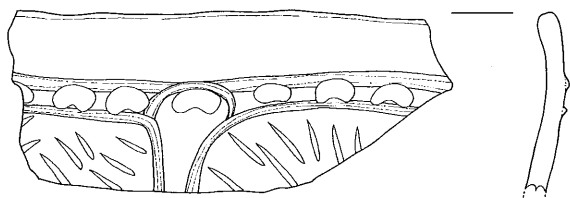
115
SK-099



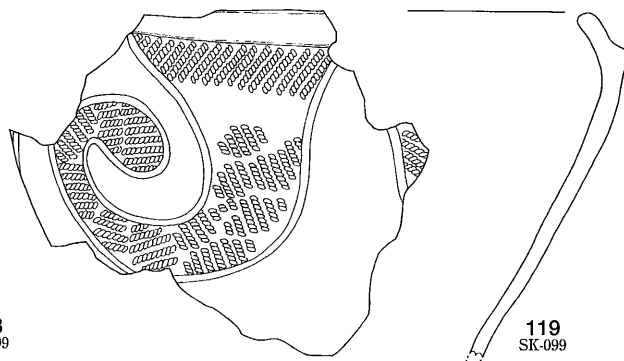
116
SK-099



117
SK-099

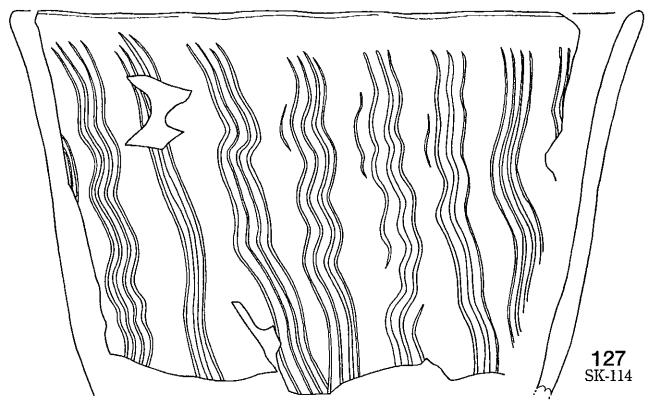
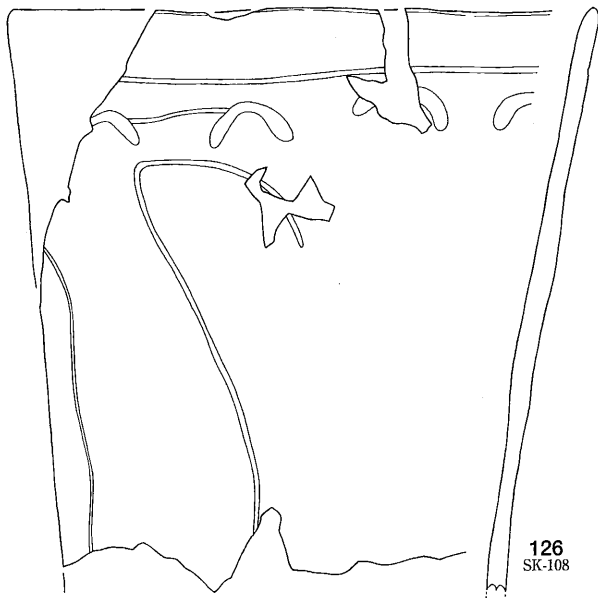
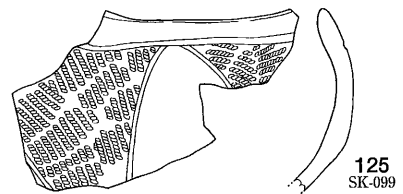
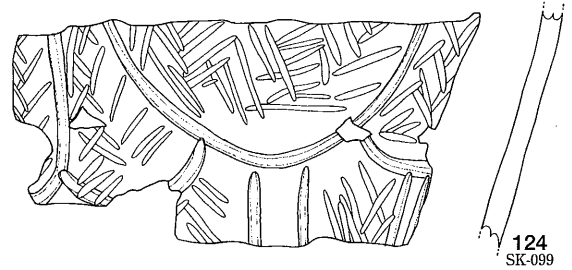
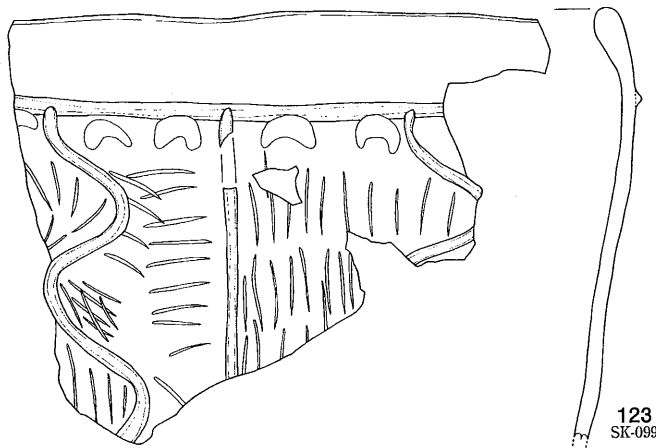
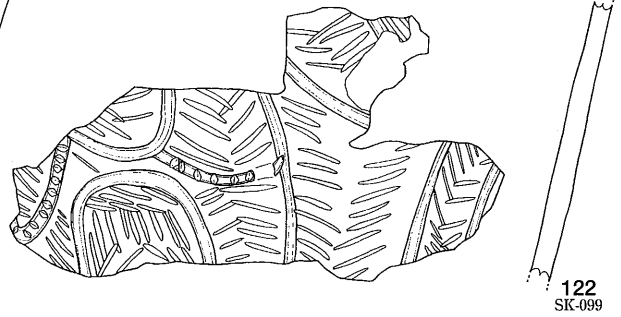
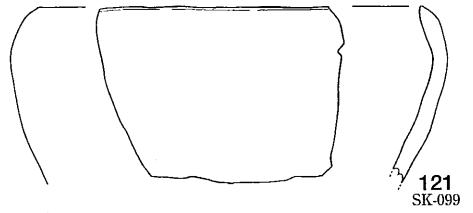
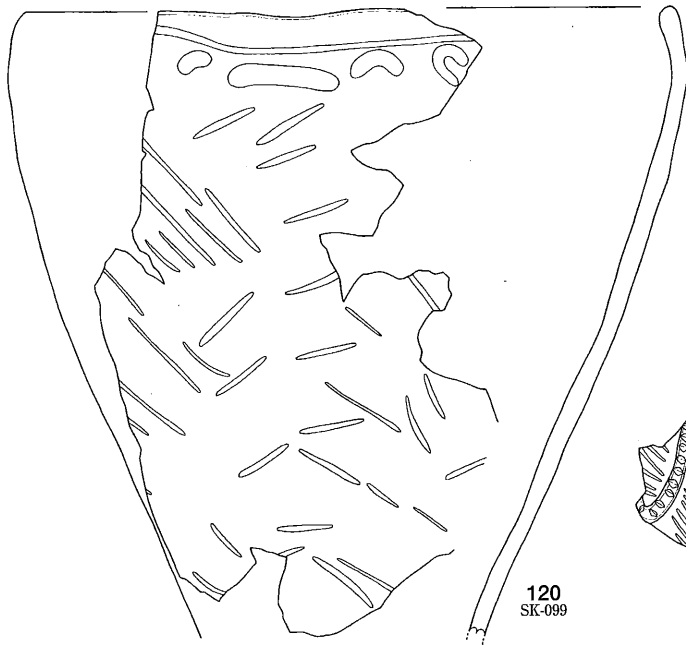


118
SK-099

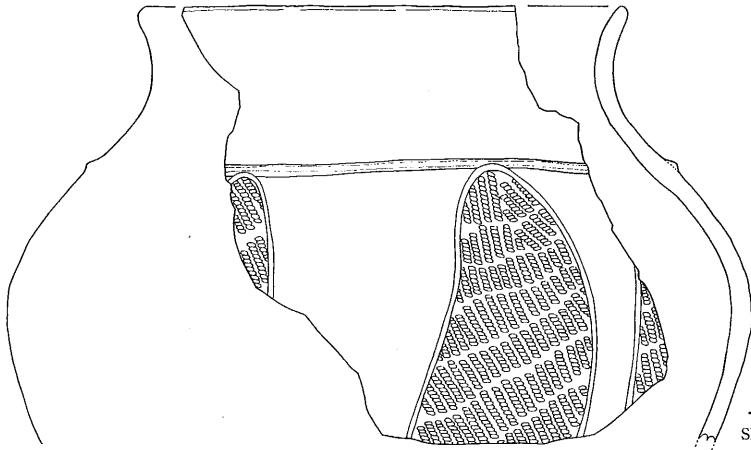


119
SK-099

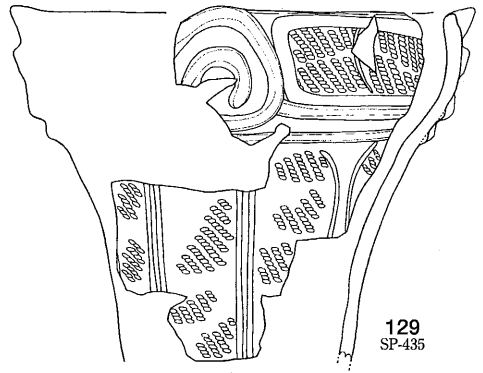
第31図 縄文土器 (13)



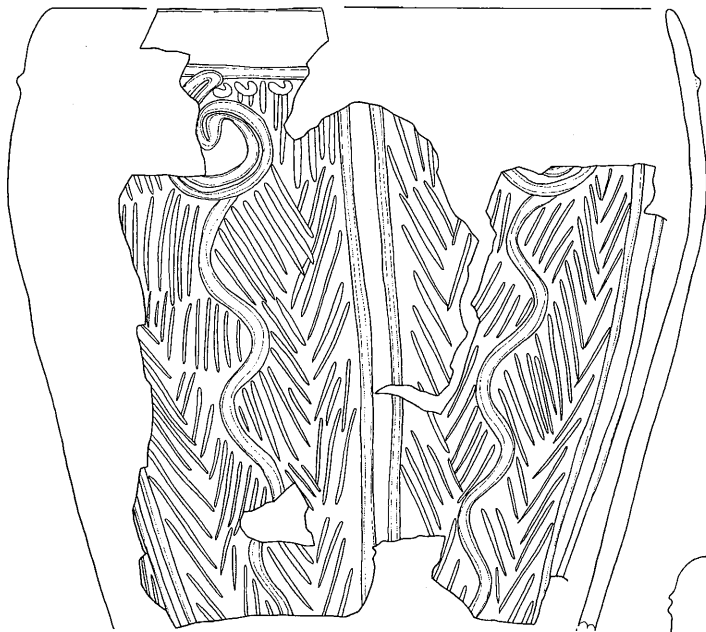
第32図 縄文土器 (14)



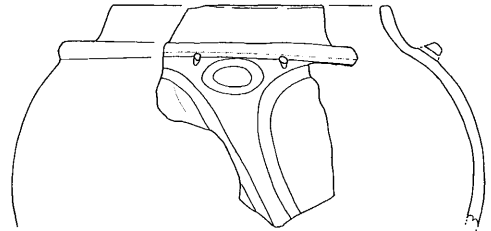
128
SK-105



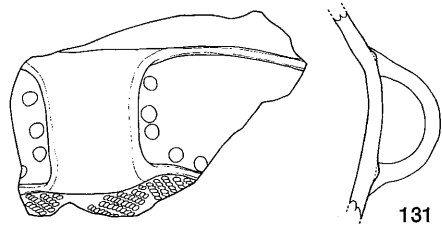
129
SP-435



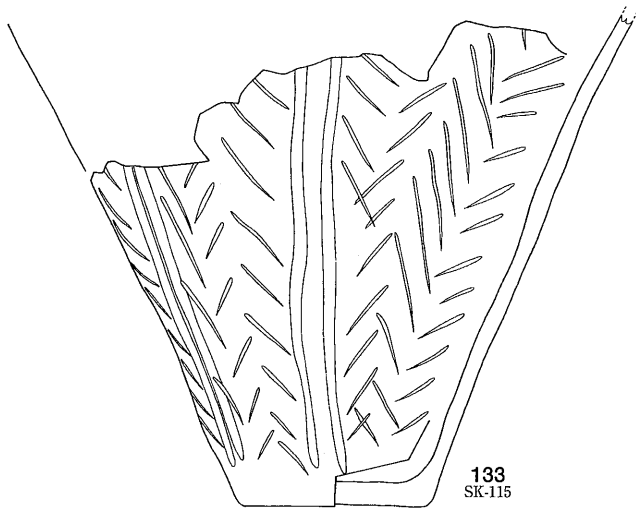
132
SK-126



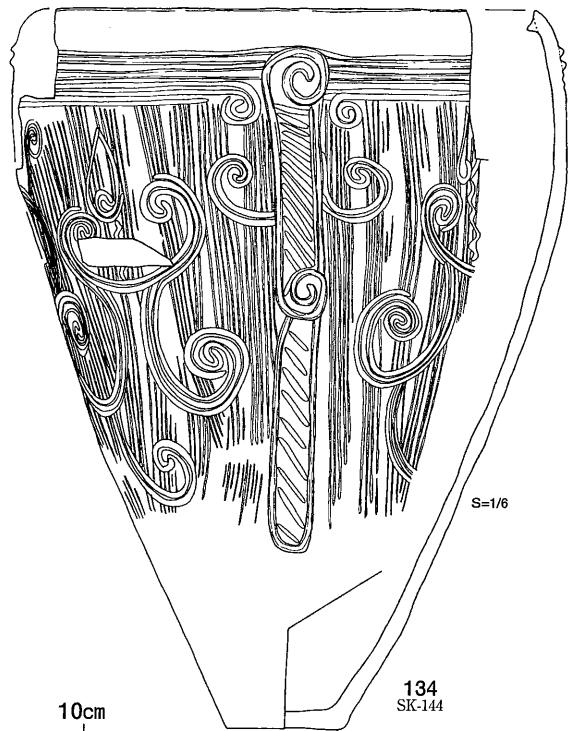
130
SP-435



131
SK-138

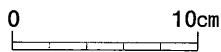


133
SK-115

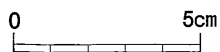
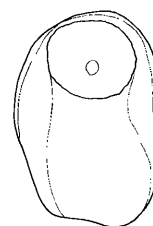
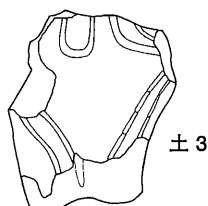
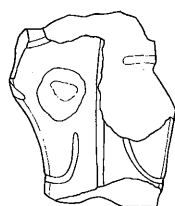
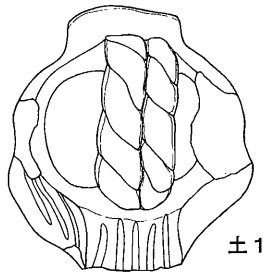
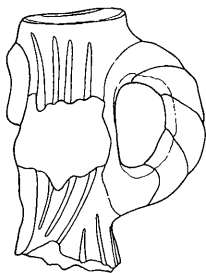
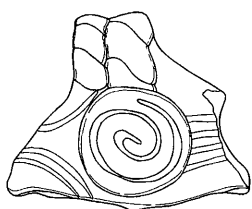
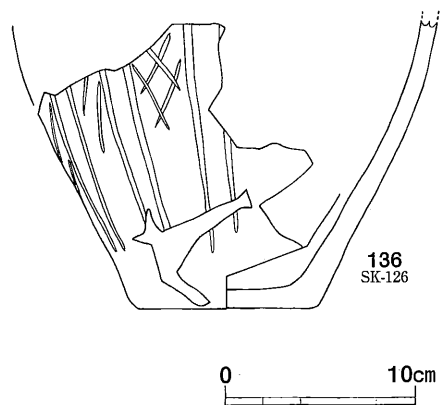
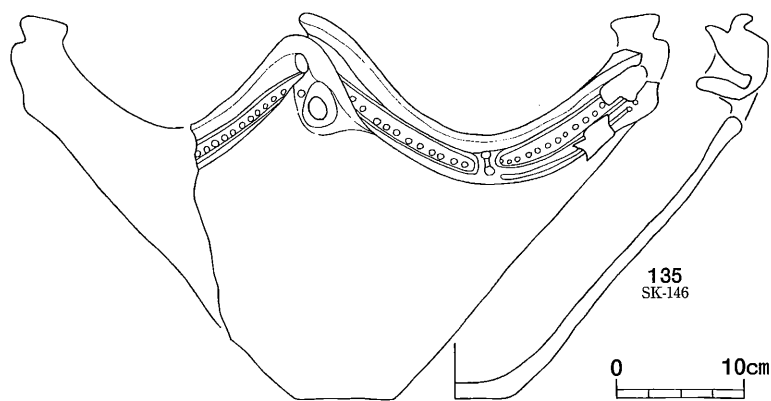


S=1/6

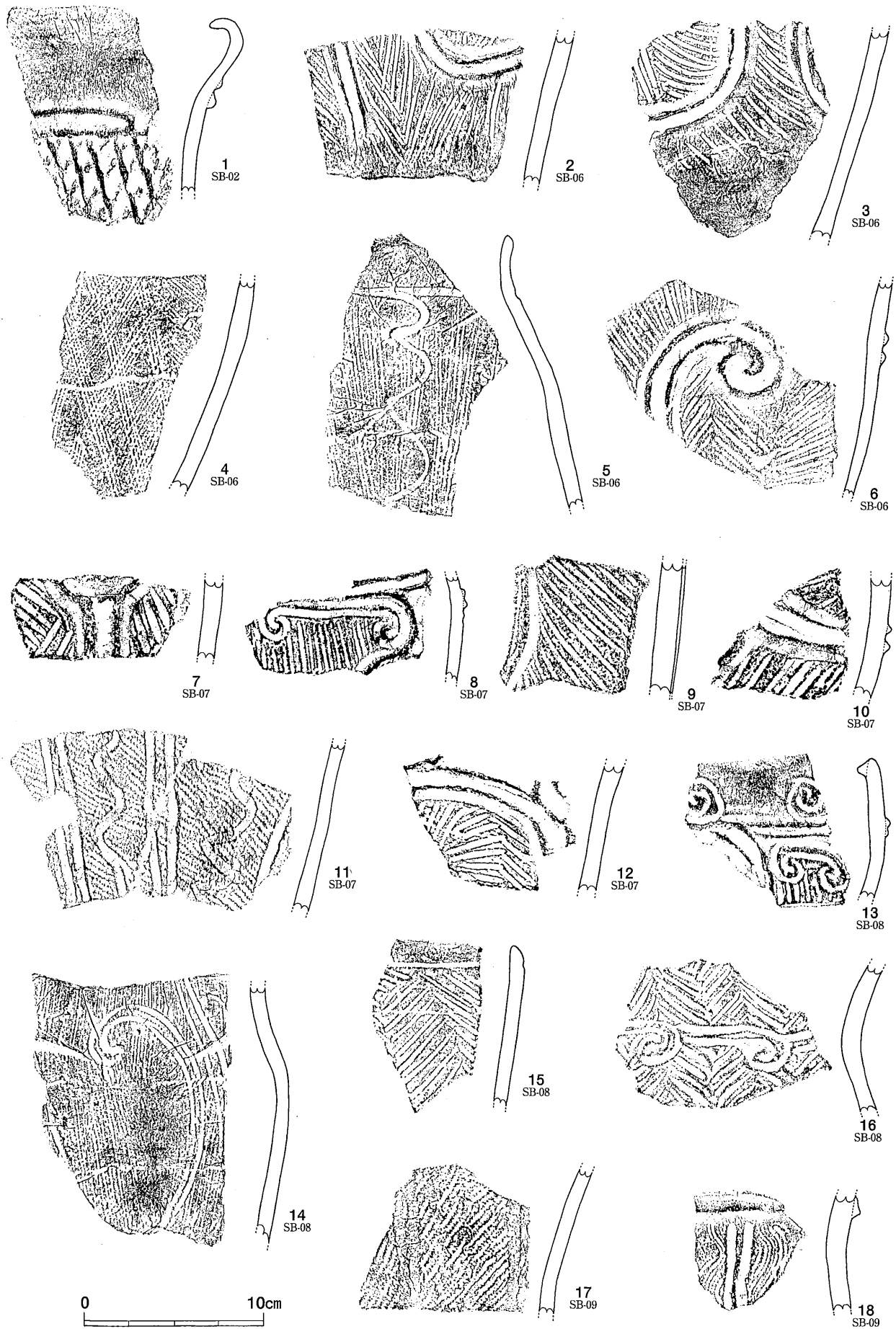
134
SK-144



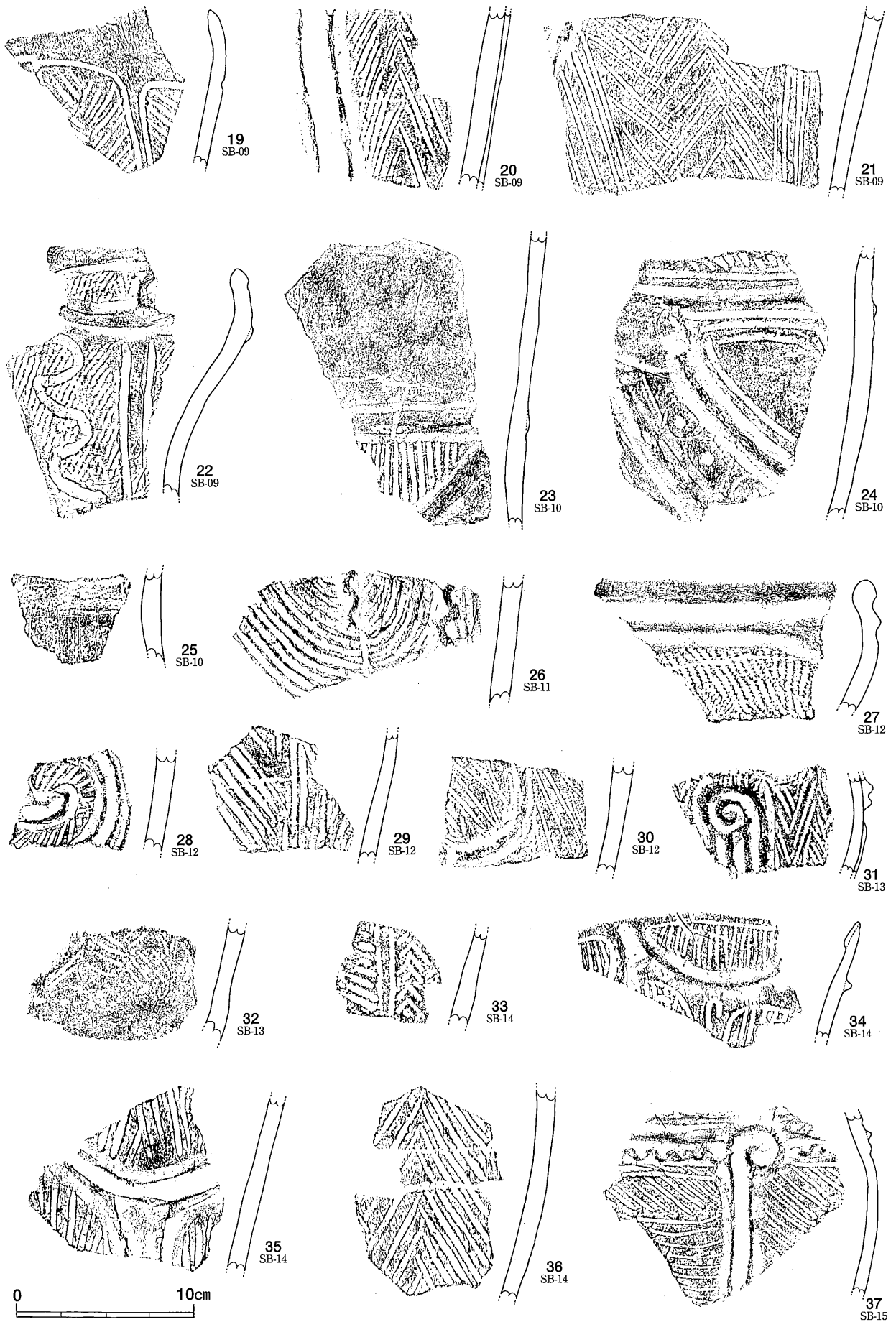
第33図 縄文土器 (15)



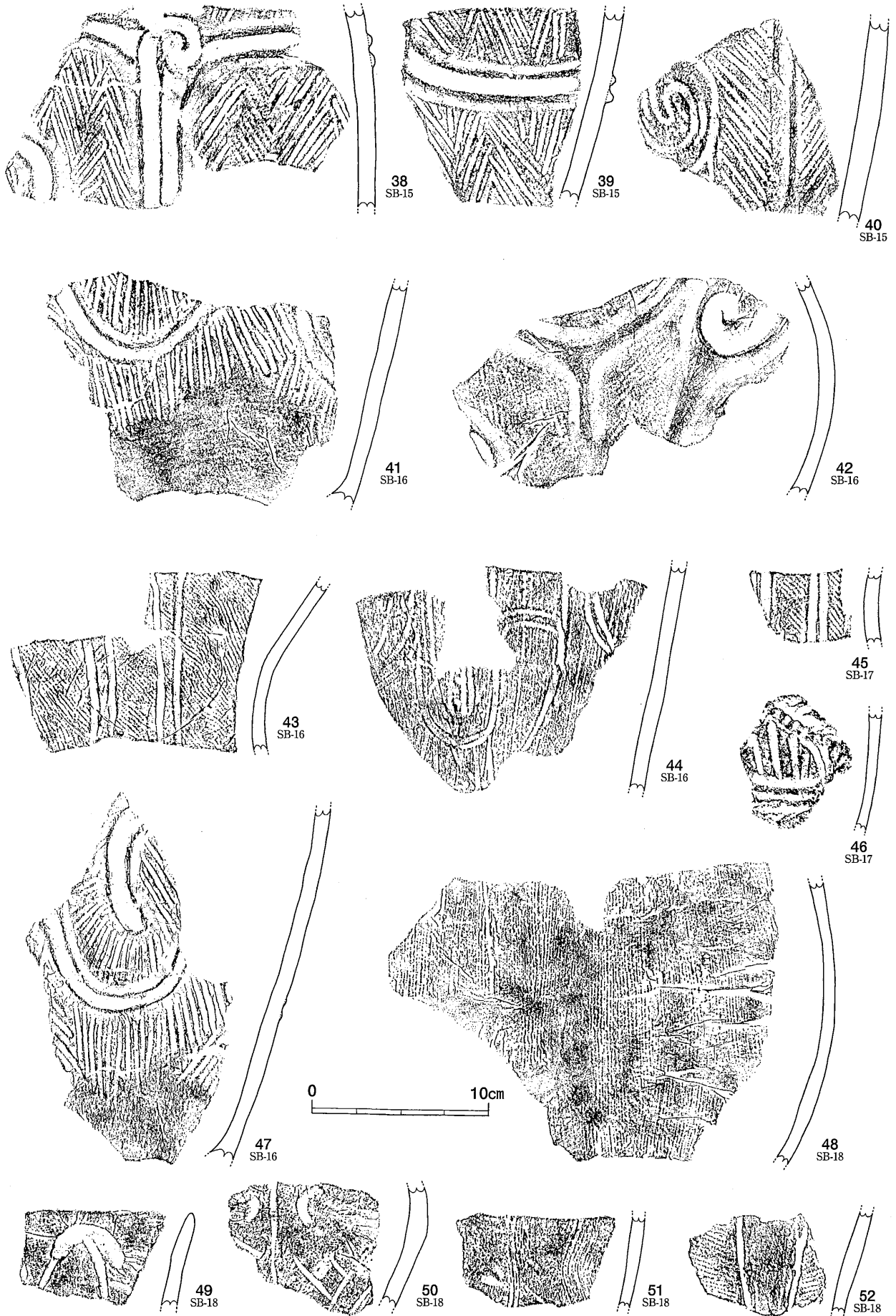
第34図 縄文土器 (16)・土偶



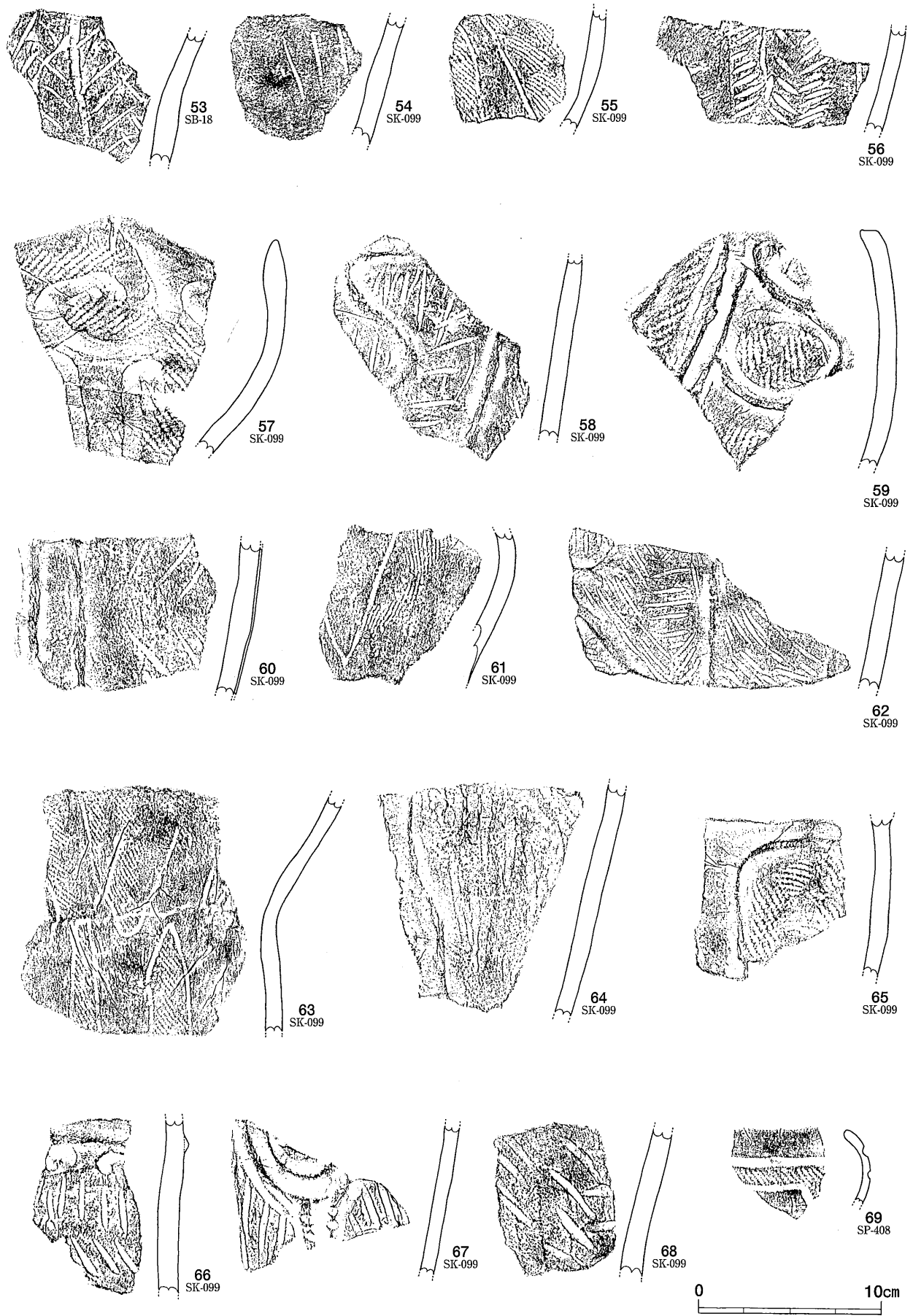
第35図 縄文土器拓影 (1)



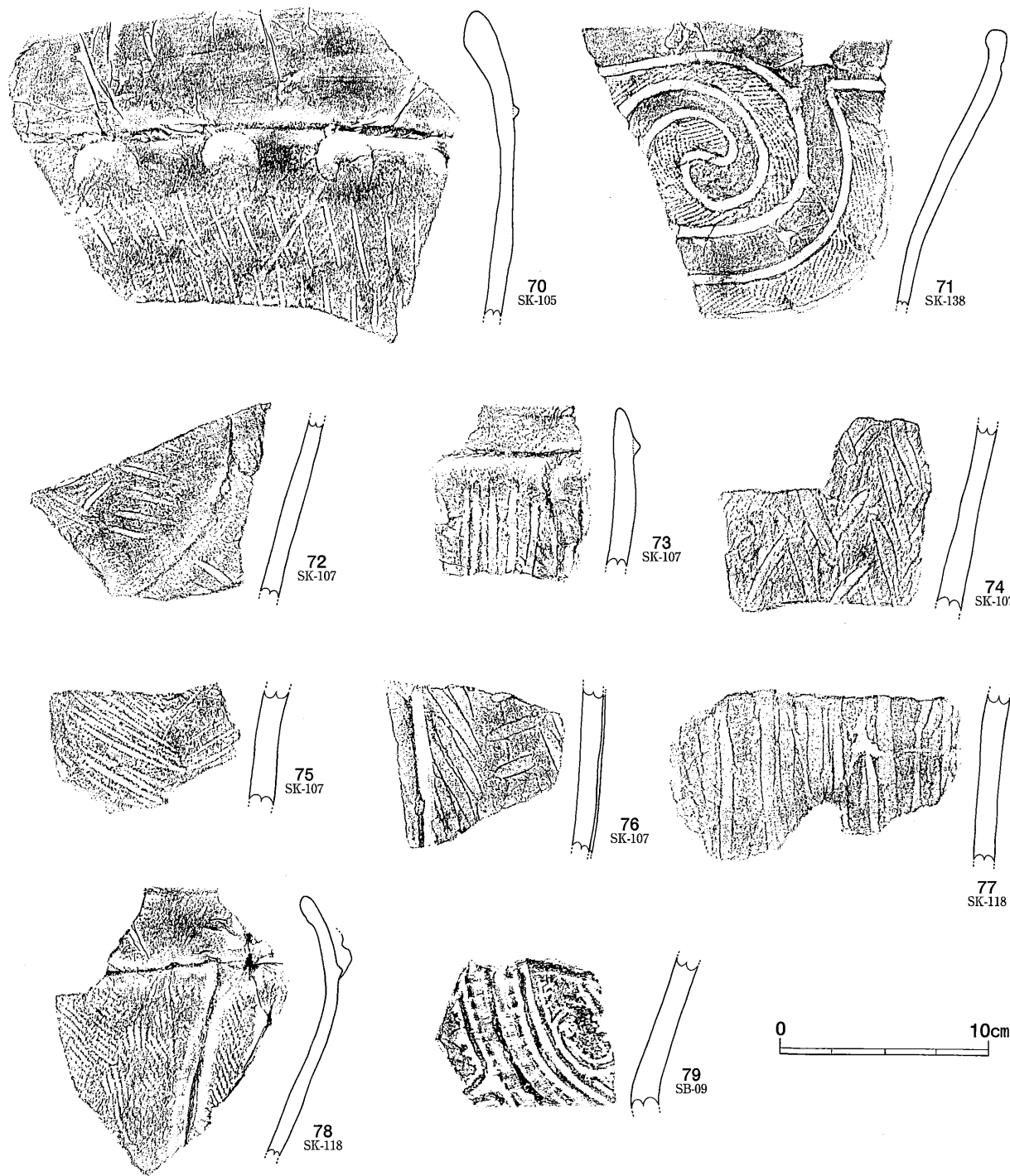
第36図 縄文土器拓影 (2)



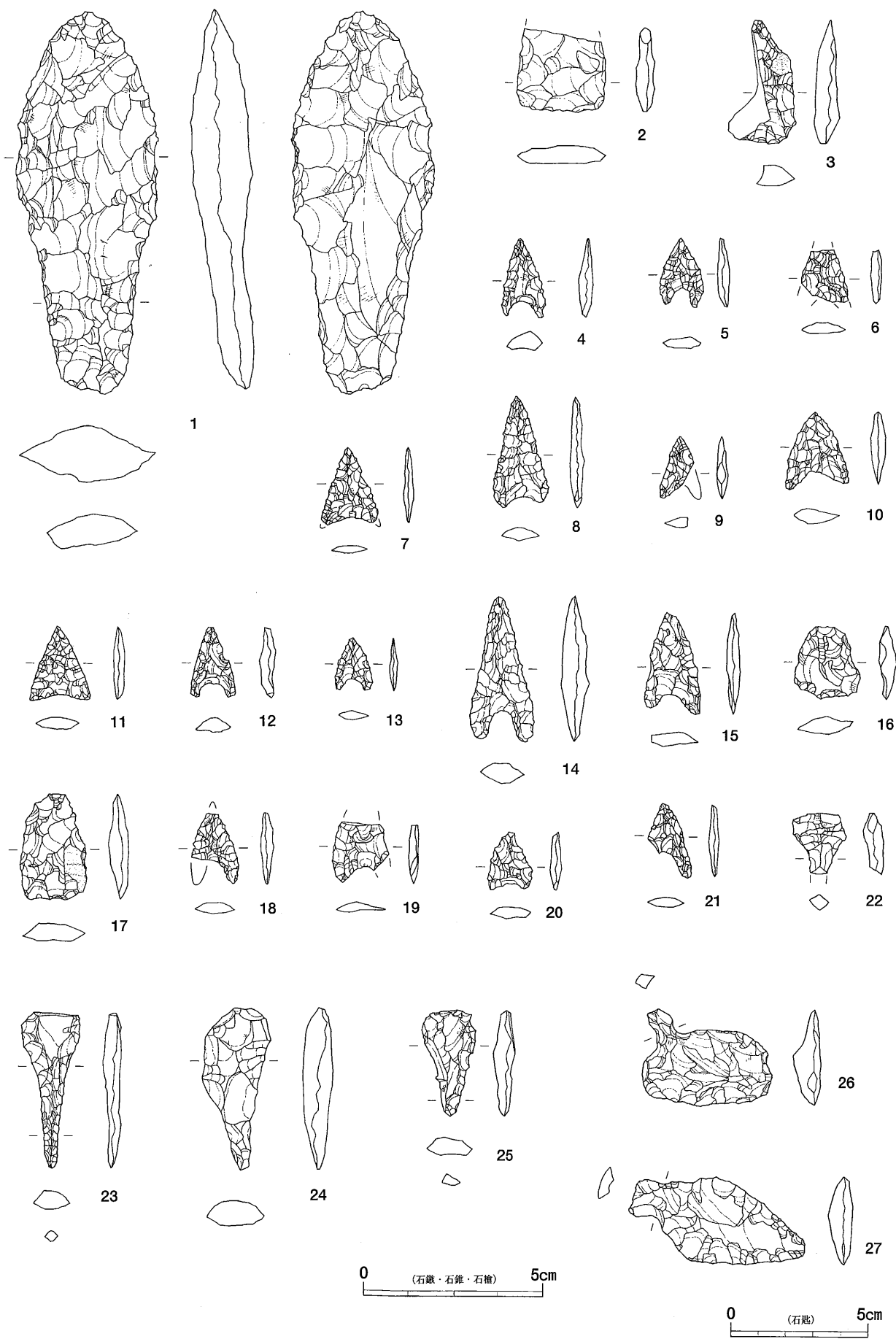
第37図 縄文土器拓影 (3)



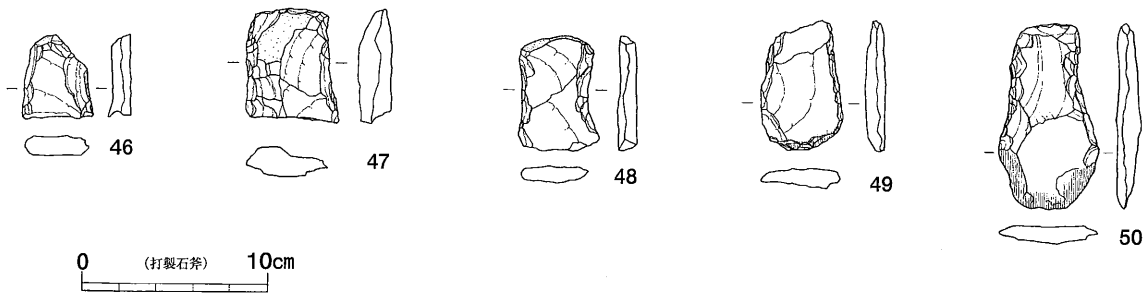
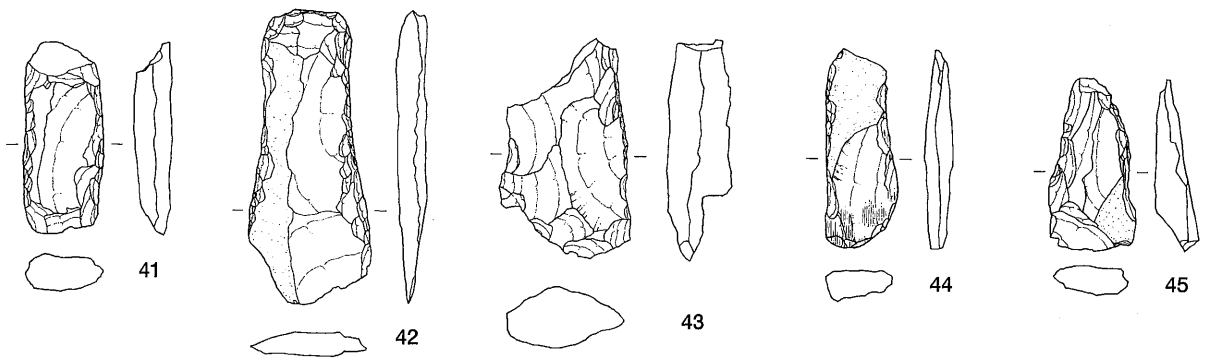
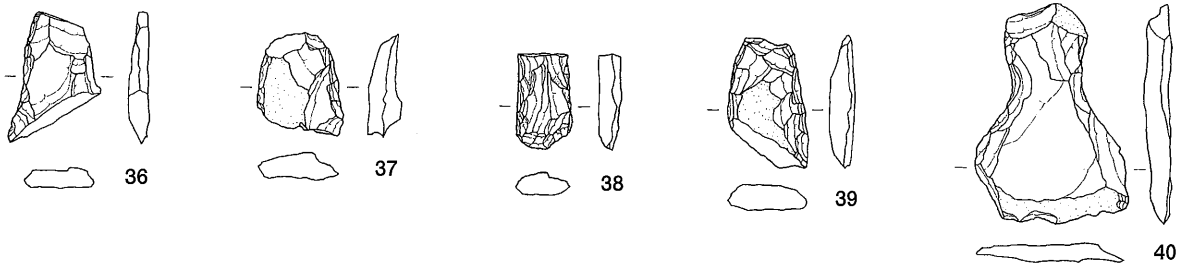
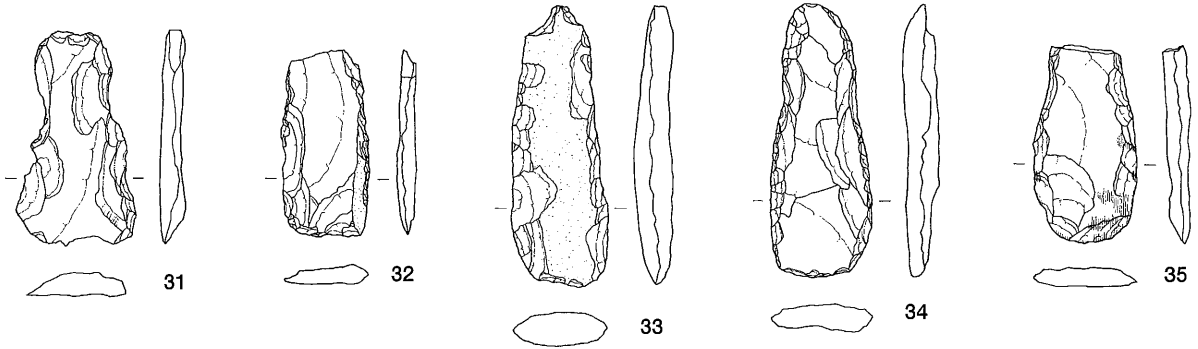
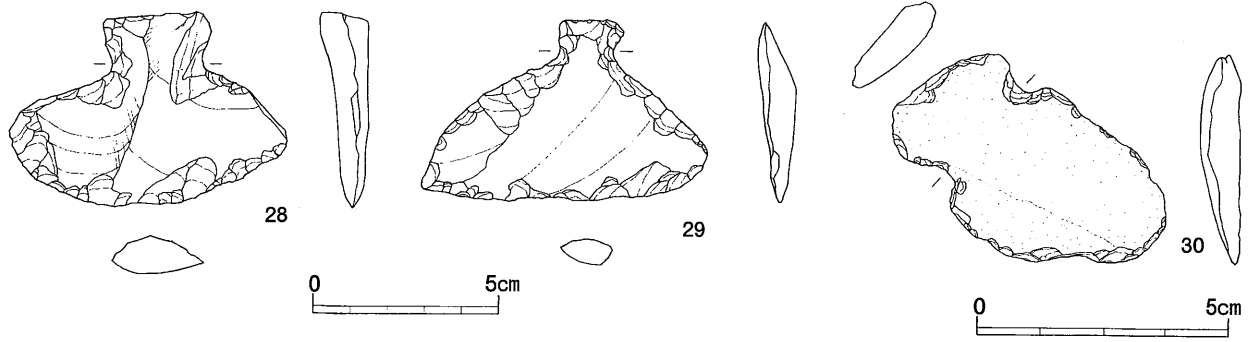
第38图 縄文土器拓影 (4)



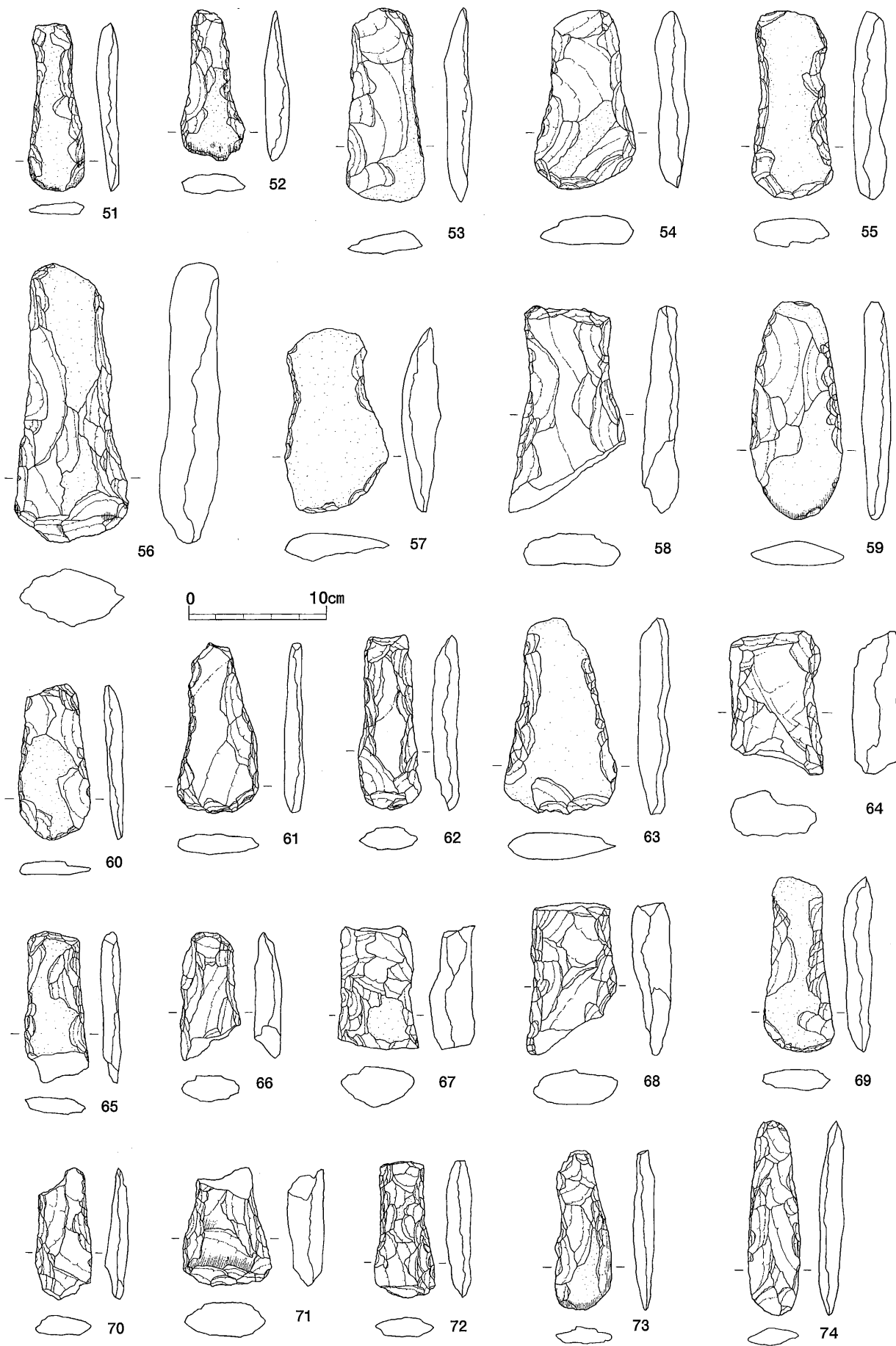
第39図 縄文土器拓影 (5)



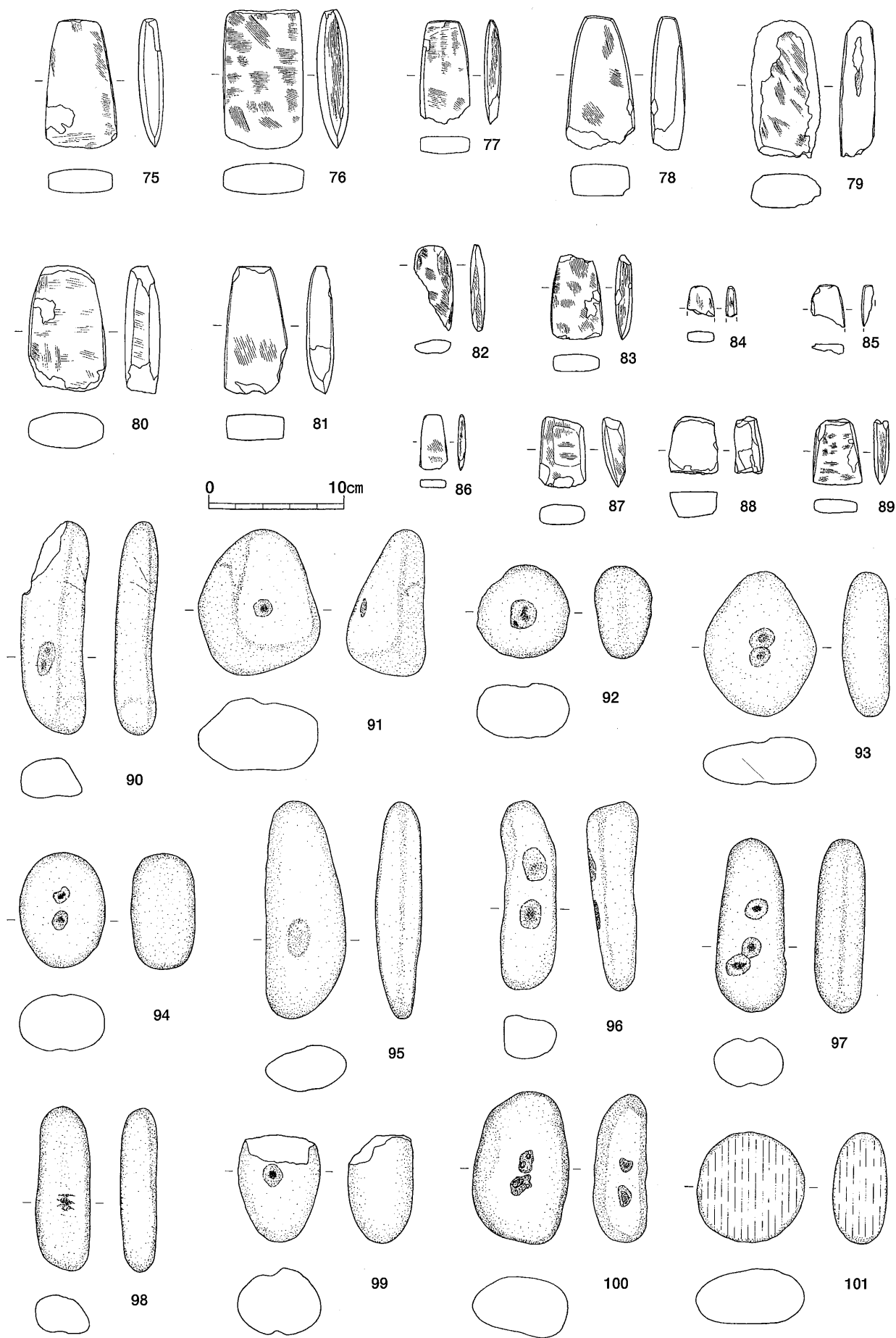
第40圖 石器 (1)



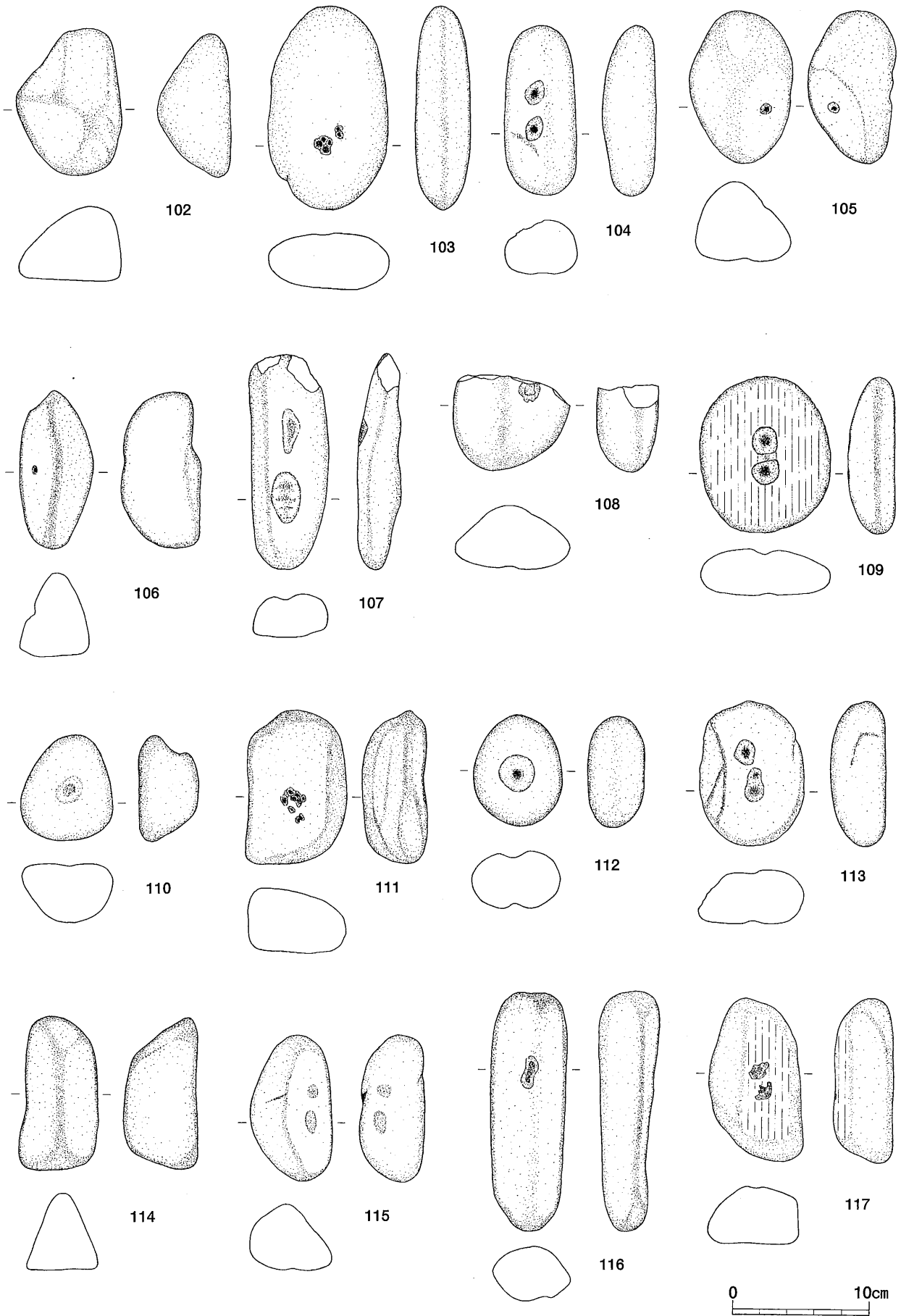
第41图 石器 (2)



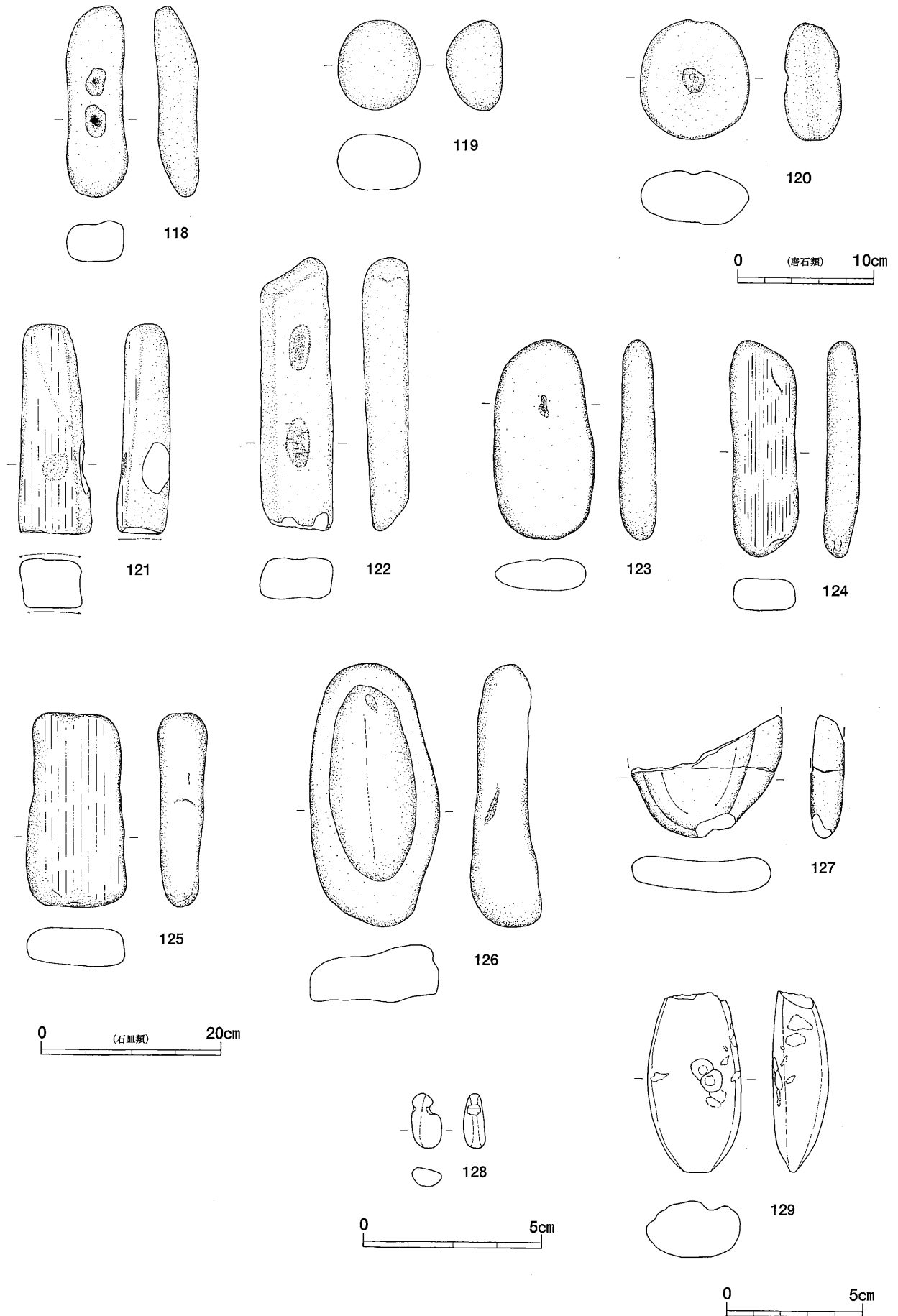
第42图 石器 (3)



第43图 石器 (4)



第44图 石器 (5)



第45図 石器 (6)・石製品

第3表 実測土器観察表

No.	出土地点	器種	色 調	胎土	焼成	残 存 率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考
1	A区 SB-01土器9	深鉢	10YR5/2 灰黄褐	稍密	稍良好	一部欠損	17.9	9.0	27.1	
2	A区 SB-01土器6	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	良好	ほぼ完形	17.5	9.2	28.4	
3	A区 SB-01土器7	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/6欠損	22.0	9.7	29.5	底部網代痕
4	A・B区 SB-01土器17	深鉢	7.5YR4/2 灰褐	稍密	良好	体部・底部一部欠損	19.4	(8.4)	26.4	
5	B区 SB-01土器1	深鉢	7.5YR6/2 灰褐	稍粗	稍良好	口唇部1/6、体部の一部欠損	18.0	8.6	26.9	
6	A区 SB-01土器10	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部中半1/2欠損	(17.2)	7.8	26.8	
7	A区 SB-01土器群8	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	ほぼ完形	22.0	7.8	27.6	補修孔 割口に漆?付着 底部網代痕
8	B区 SB-01土器群2	深鉢	5YR5/4 におい赤褐	稍粗	稍良好	口縁部～体部中半1/3、体部下半以下欠損	(11.5)	—	<19.6>	
9	A区 SB-01土器群9	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部1/8、体部～底部1/2欠損	(11.6)	(5.8)	19.6	
10	A区 SB-01土器群13	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	密	稍良好	口縁部1/2、体部2/3残存	(11.0)	—	<20.0>	
11	A区 SB-01内P7	深鉢	5YR5/2 灰褐	稍粗	稍軟	口縁部欠損	—	6.9	<19.0>	器形は楕円形
12	B区 SB-01土器群1	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	口縁部1/4、体部下半以下欠損	33.0	—	<36.3>	
13	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	5YR5/3 におい赤褐	稍粗	稍良好	口縁部～体部下半1/2残存	21.6	—	<21.9>	
14	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	良好	2/5残存	(9.9)	(5.9)	14.6	
15	A区 SB-01土器群7	深鉢	5YR6/4 におい橙	稍粗	稍良好	ほぼ完形	9.6	6.0	15.2	器形は楕円形
16	A区 SB-01土器3	深鉢	7.5YR4/3 褐	稍密	稍良好	ほぼ完形	24.2	9.4	36.5	
17	B区 SB-01土器群1	深鉢	5YR5/3 におい赤褐	粗	稍軟	口唇部9/10、体部下半以下欠損	(23.4)	—	<28.5>	磨滅著しい
18	A区 SB-01土器18	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部・体部を部分的に一部欠損	22.8	9.0	34.2	底部網代痕
19	A区 SB-01土器15	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部上半1/4残存	(26.0)	—	<16.3>	
20	B区 SB-01土器2	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	密	良好	体部下半以下残存	22.4	—	<25.1>	
21	A区 SB-01土器16	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	体部下半以下残存	—	11.1	<16.0>	
22	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	体部下半以下3/4残存	—	7.7	<14.5>	
23	B区 SB-01土器群3	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	体部中半～下半残存	—	—	<14.9>	
24	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部2/3、体部下半以下欠損	23.8	—	<28.2>	
25	A区 SB-01土器群7	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/4残存	(31.6)	—	<22.3>	
26	A区 SB-01土器8	深鉢	5YR5/2 灰褐	密	良好	口縁部～体部上半1/4残存	(22.4)	—	<14.5>	中野山越A2類
27	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部1/4残存	(17.2)	—	<15.0>	
28	A区 SB-01	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部1/3、体部2/3残存	(12.8)	—	<14.7>	
29	A区 SB-01土器群13	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	良好	体部2/5残存	—	—	<19.1>	
30	A区 SB-01土器群12	深鉢	7.5YR6/2 灰褐	稍密	良好	—	(13.7)	—	<14.8>	
31	A区 SB-01土器群9	深鉢	5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部下半1/2残存	(21.3)	—	<23.0>	
32	A区 SB-01土器19	深鉢	5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	体部下半以下残存	—	6.0	<10.6>	底部網代痕
33	A区 SB-01土器14	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	粗	稍良好	体部下半以下ほぼ残存	—	9.1	<15.7>	焼き歪みしている
34	A・B区 SB-01土器群5	深鉢	7.5YR5/4 におい褐	稍密	良好	体部中半以下残存	—	7.0	23.2	
35	A区 SB-01土器5	台付深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	良好	口縁部1/3、台部欠損	15.1	—	<20.0>	
36	A区 SB-01土器7	台付深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍粗	稍良好	口縁部、台部欠損	—	—	<20.7>	
37	A区 SB-01土器13	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	稍軟	口縁部～体部上半1/3、体部2/3残存	(19.7)	—	<23.4>	磨滅著しい
38	B区 SB-01内P22	小型深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	体部～底部1/3残存	—	5.4	<8.9>	
39	A区 SB-01土器群6	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	密	良好	底部付近残存	—	6.4	<6.3>	底部木葉圧痕
40	B区 SB-02	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	密	良好	体部1/3残存	—	—	<19.8>	
41	B区 SB-02埋壘	深鉢	7.5YR4/2 灰褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半残存	38.5	—	<35.0>	
42	C区 SB-06	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	稍良好	口縁部1/16残存	—	—	<8.4>	
43	C区 SB-06	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	密	良好	口縁部1/16残存	—	—	<8.7>	
44	C区 SB-06	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	密	良好	口縁部～体部1/3残存	(27.6)	—	<28.7>	
45	C区 SB-06埋壘	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	良好	口縁部、底部欠損	—	—	<47.6>	
46	C区 SB-06土器群2	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部上半1/4、体部中半1/8残存	(28.6)	—	<24.8>	
47	C区 SB-08	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	口縁部～体部上半1/8残存	—	—	<19.5>	包含層取り上げ
48	C区 SB-08土器群3	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/4残存	(27.2)	—	<12.6>	
49	C区 SB-08土器群3	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	良好	口縁部～体部1/8残存	—	—	<14.1>	
50	C区 SB-08	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	口縁部の一部のみ残存	—	—	<8.6>	
51	C区 SB-08	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	体部下半1/2残存	—	—	<7.9>	包含層取り上げ
52	C区 SB-08	ミニチュア	10YR6/4 におい黄橙	稍密	良好	口縁部、体部1/2欠損	—	2.4	<2.4>	
53	C区 SB-08土器群2	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	体部下半1/3、底部残存	—	8.0	<10.2>	底部網代痕
54	C区 SB-08	深鉢	5YR6/3 におい橙	粗	稍良好	体部下半1/2、底部残存	—	6.4	<15.3>	包含層取り上げ 底部網代痕
55	C区 SB-08土器群1	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	稍良好	口縁部1/3、体部1/6残存	(38.2)	—	<34.0>	
56	C区 SB-08土器群2	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	稍密	良好	口縁部～体部上半1/12残存	—	—	<20.2>	
57	C区 SB-09土器群9	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/8残存	—	—	<17.6>	
58	C区 SB-09	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/8、体部1/4残存	(19.6)	—	<18.5>	
59	C区 SB-08土器群1	深鉢	2.5Y6/3 におい黄	稍密	稍良好	体部～底部3/4残存	—	10.6	<35.3>	底部網代痕
60	C区 SB-08土器1	鈎手土器	7.5YR7/4 におい橙	密	良好	ほぼ完形	11.0	7.5	13.1	
61	C区 SB-09	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	良好	体部下半～底部残存	—	6.0	<8.0>	
62	C区 SB-09土器2	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	底部下半～底部残存	—	6.8	<8.2>	
63	C区 SB-09	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部上半1/12残存	—	—	<18.5>	
64	C区 SB-09	深鉢	7.5YR5/4 におい褐	稍粗	稍良好	口縁部～体部1/12残存	—	—	<14.9>	
65	C区 SB-09	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍粗	稍良好	口縁部～体部上半1/4残存	(18.8)	—	<8.1>	
66	C区 SB-09	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	密	良好	口縁部1/8残存	—	—	<7.3>	
67	C区 SB-09	深鉢	2.5Y7/3 浅黄	稍粗	良好	口縁部1/4残存	(20.7)	—	<8.4>	
68	C区 SB-09	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	密	良好	体部～底部1/3残存	—	(7.8)	<22.0>	
69	C区 SB-09	有孔鈎付	10YR5/2 灰黄褐	密精良	良好	体部の一部のみ残存	—	—	<3.3>	一部に朱付着

No.	出土地点	器種	色調	胎土	焼成	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
70	C区 SB-09土器1	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	体部下半以下残存	—	8.4	<15.4>	佐久系唐草文?
71	C区 SB-09土器群1	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	体部下半1/4残存	—	—	<20.5>	
72	C区 SB-10土器2	深鉢	2.5YR4/3 におい赤褐	稍密	稍軟	口縁部突起の1/3、口縁部～体部3/4残存	18.5	—	<21.9>	焼町式
73	C区 SB-10	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	体部1/3残存	—	—	<12.1>	SB-09混入の可能性大
74	C区 SB-10土器3	深鉢	7.5YR5/6 明褐	稍密	稍良好	体部下半以下ほぼ残存	—	7.5	<14.0>	
75	C区 SB-10	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	良好	口縁～体部上半1/3、体部中半1/8、以下完存	(34.2)	13.1	53.3	底部網代痕
76	C区 SB-10土器4	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	良好	口縁部1/8、底部1/6欠損	17.9	8.3	29.1	底部網代痕
77	C区 SB-10土器1	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	密	良好	底部ほぼ欠損	13.8	(6.1)	22.3	
78	C区 SB-10	深鉢	10YR4/1 褐灰	稍密	稍良好	口縁部～体部上半2/3残存	20.8	—	<18.1>	
79	C区 SB-10	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	口縁部～体部上半1/2残存	—	—	<17.1>	
80	C区 SB-10	ミニチュア	10YR6/3 におい黄橙	密	良好	完形	3.1	2.7	4.2	
81	C区 SB-10	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	稍密	良好	体部下半以下残存	—	9.9	<17.8>	
82	D区 SB-11	鉢	5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	体部1/5残存	—	—	<10.4>	
83	D区 SB-11	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	良好	口縁部1/3残存	(20.8)	—	<10.7>	包含層取り上げ
84	D区 SB-11	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	良好	体部下半以下残存	—	10.1	<22.1>	底部網代痕
85	D区 SB-13	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	体部下半～底部残存	—	5.2	<8.0>	
86	D区 SB-14周溝	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	密	良好	口縁部～体部1/4残存	(14.2)	—	<6.9>	
87	E区 SB-15炉	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	密	稍良好	口縁部把手、体部下半以下欠損	14.0	—	<18.0>	
88	E区 SB-15	浅鉢	10YR6/4 におい黄橙	密	良好	口縁部～体部1/4残存	(41.2)	—	<21.2>	
89	E区 SB-15	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部3/4、体部1/2残存	15.8	—	<19.1>	
90	E区 SB-15炉	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/8残存	—	—	<15.1>	
91	E区 SB-15	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～頸部3/4残存	23.2	—	<10.4>	
92	E区 SB-15	深鉢	5YR4/2 灰褐	稍粗	稍良好	口縁部～体部3/4残存	(27.2)	—	<19.6>	
93	E区 SB-15	壺	10YR6/4 におい黄橙	稍密	稍良好	体部2/5残存	—	—	<21.5>	磨減著しい
94	E区 SB-16埋甕	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	稍密	稍良好	口唇部と体部下半以下欠損	—	—	<43.6>	
95	E区 SB-16	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部1/8、体部1/2、底部残存	(21.4)	7.2	29.5	包含層取り上げ
96	E区 SB-16	深鉢	10YR5/3 におい黄褐	稍密	稍良好	体部2/3残存	—	—	<19.1>	
97	E区 SB-16	深鉢	10YR5/2 灰黄褐	稍密	稍良好	底部、体部の一部欠損	18.6	—	<22.2>	
98	E区 SB-16	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	良好	体部下半1/4残存	—	—	<14.9>	
99	G区 SB-18内P15	深鉢	7.5YR7/4 におい橙	稍粗	稍良好	体部下半1/2残存	—	—	<13.2>	
100	E・F区 SB-17	深鉢	10YR6/2 灰黄褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/8残存	—	—	<11.8>	
101	G区 SB-18炉	深鉢	10YR7/4 におい黄橙	稍密	稍良好	口縁部～体部1/3残存	(20.3)	—	<19.2>	
102	A区 SK-001	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	密	稍良好	口縁部～体部上半4/5欠損	(19.2)	4.7	21.0	
103	C4N区 遺物包含層	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍密	稍良好	口縁部～体部1/6残存	—	—	<25.2>	包含層取り上げ
104	F1S区 遺物包含層	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/6残存	—	—	<13.7>	
105	E7N区 遺構面直上	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍粗	稍良好	口縁部1/16、体部1/4残存	(37.9)	—	<23.0>	
106	C区 SK-035	深鉢	5YR6/4 におい橙	密	良好	体部下半～底部1/2残存	—	6.4	<7.7>	底部木葉圧痕
107	C区 SK-035	深鉢	7.5YR5/2 灰褐	稍粗	稍良好	体部のみ残存	—	—	<17.6>	
108	D区 SK-051	鉢	7.5YR6/3 におい褐	密	良好	口縁部～体部1/6残存	(31.0)	—	<13.2>	
109	C区 SK-053	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍粗	良好	口縁部～体部上半1/4残存	(23.2)	—	<18.4>	
110	D区 SK-054	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	口縁部～体部1/4残存	(19.8)	—	<12.6>	
111	G区 SK-121	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍粗	稍良好	把手のみ残存	—	—	<11.7>	
112	D区 SK-137	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	良好	体部下半以下残存	—	6.0	<11.8>	
113	G区 SK-121	深鉢	5YR5/3 におい赤褐	稍密	良好	体部下半～底部残存	—	(8.4)	<6.6>	
114	F区 SK-099下層	鈎手付深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	ほぼ完形	16.4	7.6	35.3	内面、鈎手に煤が著しく付着
115	F区 SK-099上層	深鉢	2.5Y6/3 におい黄	密	良好	口縁突起、口縁部～体部中半1/2、底部欠損	(20.2)	—	<30.3>	
116	F区 SK-099上層	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	良好	把手の片方と底部欠損	22.9	—	<44.6>	
117	F区 SK-099上層	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	稍良好	体部中半～底部残存	—	13.2	<31.3>	
118	F区 SK-099上層	深鉢	7.5YR7/4 におい橙	稍密	良好	口縁部1/8残存	—	—	<9.8>	
119	F区 SK-099上層	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/6残存	—	—	<18.5>	同一個体と思われる破片他にあり
120	F区 SK-099上層	深鉢	10YR5/1 褐灰	稍密	稍良好	口縁～体部中半1/8、体部中～下半1/3残存	(34.1)	—	<33.7>	
121	F区 SK-099上層	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍粗	良好	口縁部～体部1/4残存	(20.2)	—	<9.5>	
122	F区 SK-099上層	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	体部下半1/4残存	—	—	<15.0>	
123	F区 SK-099上層	深鉢	10YR5/2 灰黄褐	稍密	稍良好	口縁部～体部上半1/8残存	—	—	<23.1>	
124	F区 SK-099上層	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍密	良好	体部下半1/4残存	—	—	<12.6>	
125	F区 SK-099上層	深鉢	10YR6/3 におい黄橙	稍粗	稍良好	口縁部～体部上半1/4残存	—	—	<9.7>	
126	G区 SK-108	深鉢	10YR7/3 におい黄橙	稍密	良好	口縁部～体部1/2残存	(30.8)	—	<31.4>	
127	G区 SK-114	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍粗	稍良好	口縁部～体部1/4残存	(33.4)	—	<20.6>	
128	F区 SK-105	壺	7.5YR5/2 灰褐	稍密	良好	口縁部～体部1/4残存	(25.2)	—	<23.5>	
129	E区 SP-435	深鉢	7.5YR5/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部～体部1/6残存	(22.2)	—	<18.7>	
130	E区 SP-435	有孔鈎付	7.5YR7/3 におい橙	密精良	良好堅緻	口縁部～体部1/6残存	(14.6)	—	<11.9>	
131	E区 SK-138	壺	10YR6/4 におい黄橙	密	良好	体部の一部のみ残存	—	—	<11.1>	
132	G区 SK-126	深鉢	7.5YR6/3 におい褐	稍密	稍良好	口縁部～体部2/3残存	(33.6)	—	<33.2>	
133	G区 SK-115	深鉢	10YR6/4 におい黄橙	稍密	良好	体部下半～底部残存	—	9.6	<25.8>	
134	D区 SK-144	深鉢	2.5Y6/3 におい黄	稍密	稍良好	口縁部～体部中半1/2、底部1/2欠損	38.5	9.0	56.8	底部網代痕
135	G区 SK-146	浅鉢	7.5YR7/6 橙	稍密	良好	口縁部～体部2/3欠損	(37.2)	7.6	29.7	底部網代痕
136	H区 SK-126	深鉢	7.5YR6/4 におい橙	密	良好	体部下半～底部残存	—	9.3	<15.1>	

※ 口径・底径の欄、()付数値は復元値。器高の欄、<>付数値は現存値。

第4表 石製遺物観察表

実測図 No.	出土遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	抽出時 No.
1	C区 SB-10	石槍	10.5	3.9	1.6	52.7	黒曜石	86
2	D区 SB-11	石槍	(2.3)	2.4	0.5	3.6	チャート	123
3	G区 SK-146	石鏃	(3.4)	(1.9)	0.7	2.5	黒曜石	15
4	A区 SB-01	石鏃	2.2	1.3	0.5	0.8	黒曜石	19
5	A区 SB-01	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.5	黒曜石	3
6	B区 SB-06	石鏃	(1.4)	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石	14
7	C区 SB-08	石鏃	(2.1)	(1.6)	0.3	0.6	黒曜石	4
8	C区 SB-07	石鏃	3.1	1.5	0.4	1.5	チャート	16
9	C区 SB-09	石鏃	1.7	(1.0)	0.3	0.3	黒曜石	12
10	C・D区 SB-10	石鏃	2.2	1.7	0.4	1.0	黒曜石	10
11	D区 SB-11	石鏃	2.0	1.7	0.3	0.8	黒曜石	7
12	D区 SB-12	石鏃	1.9	1.3	0.4	0.7	黒曜石	8
13	D区 SB-12	石鏃	1.4	1.0	0.2	0.2	黒曜石	1
14	E区 SB-15	石鏃	4.0	1.8	0.8	3.6	チャート	9
15	E区 SB-16	石鏃	2.8	1.6	0.5	1.3	黒曜石	11
16	E区 SB-16	石鏃	(2.0)	(1.8)	0.5	1.4	黒曜石	17
17	E区 SB-16	石鏃	(2.9)	1.8	0.6	3.0	黒曜石	18
18	C区 SK-039	石鏃	(1.9)	(1.3)	0.3	0.6	黒曜石	2
19	E4N 遺構外	石鏃	(1.7)	(1.6)	0.3	0.7	黒曜石	5
20	C区 遺構外	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.5	黒曜石	6
21	表土除去中 (試8T~7T間)	石鏃	2.0	(1.2)	0.3	0.4	黒曜石	13
22	E8N 遺構外	石錐	(1.7)	1.5	0.6	1.5	チャート	22
23	D区 SB-11	石錐	4.3	1.6	0.5	2.4	チャート	20
24	D区 SB-12	石錐	4.5	1.9	0.8	5.8	チャート	122
25	C区 SK-023	石錐	(2.9)	1.5	0.6	2.1	チャート	21
26	B区 SB-02内P41	石匙	3.5	4.8	1.0	16.3	チャート	23
27	C区 SK-044	石匙	3.2	6.6	0.9	15.9	チャート	25
28	A区 SB-01内P15	石匙	5.2	7.4	1.3	34.1	硅化泥岩	24
29	C4N 遺構外	石匙	4.8	7.6	1.0	31.1	硅化泥岩	27
30	C4S 遺構外	石匙	8.4	10.9	1.5	148	粘板岩	26
31	A区 SB-01	打製石斧	(11.5)	6.4	1.4	103	粘板岩	57
32	A区 SB-01内P11	打製石斧	10.0	4.7	1.0	73.4	粘板岩	58
33	B区 SB-01	打製石斧	15.0	5.2	2.0	202	千枚岩	59
34	B区 SB-02埋壙内	打製石斧	14.6	5.5	2.1	195	粘板岩	55
35	C区 SB-10	打製石斧	(10.6)	5.5	1.4	131	粘板岩	48
36	B区 SB-02内P22	打製石斧	(7.1)	(5.0)	1.1	38.2	粘板岩	47
37	C区 SB-07	打製石斧	(5.6)	4.7	1.9	50.3	粘板岩	42
38	C区 SB-08炉	打製石斧	(5.2)	3.0	1.3	26.5	粘板岩	52
39	C区 SB-10	打製石斧	(7.0)	(4.3)	1.4	55.7	粘板岩	53
40	D区 SB-11	打製石斧	11.9	8.1	1.5	140	粘板岩	46
41	D区 SB-12	打製石斧	(10.3)	4.3	2.1	137	粘板岩	45
42	E区 SB-15	打製石斧	15.8	4.6	1.7	204	千枚岩	56
43	G区 SB-18	打製石斧	(11.8)	7.2	3.5	304	粘板岩	44
44	A区 SK-003	打製石斧	(10.7)	3.9	1.6	89.3	千枚岩	49
45	G区 SK-122	打製石斧	9.2	4.6	2.4	91.1	粘板岩	50
46	D区 SB-14	打製石斧	(4.5)	(3.9)	1.3	30.7	砂質粘板岩	41
47	G区 SP-654	打製石斧	(6.1)	(5.0)	1.8	77.1	粘板岩	43
48	G区 SB-18	打製石斧	(6.1)	4.4	1.1	35.6	硅化砂質泥岩	51
49	G区 SB-18	打製石斧	(7.0)	4.5	1.1	45.1	変質粘板岩	54
50	C4S 遺構外	打製石斧	9.9	5.3	1.3	81.1	千枚岩	77
51	C10N 遺構外	打製石斧	12.2	4.1	1.5	90.0	千枚岩	62
52	C4N 遺構外	打製石斧	10.9	4.7	1.7	90.7	粘板岩	66
53	C区 遺構外	打製石斧	14.1	5.6	1.8	198	変質粘板岩	64
54	D2N 遺構外	打製石斧	13.0	7.3	2.2	270	粘板岩	65
55	D1N 遺構外	打製石斧	13.6	5.9	2.3	270	変質粘板岩	72
56	D2N 遺構外	打製石斧	20.3	8.3	4.2	780	砂質粘板岩	71
57	E2N 遺構外	打製石斧	13.4	7.5	2.9	276	粘板岩	61
58	E8S 遺構外	打製石斧	(15.1)	(7.8)	2.7	330	千枚岩 (結晶片岩に近い)	76
59	表土除去中 (試7T~6T間)	打製石斧	15.8	6.7	2.1	256	硅化砂岩	70
60	E8S 遺構外	打製石斧	11.4	5.2	1.3	96.3	粘板岩	63

実測図 No.	出土遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	抽出時 No.
61	E2N・S 攪乱中	打製石斧	12.4	5.9	1.4	134	千枚岩	69
62	E2N・S 攪乱中	打製石斧	12.7	4.5	1.9	143	粘板岩	67
63	E2N・S 攪乱中	打製石斧	14.3	8.2	2.3	316	変質粘板岩	73
64	E9N 遺構外	打製石斧	(10.5)	6.7	3.4	324	砂質粘板岩	81
65	E9N 遺構外	打製石斧	(11.0)	4.6	1.5	103	粘板岩	79
66	E2N 遺構外	打製石斧	(9.3)	4.4	1.9	93.3	砂質粘板岩	80
67	E区 遺構外	打製石斧	(9.0)	5.9	3.2	214	砂質粘板岩	82
68	E2N 遺構外	打製石斧	(11.0)	(6.2)	2.8	242	砂質粘板岩	83
69	E10S 遺構外	打製石斧	12.7	5.2	2.0	172	千枚岩	60
70	E2N 遺構外	打製石斧	(9.6)	4.1	1.6	64.7	砂質粘板岩	85
71	E8S 遺構外	打製石斧	(8.5)	6.5	2.7	165	粘板岩	84
72	表土除去中 (試7T~6T間)	打製石斧	9.9	4.5	1.8	101	千枚岩	78
73	E2N・S 攪乱中	打製石斧	11.6	4.2	1.6	84.7	千枚岩	74
74	試9T~8T	打製石斧	14.1	3.8	1.7	112	変質粘板岩	68
75	B区 SB-02周溝	磨製石斧	9.5	5.2	1.8	157	姫川型変性岩	39
76	D区 SB-09	磨製石斧	10.2	6.0	2.3	240	蛇紋岩質	35
77	C区 SB-10	磨製石斧	(7.7)	3.7	1.3	62.6	姫川型変性岩	30
78	D区 SB-11	磨製石斧	(9.8)	5.1	2.5	222	姫川型変性岩	33
79	E区 SB-15炉	磨製石斧	(10.1)	(5.1)	2.6	246	姫川型変性岩 (一部蛇紋化)	38
80	E区 SB-16	磨製石斧	(9.3)	5.7	2.6	240	姫川型変性岩 (一部蛇紋化)	37
81	D区 SK-046	磨製石斧	9.4	(4.7)	2.0	159	姫川型変性岩	28
82	C区 SB-10	磨製石斧	(6.2)	(2.9)	1.1	22.6	透緑閃石岩 (軟玉)	31
83	C区 SB-10	磨製石斧	(6.3)	3.8	1.3	57.9	蛇紋岩質	34
84	D区 SK-046	磨製石斧	(2.2)	(2.0)	0.8	5.8	蛇紋岩質	120
85	D区 SK-046	磨製石斧	(3.1)	(2.3)	(0.8)	6.0	姫川型変成岩	121
86	G区 SP-599	磨製石斧	4.1	2.0	0.5	9.5	透緑閃石岩 (軟玉)	32
87	E2N 遺構外	磨製石斧	(5.2)	3.4	1.7	67.9	緑色変質細砂岩	29
88	E8N 遺構外	磨製石斧	(4.3)	(3.5)	2.1	49.4	凝灰岩	40
89	表土除去中 (試8T~7T間)	磨製石斧	(4.9)	3.5	1.2	36.4	輝緑凝灰岩	36
90	A区 SB-01	磨石類	15.7	4.8	3.2	334	砂岩	100
91	A区 SB-01	磨石類	10.7	9.0	5.8	675	砂岩	108
92	A区 SB-01	磨石類	6.9	6.8	4.2	258	溶結凝灰岩	117
93	B区 SB-02	磨石類	10.6	8.3	3.4	374	砂岩	97
94	C区 SB-05	磨石類	8.5	6.4	4.7	316	安山岩	112
95	C区 SB-06	磨石類	16.0	5.7	3.4	450	砂岩	99
96	C区 SB-06	磨石類	13.9	4.1	3.8	312	砂岩	105
97	C区 SB-06	磨石類	12.8	5.2	3.6	356	砂岩	118
98	C区 SB-06	磨石類	12.0	4.0	2.7	212	砂岩	119
99	C区 SB-09	磨石類	(7.9)	6.1	4.9	294	砂岩	98
100	C区 SB-10	磨石類	11.2	7.1	4.0	500	砂岩	89
101	C区 SB-10	磨石類	8.1	8.0	4.0	322	安山岩	110
102	C区 SB-07	磨石類	10.8	7.8	5.4	525	砂岩	94
103	C区 SB-10	磨石類	15.0	8.9	4.0	765	砂岩	96
104	C・D区 SB-10	磨石類	12.4	5.3	4.0	394	砂岩	111
105	D区 SB-11	磨石類	11.2	7.6	6.3	655	砂岩	93
106	D区 SB-12	磨石類	11.6	5.4	5.8	428	砂岩	91
107	D区 SB-12	磨石類	15.8	5.8	3.2	418	砂岩	103
108	E区 SB-15炉	磨石類	(7.0)	8.6	4.6	328	砂岩	88
109	E区 SB-15	磨石類	11.5	9.6	3.5	525	砂岩	106
110	E区 SB-15炉	磨石類	7.8	6.9	4.4	302	砂岩	114
111	G区 SB-18	磨石類	11.3	7.5	4.8	650	砂岩	90
112	G区 SK-115	磨石類	8.2	6.5	4.2	310	砂岩	116
113	G区 SK-118	磨石類	10.6	7.8	4.1	480	砂岩	109
114	E区 SK-138	磨石類	11.3	5.9	5.5	494	砂岩	95
115	H区 SK-133	磨石類	10.7	6.1	4.9	416	砂岩	113
116	G区 SK-123	磨石類	17.6	5.5	4.6	650	砂岩	92
117	E区 SK-138	磨石類	12.0	7.1	4.4	515	砂岩	104
118	F区 SB-17内Pit	磨石類	13.9	4.5	3.3	296	砂岩	107
119	F区 SP-530	磨石類	6.5	6.1	4.1	232	砂岩	115
120	E9N 遺構外	磨石類	8.8	8.0	4.2	380	砂岩	87
121	G区 SB-18	石皿類	15.3	5.4	3.8	525	砂岩	102

実測図 No.	出土遺構	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	抽出時 No.
122	C区 SB-06	石皿類	20.0	5.3	3.4	645	砂岩	101
123	H区 遺構外	石皿類	14.5	8.4	1.8	398	砂岩	170
124	A区 SK-003	石皿類	24.2	7.7	3.6	1210	砂岩	173
125	C区 SB-06内P10	石皿類	21.7	11.2	5.5	2160	砂岩	172
126	C区 SB-10	石皿類	29.3	14.5	8.0	4240	砂岩	174
127	D区 SB-11	石皿類	(13.7)	(16.9)	3.7	835	砂岩	175
128	C区 SB-09	垂飾	1.5	0.8	0.6	0.8	滑石	125
129	F区 遺構外	垂飾未製品	(6.6)	3.5	2.0	73.8	透緑閃石岩(軟玉)	124
未実測	A区 遺構外	打製石斧	12.2	7.0	2.9	288	千枚岩	75
未実測	C区 SB-08	打製石斧	(9.9)	3.7	1.3	64.7	砂質粘板岩	159
未実測	B区 SB-01	打製石斧	(5.8)	4.7	1.5	70.3	粘板岩	160
未実測	B区 SB-01	打製石斧	8.6	3.2	1.2	50.3	砂質粘板岩	161
未実測	C9S 遺構外	打製石斧	10.7	5.0	1.5	108	粘板岩	162
未実測	E2N 遺構外	打製石斧	(7.0)	4.4	1.3	65.4	泥質凝灰岩	163
未実測	E2S 遺構外	打製石斧	(4.9)	4.1	0.6	25.0	粘板岩	164
未実測	E3S 遺構外	打製石斧	(4.4)	3.6	1.1	41.6	粘板岩	165
未実測	E8N 遺構外	打製石斧	(8.3)	4.0	0.6	44.5	粘板岩	166
未実測	E8N 遺構外	打製石斧	(5.6)	(4.1)	2.4	78.3	粘板岩	167
未実測	E9N 遺構外	打製石斧	10.1	3.3	1.4	70.6	粘板岩	168
未実測	E9N 遺構外	打製石斧	7.5	5.6	1.0	69.2	粘板岩	169
未実測	E区 SK-079	磨製石斧	(2.0)	(1.7)	(0.8)	5.1	変質凝灰岩	126
未実測	C区 SB-06	磨石類	8.4	6.8	(4.1)	282	砂岩	127
未実測	C区 SB-06	磨石類	(8.2)	4.9	3.2	220	砂岩	128
未実測	C・D区 SB-10	磨石類	8.6	6.5	3.4	290	砂岩	129
未実測	D区 SB-12	磨石類	(7.5)	(5.1)	3.6	147	砂岩	130
未実測	E区 SB-15	磨石類	(7.7)	5.0	4.7	320	砂岩	131
未実測	E区 SB-16	磨石類	(7.8)	4.6	3.5	216	砂岩	132
未実測	E区 SB-16	磨石類	(10.1)	(4.2)	3.1	181	砂岩	133
未実測	E区 SB-16	磨石類	(8.5)	7.5	3.2	278	砂岩	134
未実測	G区 SB-18	磨石類	(9.6)	3.5	2.6	155	砂岩	135
未実測	G区 SK-121	磨石類	11.1	5.1	3.7	306	砂岩	136
未実測	F区 SP-485	磨石類	7.8	7.2	3.6	338	凝灰角礫岩	137
未実測	F区 SP-485	磨石類	13.0	5.5	2.8	328	砂岩	138
未実測	A区 SB-01	磨石類	7.9	7.6	3.8	435	砂岩	139
未実測	A区 SB-01	磨石類	8.0	5.3	4.1	222	砂岩	140
未実測	B区 SB-01	磨石類	8.4	6.5	5.0	354	砂岩	141
未実測	C9S 遺構外	磨石類	10.7	5.1	4.3	370	砂岩	142
未実測	C区 遺構外	磨石類	9.9	8.8	6.0	705	凝灰角礫岩	143
未実測	D2N 遺構外	磨石類	14.4	4.3	2.8	294	砂岩	144
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	11.4	8.6	4.2	700	砂岩	145
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	9.2	7.4	4.3	466	砂岩	146
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	8.9	7.2	4.5	446	安山岩	147
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	7.4	6.4	3.3	218	溶結凝灰岩	148
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	13.1	5.4	4.0	412	砂岩	149
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	11.9	7.1	4.1	490	砂岩	150
未実測	E2N・S 攪乱中	磨石類	12.3	5.9	2.0	274	砂岩	151
未実測	E2N 遺構外	磨石類	8.2	7.6	3.8	336	砂岩	152
未実測	E8N 遺構外	磨石類	(8.4)	5.4	3.2	238	凝灰角礫岩	153
未実測	E8N 遺構外	磨石類	(7.9)	4.6	2.6	186	砂岩	154
未実測	E10N 遺構外	磨石類	9.2	8.6	5.4	600	砂岩	155
未実測	H区 遺構外	磨石類	11.9	6.9	3.8	433	砂岩	156
未実測	H区 遺構外	磨石類	(9.9)	5.7	3.4	380	砂岩	157
未実測	表土除去中(試8T~7T間)	磨石類	14.3	5.8	2.9	410	砂岩	158
未実測	B区 SB-02内P42	石皿類	22.4	11.3	4.1	1590	砂岩	171
未実測	G区 SB-18	垂飾未製品?	3.3	2.7	1.6	23.4	透緑閃石岩(軟玉)	176

※ カッコ付数値は、破損品のため現存長で計測の値。

※ 重さの数値、100g未満:0.1g単位、100~500g:1g単位、500~1000g:5g単位、1000g超:10g単位。

② 石器 (第40図～第45図、第4表)

今回の調査で出土した石器のうち、定型的な石器である127点を図化掲示した。その個々については観察表を参照いただきたい。その中でもSB-10より出土した石槍は、希少なので取り上げて記述したい。

SB-10のほぼ床面上から出土し、黒曜石製で長さ10.5cm、幅3.9cm、厚さ1.6cm、重さ52.7gを測る。中期の石槍に関しては小林康男氏の研究がある。長野県内で15点発見されており、淀の内遺跡と殿村遺跡に各1点あるとの事なので、本例が村内3点目となる。狩猟の道具が弓矢に移行した中期段階での石槍は、石鏃の出土量に比較して極端に少なく、大形で優美な形状であり、出土場所は住居址の床面上が多く、その地域の拠点とも言える大集落から出土していることから、実用に供されたというより、非実用的な何らかの儀式的道具として用いられた可能性が強いと推察された。ただし県内他の出土例は、ほぼ中期後葉に帰属するが、本例は中期中葉井戸尻式に帰属する点、他例とは異なる。

③ 土偶 (第34図)

計4点が出土した。土1は、SB-06覆土中から出土した頭部の資料である。顔の表現が沈線によって描かれ、背面には粘土を撚紐状にし2本を把手の様に貼付してある。耳の部分は両方とも剥がれており、体部との接合面には接合芯材穴が1つ見られる。土2・4は脚部の資料で、両者とも右脚と思われる。土2はE8N区遺構外、土4はSB-11覆土中より出土した。土2には沈線による縦への施文が見られるが、土4は無文である。両者とも体部との接合面に接合芯材穴があり、土4は脚の裏まで貫通している。土3はC9N区遺構外から出土した体部の資料である。左肩の部分を大きく破損しているが、左胸が高まり状に表現され、前後面とも沈線による装飾がされている。両腕、体部下半、頭部との接合面にはいずれも接合芯材穴が1つ認められる。

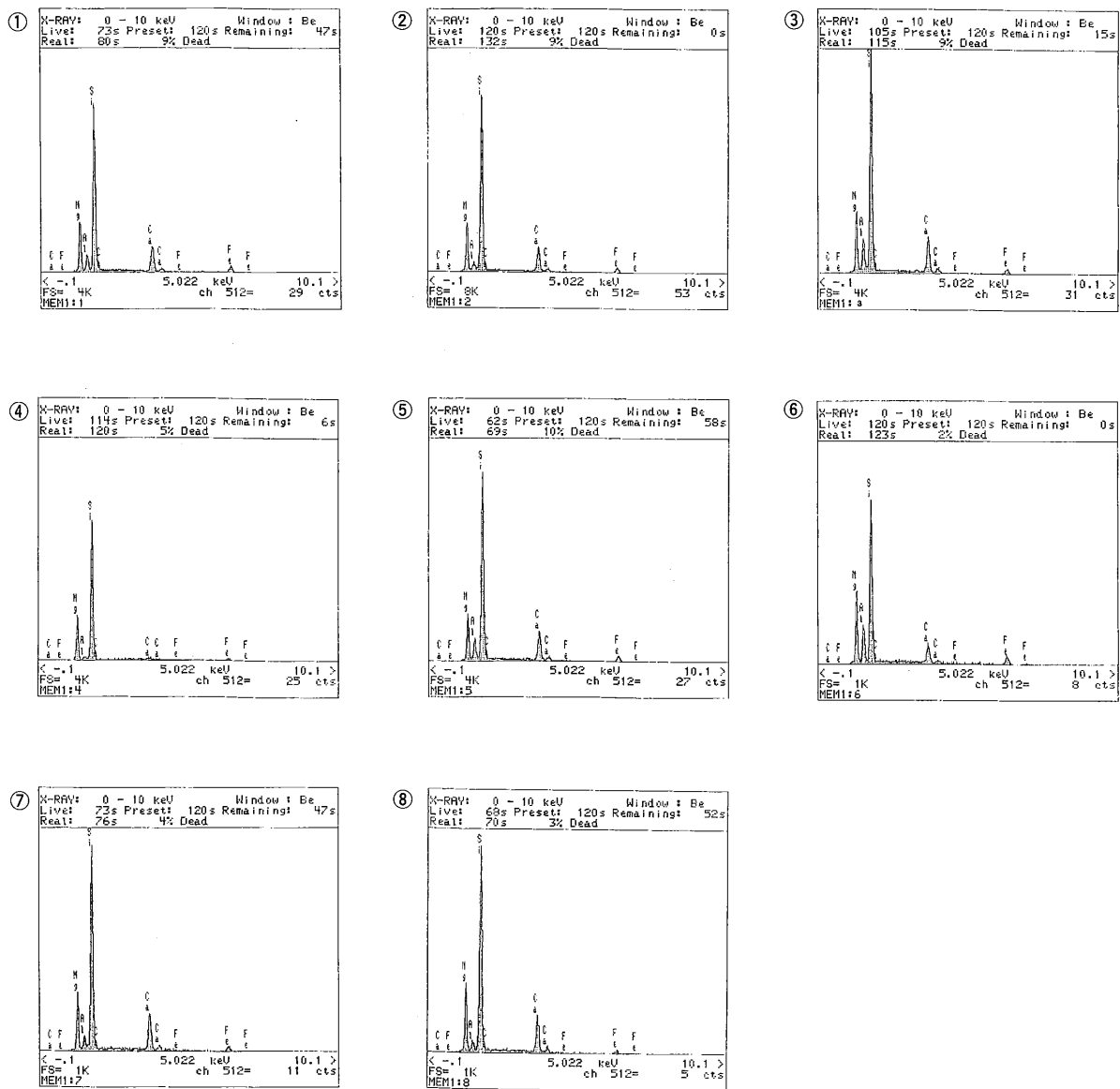
④ 石製品 (第45図)

2点が出土した。128はSB-09覆土中から出土した滑石製の垂飾で、長さ1.5cmと小さい。真中からやや上の箇所、紐を括り付けたであろう切れ込みが両側から挟られている。129はF区遺構外から出土した垂飾の未製品で、石材は透緑閃石岩(軟玉)である。上部は被熱によると思われる風化で白くなっており欠損しているが、長さ6.6cm、重さ73.8gと大珠クラスの大きさである。紐を通すための孔は穿孔途中で止まっており、2孔が重なって認められる。孔の先端は丸く弧を描く断面形状であり、棒錐を用いたのではないかと考えられる。

さて両者の石材とも山形村周辺にはないもので、遠方から運び込まれた石である。よってその石材が何であるのか確定させることは重要と思えたので、科学的分析を実施した。分析は新潟県糸魚川市フォッサマグナムミュージアムの宮島宏氏に依頼した。同館蔵の日本電子製走査型電子顕微鏡に、オックスフォード社製エネルギー分散型X線スペクトロメーターを取り付けたX線マイクロアナライザーにより、岩石構成元素の定性分析(略称:EPMA)を行った。分析対象はこの2点に加え、SB-18出土の垂飾未製品らしき石、肉眼鑑定で軟玉質と判断された磨製石斧、また軟玉質の磨製石斧が含まれているなら、他遺跡の磨製石斧は如何なものかと感じたので、淀の内遺跡出土の磨製石斧も加えた。分析によって得られたEPMA分析チャートを第46図に、分析によって得られた岩石名と遺物の属性を第5表に記載した。結果128の垂飾が滑石、あとはすべて透緑閃石岩(軟玉)との結果を得た。透緑閃石岩(軟玉)と結果が出た磨製石斧は、一見蛇紋岩と見えるもので、考古学では蛇紋岩として認識されているが、鉱物学から言えば透緑閃石岩(軟玉)と呼ぶ岩石が含まれているということだろうか。いずれにせよこれら磨製石斧は、糸魚川市周辺で加工されたものが広く各地へと運ばれたという認識に変わりはなく、129の垂飾未製品等も同様に当遺跡へもたらされたと考えてよからう。

【報告書作成に際し引用及び参考にした主な文献】

- 岡谷市教育委員会 1996 『花上寺遺跡』
- 御代田町教育委員会 1997 『川原田遺跡』
- 松本市教育委員会 1990 『松本市坪ノ内遺跡』
- 松本市教育委員会 1991 『松本市南中島遺跡』
- 松本市教育委員会 1997 『小池遺跡Ⅱ 一ツ家遺跡』
- 長野県埋蔵文化財センター 1988 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2』塩尻市内その1
- 長野県埋蔵文化財センター 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書24』更埴市内その3
- 三上 徹也 1986 「中部・西関東地方における縄文時代中期中葉土器の変遷と後葉土器への移行」『長野県考古学会誌』51
- 三上 徹也 1998 「長野県における中期中葉土器から後葉土器への移行と問題点」『第11回縄文セミナー 中期中葉から後葉の諸様相』
- 小林康男 1999 「縄文時代中期の石槍」『平出博物館紀要』第16集
- 谷井 彪 2001 「中部地方中期中後半土器群と加曾利E式土器」『長野県考古学会誌』97
- 縄文セミナーの会 1990 『第4回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』
- 山形村教育委員会 1981 『山形村遺跡発掘調査報告書第3集 三夜塚遺跡』
- 山形村教育委員会 1982 『山形村遺跡発掘調査報告書第4集 神明遺跡 三夜塚遺跡』



第46図 EPMA分析チャート

第5表 分析遺物一覧表

番号	出土箇所	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	岩石の名前	実測図 番号
1	三夜塚Ⅲ G区 SP-599	磨製石斧	4.1	2.0	0.5	9.5	透緑閃石岩 (軟玉)	86
2	三夜塚Ⅲ C区 SB-10	磨製石斧	(6.2)	(2.9)	1.1	22.6	透緑閃石岩 (軟玉)	82
3	三夜塚Ⅲ G区 SB-18	垂飾未製品?	3.3	2.7	1.6	23.4	透緑閃石岩 (軟玉)	未実測
4	三夜塚Ⅲ C区 SB-09	垂飾	1.5	0.8	0.6	0.8	滑石	128
5	三夜塚Ⅲ F区 遺構外	垂飾未製品	(6.6)	3.5	2.0	73.8	透緑閃石岩 (軟玉)	129
6	淀の内Ⅳ 4区 遺構外	磨製石斧	(10.4)	5.7	2.4	258	透緑閃石岩 (軟玉)	—
7	淀の内Ⅳ 4区 遺構外	磨製石斧	10.5	5.2	2.0	204	透緑閃石岩 (軟玉)	—
8	淀の内Ⅳ 2区 SB-05	磨製石斧	(14.2)	6.6	3.0	444	透緑閃石岩 (軟玉)	—

IV まとめにかえて

昔から三夜塚遺跡は、松本平最大規模の縄文中期遺跡とも言われるほど注目を浴びていたが、遺跡の中心を詳細に発掘したことがなかったため、その内容は謎に包まれたままであった。今回内容を伺う機会を得た訳で、遺跡を知る上で大変貴重な多くの遺構・遺物が発見された。とは言うものの、考えてみれば遺跡の規模は広大で、800m余の調査範囲は遺跡全体の1%にも満たない範囲である。遺跡の範囲、継続時期等まだまだ分からないことだらけであり、これだけの資料でも調査に悪戦苦闘したのに、まだその100倍の資料が埋もれているかと思えば、やはりこの遺跡の巨大さと、更なる発見の大きな可能性を秘めていると言えよう。とはいえ、得られた資料からこの遺跡の様子を少しでも探りまとめとしたい。

今回の調査では縄文時代中期中葉から後期前葉までの遺物が出土した。中期中葉は井戸尻式に限られ、この期に帰属する遺構は調査範囲でもA～C区と東寄りに多い。中期後葉でも唐草文土器最盛の後葉Ⅲ期の住居址は、多少不明な点もあるが10基と一番多く発見された。これらはC～E区と調査区中央付近に多い。そして中期末の遺構は、土壙が中心ではあるが調査区西寄りのF～H区に多い。このような傾向が伺え、時期によって住む場所を移動させていたのではないかと推測される。Ⅱ章でも触れたが、唐沢川は流路を度々変えていたと考えられるので、これに応じ最適な立地条件を選んだ結果と思われる。その中でも中期後葉、最も多くの住居址が検出された時期について、もう少し触れてみたい。住居址の全容を調査できたものはないが、推察できる住居址の入口方向を上げてみたい。SB-06は埋甕がある南側、SB-07は炉址が北東に寄っているので南西側、SB-08は炉址が北に寄っているので南側、SB-11は南東部分に張り出した箇所を認め、炉址が北西に寄っているので南東側、SB-12は炉址が北西に寄っているので南東側、SB-14は炉址が北に寄っている印象なので南側、SB-15は炉址が北西に寄っているので南東側、SB-16は埋甕が南端にあるので南側と、南方向に入口を持つ住居が大半である。この期の集落形態は、中央に広場を持つ環状集落となるのが一般的であるので、上記の傾向を考えると、今回の検出の住居址は環状集落の北側に該当し、南側に当期の集落が大きく展開しているのではないかと推察される。そして集落の北側に水辺があるというイメージできよう。とはいえ三夜塚遺跡の範囲は広く、唐沢川旧流路の北側の箇所でも多くの遺物が採取されている。水辺を挟んで両岸に集落が立地していたこと等、今回の成果だけでは伺い切れない点もある。

出土遺物について次に触れたい。中期段階での黒曜石製石槍は県内でも類例が少ない希少な資料で、注目すべき発見であった。山形村においては3例目の発見であり、県内出土資料の1/5弱が本村にある。帰属時期にズレがあるが、地域の大きな集落を持つ儀式用の道具と考えられていることから言えば、淀の内遺跡、殿村遺跡、三夜塚遺跡はやはり西山山麓の拠点集落だということになろう。SK-099出土の釣手付深鉢は、ほぼ完形の大変美しい土器である。このタイプの土器は長野県を中心として、中期後葉から後期初頭に帰属する資料が知られるところだと思うが、これだけ残存状態が良い資料はほとんど知らない。大変に貴重な優品であろう。SX-001出土の後期初頭称名寺式土器は完形品ではないが、ほぼ器形を伺える資料である。松本平でも数が少ない土器で、資料を積み重ねることができたのは注目すべき成果であろう。またSB-09出土の北陸系上山田式の破片資料は、類例が少なく交流を物語る資料である。

以上簡単ではあるが、今回確認された遺構・遺物について若干の考察をした。かなり調査担当者の私見が含まれている様に思え、おかしな点も多々あろう。先述の遺構・遺物の解説も、浅学であり解釈を誤ったものがあるかもしれない。一読後御指導御教授いただけたら幸甚に思います。

今回の発掘調査は夏の期間であり、暑さは十分覚悟の上臨んだつもりであったが、この夏の暑さは記録的な猛暑で、35℃を超える日が連続するという大変厳しい条件であった。毎日作業に従事する者が倒れないかと心配しつつも、調査遂行のため無理を強いた事も多かったと反省している。本当に頭が下がる思いである。整理作業に携わっていただいた方々には、慎重を期す細かい作業に幾日も携わっていただき、整理作業をスムーズに進行できた。また農道沿線の農家の方々には、農繁期の作物生育にかかわる大切な時期に不便を我慢いただき、調査に御協力いただいた。最後になりましたが、御理解と御協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げ、本書を締めくくりたい。



調査前風景



遺構検出状況



遺構検出状況



完掘後全景



完掘後全景



SB-08 (北から)

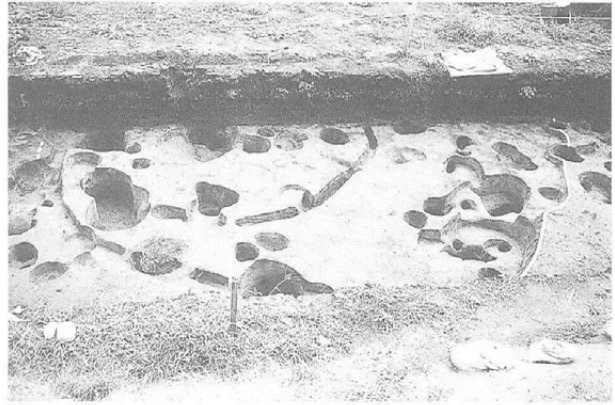


SB-12 (北から)

写真図版 4



SB-01 (東から)



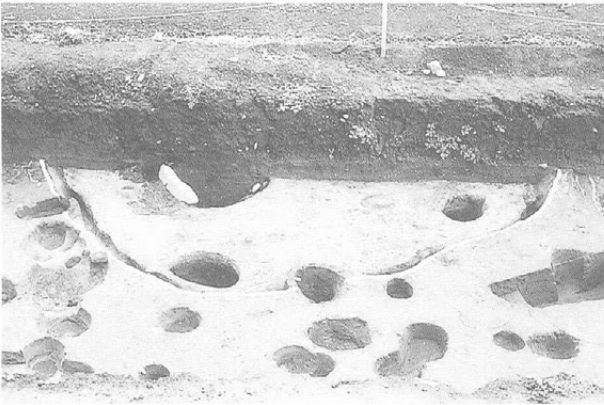
SB-02 (北から)



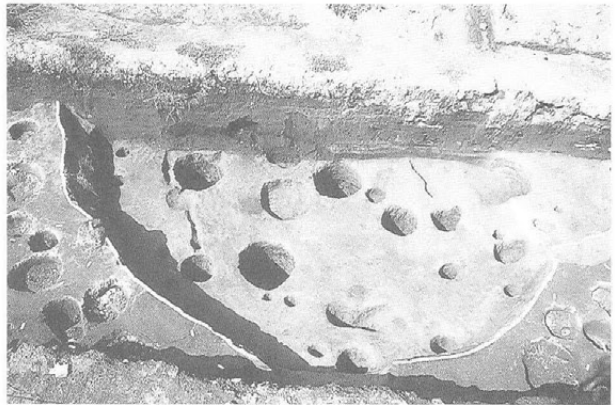
SB-05 (北東から)



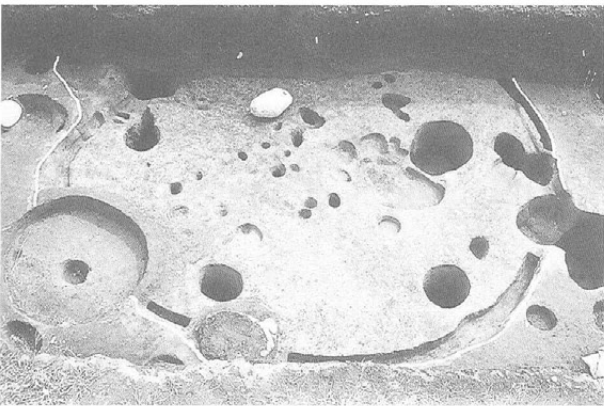
SB-06 (南から)



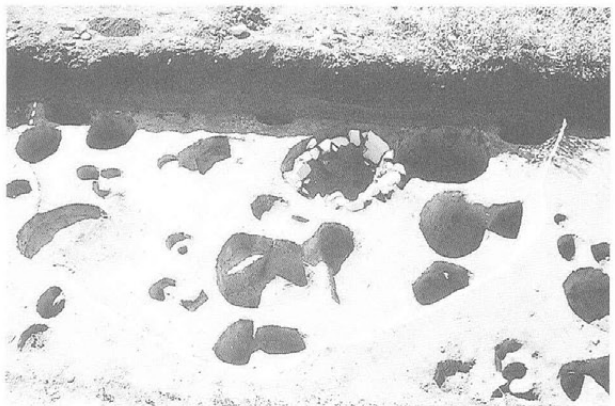
SB-07 (北から)



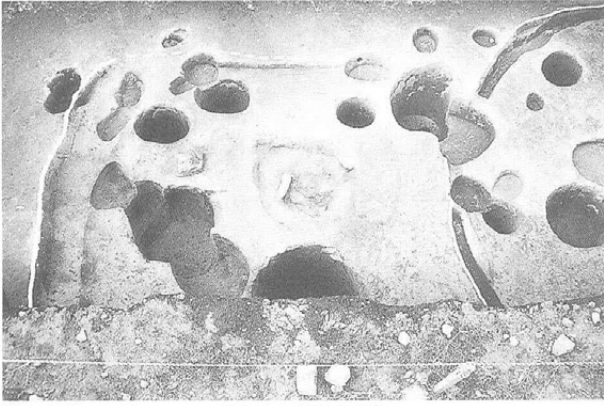
SB-10 (南から)



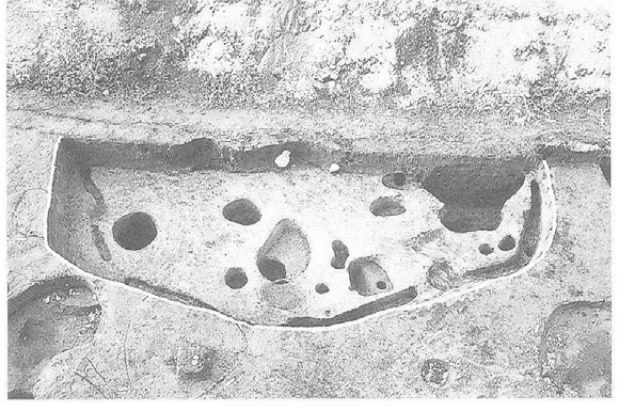
SB-11 (北から)



SB-12 (北から)



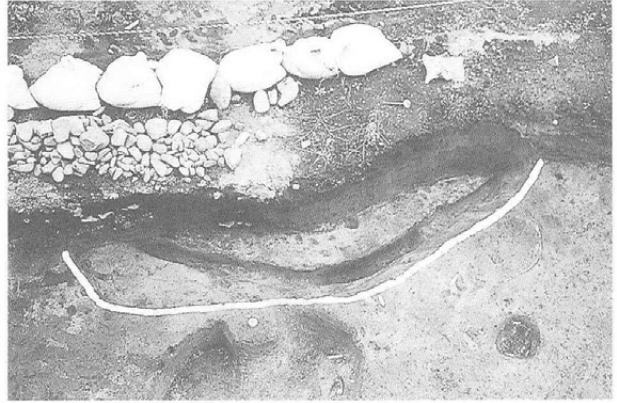
SB-14 (南から)



SB-16 (南から)



SB-18 (南から)



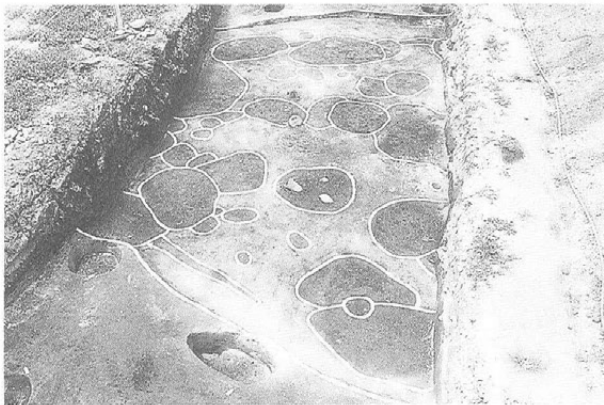
SB-20 (南から)



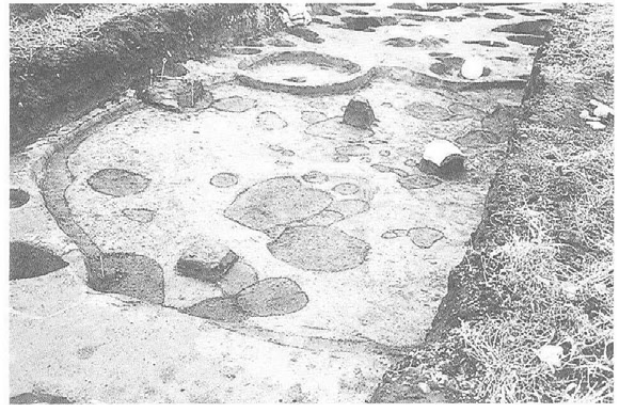
SB-01 検出状況 (北東から)



SB-16 土層断面 (西から)



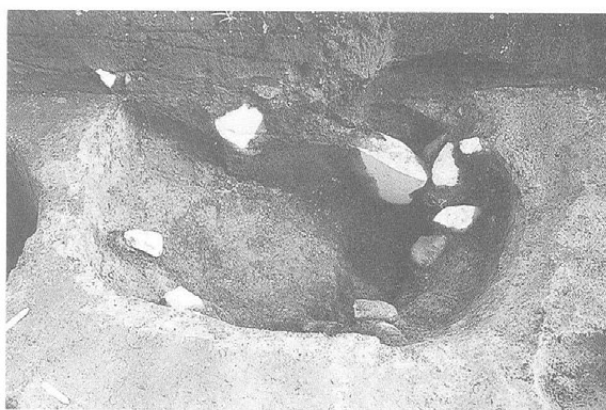
SB-01 床面精査状況 (東から)



SB-11 床面精査状況 (西から)



SB-07 炉址



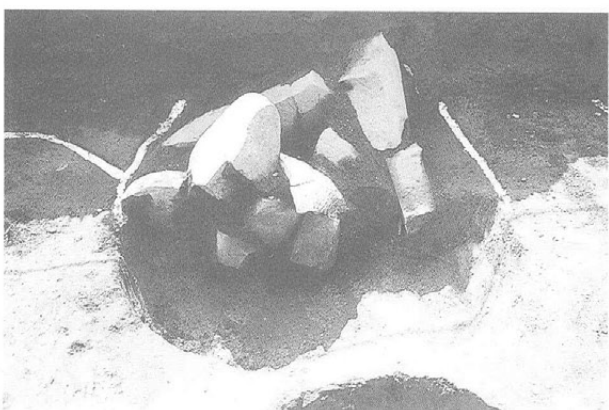
SB-08 炉址



SB-14 炉址



SB-15 炉址



SB-18 炉址



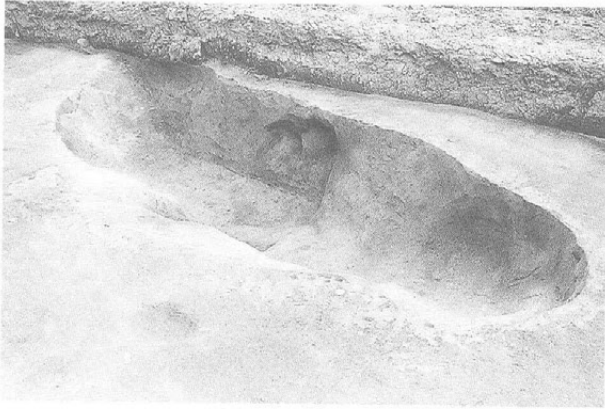
SB-02 埋甕



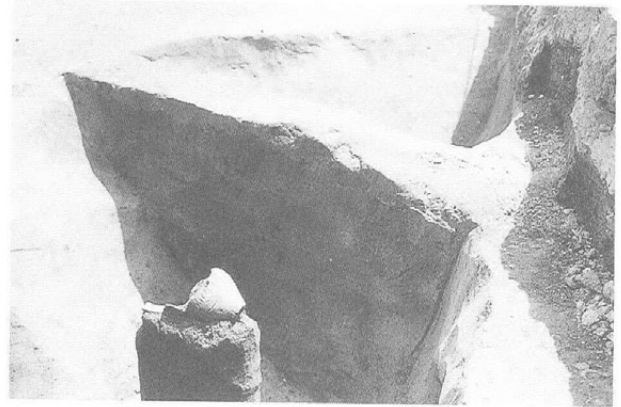
SB-06 埋甕



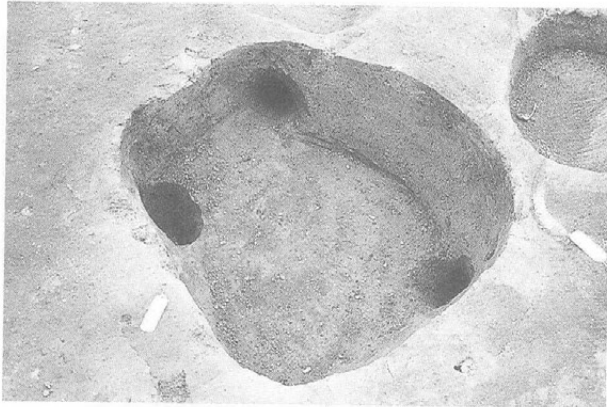
SB-16 埋甕



SX-001 (北から)



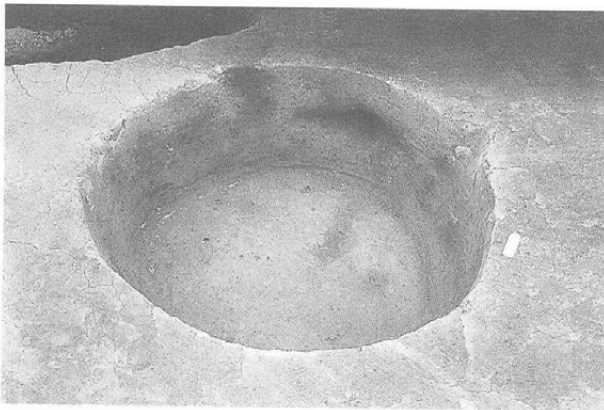
SX-001 出土状況 (西から)



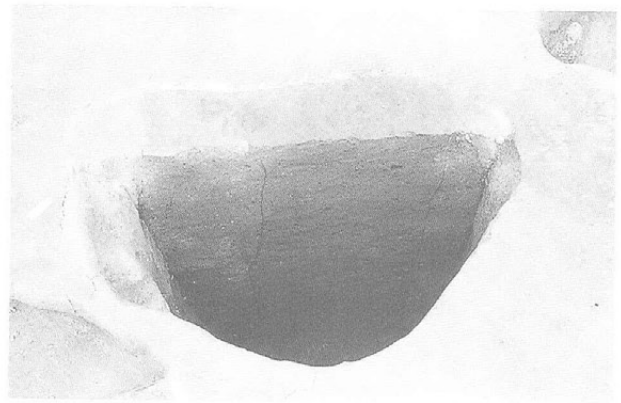
SK-016 (北西から)



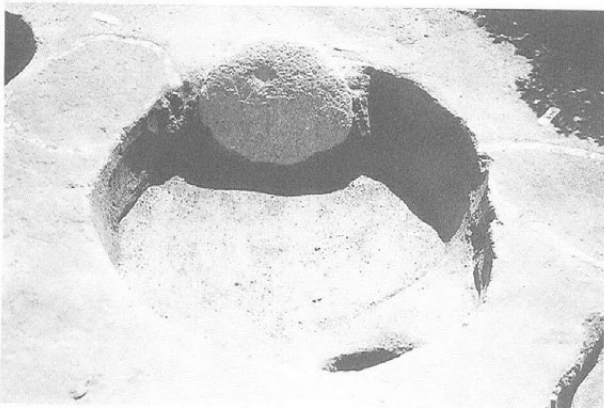
SK-017 (南から)



SK-022 (北から)



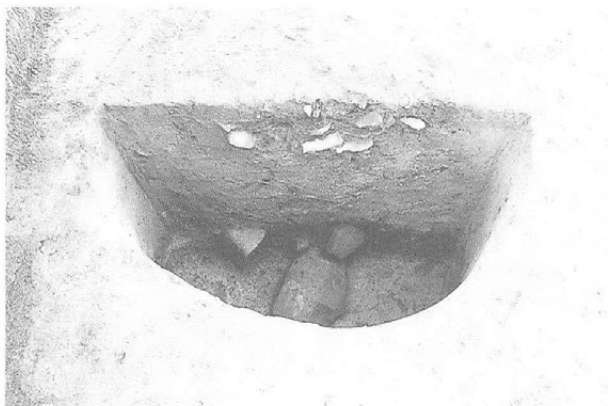
SK-029 土層断面



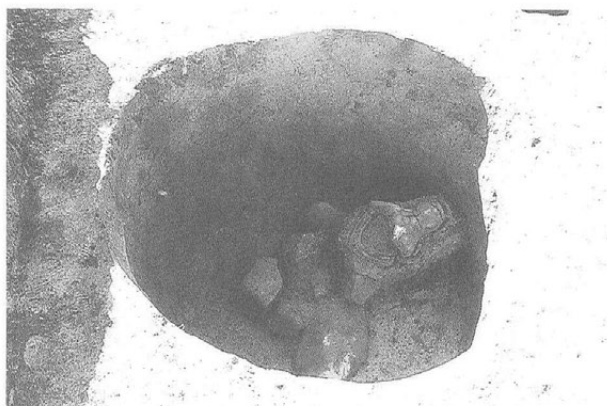
SK-050 (西から)



SK-128 (北から)



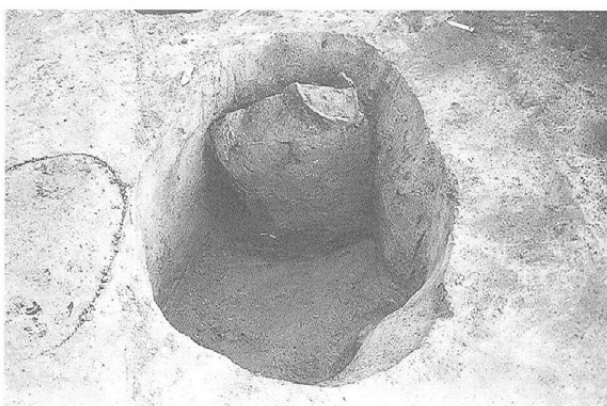
SK-099 土層断面



SK-099 出土状況



SK-105 土層断面



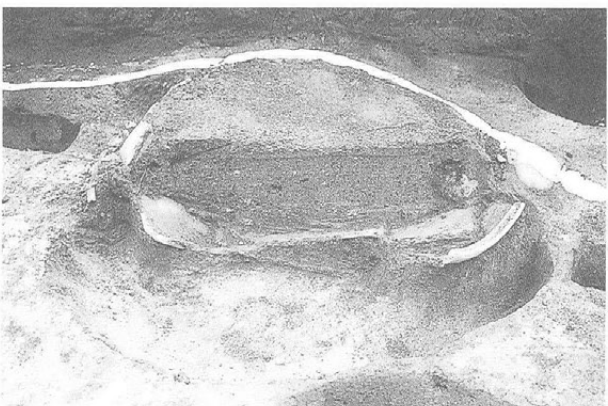
SK-108 出土状況 (西から)



SK-114 出土状況 (西から)



SK-115 (西から)



SK-144 土層断面



SK-146 出土状況 (西から)



SB-01 出土状況



SB-01 出土状況



SB-08 出土状況



SB-10 出土状況



表土除去風景



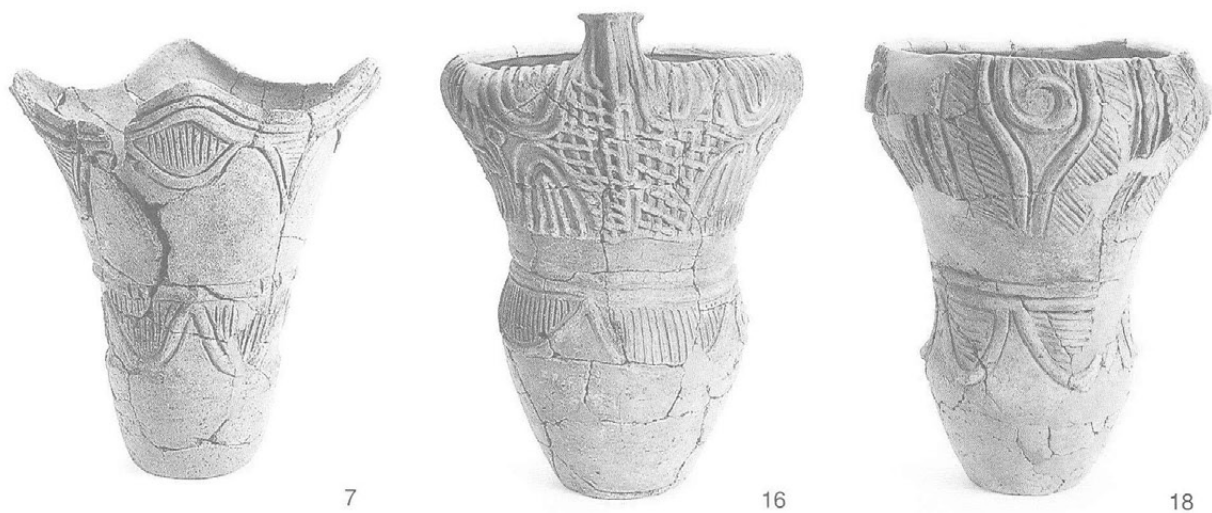
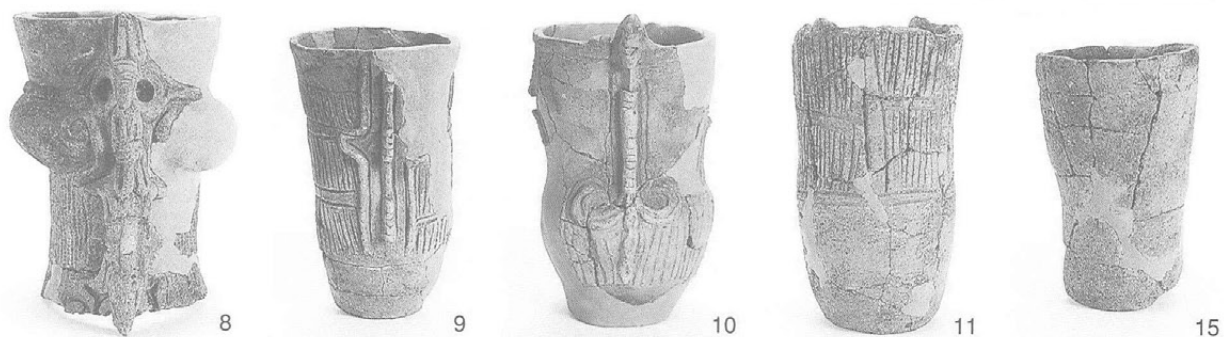
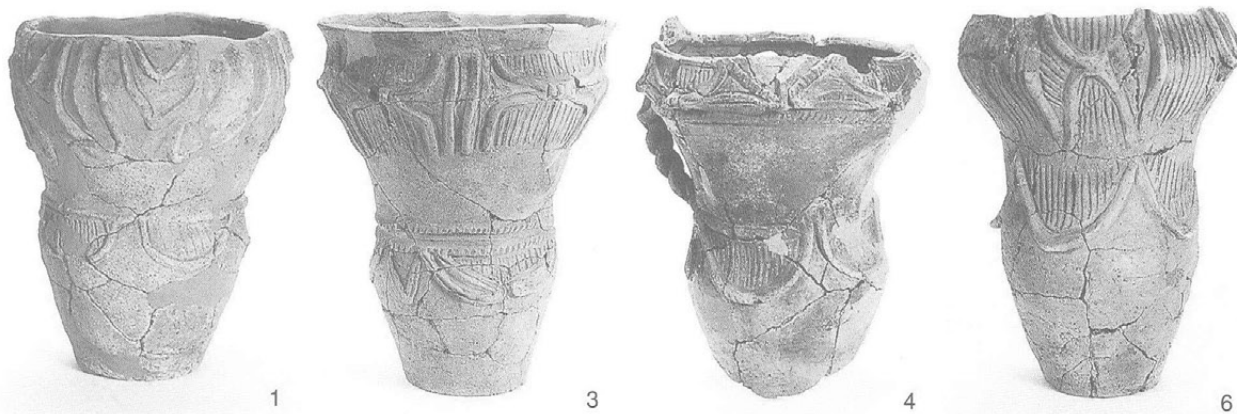
作業風景



作業風景



整理作業風景



縄文土器 (1)



20



13



34



35



36



21



81



14



33



38



70



133



12



41



45



94



134



77



76



107



115



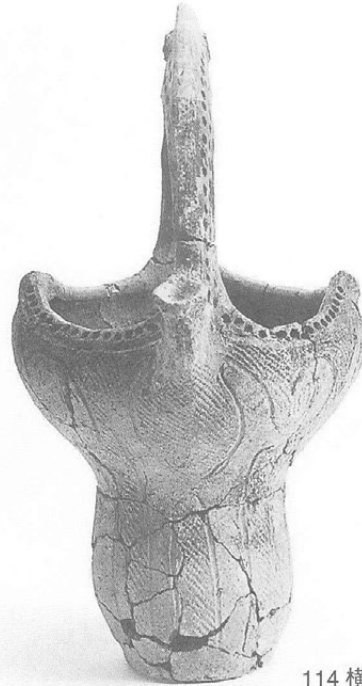
117



116



114



114 横



97



95



60



102



拓71

縄文土器 (4)



拓79

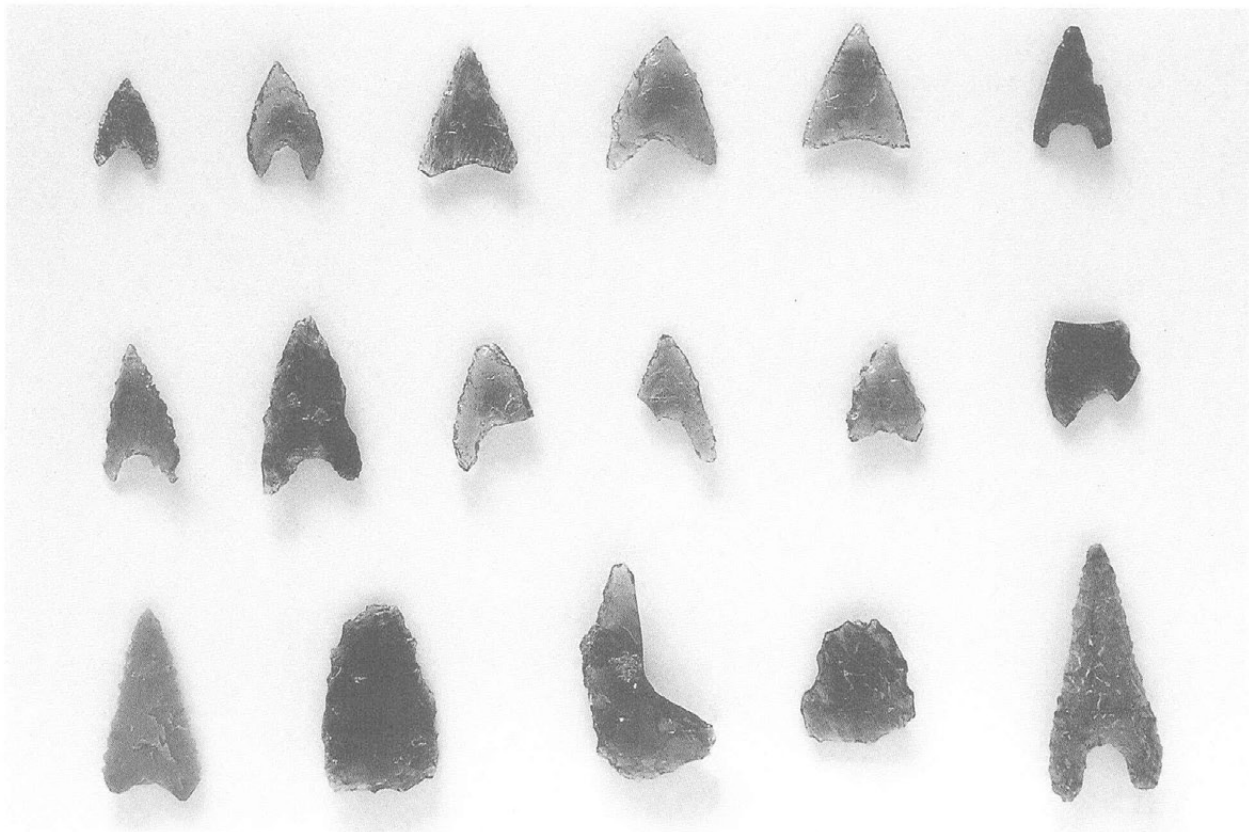


北陸系の土器



土 偶

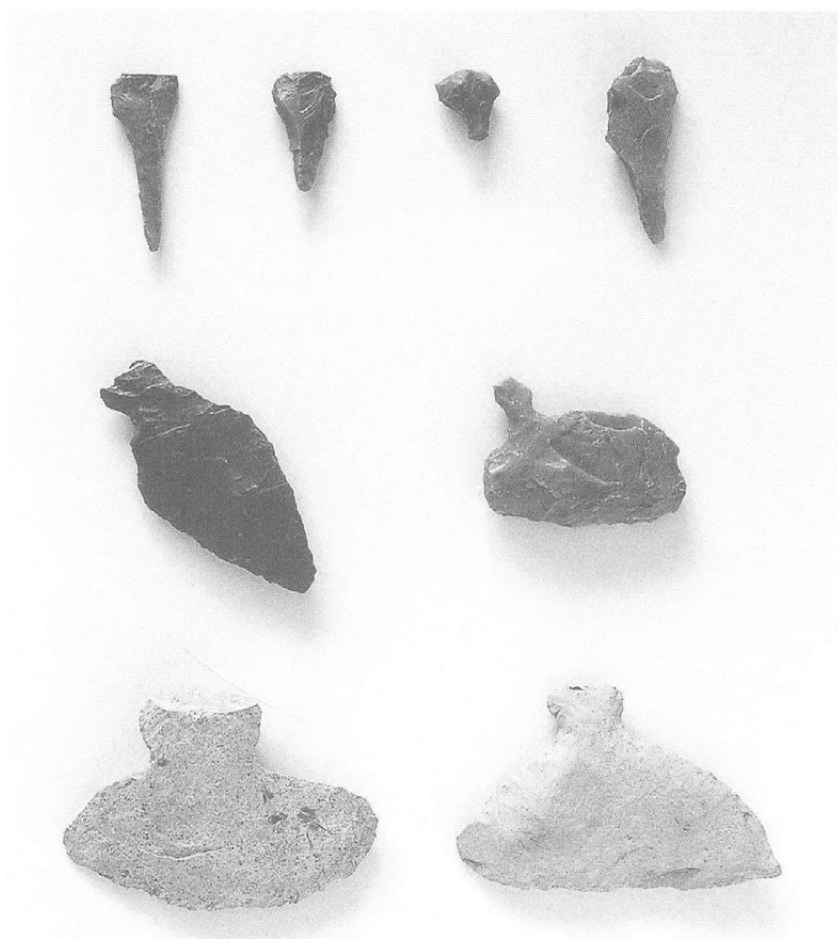




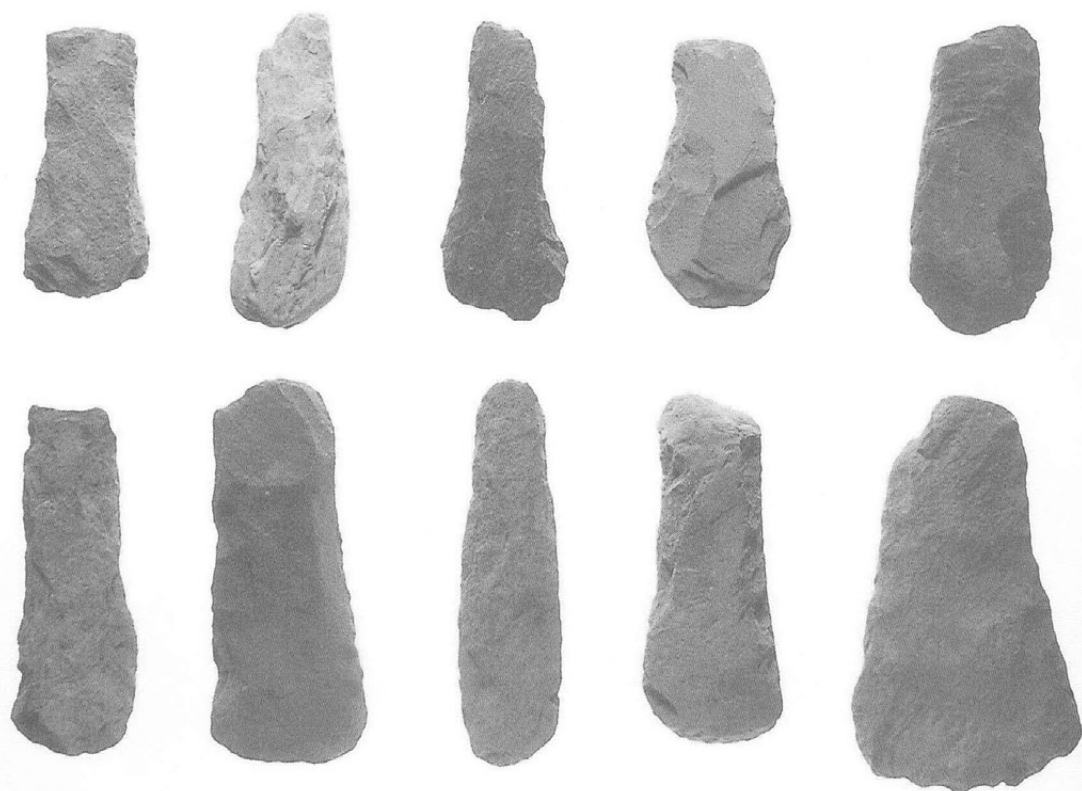
石 鏃



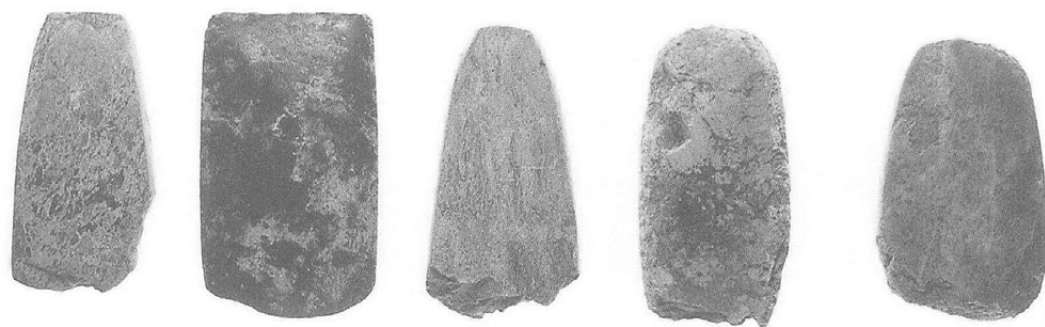
石 槍



石 錐 ・ 石 匙



打製石斧



磨製石斧



磨石類



透緑閃石岩(軟玉)製
大珠未製品

石皿類

報告書抄録

ふりがな	さんやづかいせきⅢ							
書名	三夜塚遺跡Ⅲ							
副書名	農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	山形村教育委員会							
編集機関	山形村教育委員会							
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256							
発行年月日	2002年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三夜塚	長野県 東筑摩郡 山形村 5940-2	204501	28	36° 11′ 05″	137° 53′ 24″	2001.06.29 ～ 2001.09.22	820㎡	農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三夜塚	集落跡	縄文	竪穴式住居址	20	縄文時代中期土器・石器	本遺跡の中心部をはじめて調査。縄文中期中葉井戸尻式から後葉、後期初頭にかけて多くの資料を発見するに至る。		
			土 窟	148	釣手付深鉢			
			ピ ッ ト	631	釣手土器 黒曜石製石槍 垂飾未製品			

三夜塚遺跡Ⅲ

- 農道環境整備事業（三夜塚地区）に伴う緊急発掘調査報告書 -

平成14年3月25日 印刷

平成14年3月31日 発行

発行 山形村教育委員会

印刷 カシヨ株式会社



三
行
法
法
法
法
法

長
里
真
山
所
林
孝
順
堂
金